

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第201集

野中天神遺跡

一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集

1996

建 設 省
群 馬 県 教 育 委 員 会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

寄贈





群馬県議会

様

8.11.5
19

野中天神遺跡正誤表

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第201集

頁	行	誤	正
107			
139			
184		図2 野中天神遺跡竪穴住居編遷図	図2 野中天神遺跡竪穴住居変遷図
//	24	群馬県 地域	群馬県地域
//	26	第24号	第24号

資料 (財)群馬県埋蔵文化財
調査事業団保管
No. 98-4527 平成10年5月13日

01-353
572
1(7)

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第201集

NO NAKA TEN JIN
野 中 天 神 遺 跡

一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集

1 9 9 6

建 設 省
群 馬 県 教 育 委 員 会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道50号は、前橋市を起点として、茨城県水戸市に至る延長152kmの主要幹線道路です。このうち前橋市天川大島町から今井町にかけての東前橋地域は、かねてより交通渋滞が激しく、これを緩和するために、また道路交通の安全確保を図るために、今井町の上武道路と交差する地点から天川大島町間の5.1kmの現道拡幅工事が昭和63年度より始まり、既に工事も終了して供用されています。工事着工に伴い工事区域内に所在する埋蔵文化財発掘調査も始まり、今井白山、今井道上、筑井八日市、野中天神の4遺跡の発掘調査が平成4年度まで行われました。

これらの遺跡のうち今井白山遺跡は平成4年度に、筑井八日市遺跡・今井道上遺跡は平成5年度に調査報告書を刊行しました。これらについて野中天神遺跡の整理作業が完了しましたので、ここに調査報告書を刊行することにしました。

本報告書には、利根川の旧流路の微高地上と低地に営まれた古墳時代から平安時代にかけての集落と水田跡が報告されています。従来この地域には遺跡が存在しないと考えられていました。しかし、本遺跡等の発掘調査により本地域にも遺跡が存在することがわかりました。本報告書は、本地域の歴史を見直す上で貴重な資料になるものと思います。

発掘調査から報告書作成に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者の方々から種々、ご指導、ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願ひ序とします。

平成8年 2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

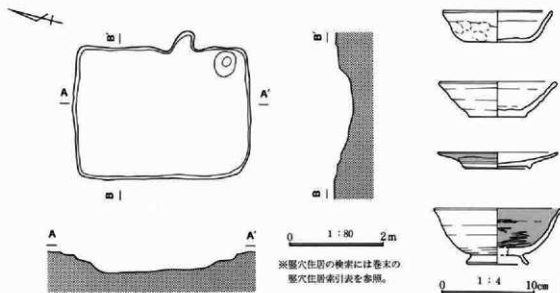
例 言

- 1 本書は一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う、野中天神遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は群馬県前橋市野中町字天神407番地他、上長磯町213番地他に所在する。
- 3 本遺跡の名称は、遺跡所在地の町名と字を併記して「野中天神遺跡」と呼称し、上長磯町に所在する遺跡についても一進のものと判断して同遺跡に含めた。
- 4 事業主体 建設省関東地方建設局
- 5 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 調査期間 昭和63年10月20日～平成元年3月31日(昭和63年度)
平成元年10月2日～平成2年3月31日(平成元年度)
平成2年11月20日～平成2年12月28日(平成2年度第1次)
平成3年1月23日～平成3年2月18日(平成2年度第2次)
平成3年4月16日～平成3年7月15日(平成3年度第1次)
平成3年10月16日～平成4年1月15日(平成3年度第2次)
平成4年5月17日～平成4年5月29日(平成4年度)
- 7 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
常務理事 白石保三郎(昭和63年度) 邊見長雄(平成元～4年度)
事務局長 松本浩一(昭和63～平成3年度) 近藤 功(平成4年度)
管理部長 田口紀雄(昭和63～平成2年度) 佐藤 勉(平成3・4年度)
調査研究部長 上原啓巳(昭和63年度) 神保佑史(平成元～4年度)
庶務課長 住谷 進(昭和63・平成元年度) 岩丸大作(平成2・3年度)
斎藤俊一(平成4年度)
調査研究部課長 桜場一寿(昭和63・平成元年度) 能登 健(平成2～4年度)
事務担当 国定 均 笠原秀樹 小林昌嗣 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 船津 茂
高橋定義 野島のぶ江 今井もと子 松下 登 角田みづほ 松井美智代
調査担当 昭和63年度 飯田陽一(主任調査研究員) 飯塚 誠(主任調査研究員)
関根慎二(調査研究員) 樋口伸男(調査研究員)
平成元年度 飯島義雄(専門員) 石北直樹(主任調査研究員)
神谷佳明(主任調査研究員) 樋口伸男(調査研究員)
平成2年度 飯島義雄(専門員) 石北直樹(主任調査研究員)
神谷佳明(主任調査研究員) 黒田 晃(調査研究員)
平成3年度 坂口 一(主任調査研究員) 徳江秀夫(主任調査研究員)
(第1次) 井上昌美(調査研究員)
平成3年度 坂口 一(主任調査研究員) 井上昌美(調査研究員)
(第2次) 関口博幸(調査研究員)
平成4年度 洞口正史(主任調査研究員) 徳江秀夫(主任調査研究員)
井上昌美(調査研究員)
- 8 整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 9 整理期間 平成5年4月1日～平成7年3月31日
- 10 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 常務理事 中村英一
 事務局長 近藤 功
 管理部長 佐藤 勉(平成5年度) 蜂巣 実(平成6年度)
 調査研究部長 神保佑史
 庶務課長 齊藤俊一(平成5年度)
 総務課長 齊藤俊一(平成6年度)
 調査研究第2課長 能登 健(平成5年度)
 調査研究第4課長 中束耕志(平成6年度)
 事務担当 国定 均 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 船津 茂 高橋定義
 松下 登 今井もと子 角田みづほ 松井美智代 塩浦ひろみ 大澤友治
 星野美智子 羽鳥京子 菅原淑子
 整理担当 坂口 一(専門員)
 整理班員 阿部和子 及川美保子 狩野フミ子 島崎敏子 島村玲子 関みどり
 高橋里佳 橋爪美頼 福島和恵 星野春子
- 11 本書作成の担当者は次のとおりである。
- 編 集 坂口 一
 執筆 IV章 関根慎二(群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員)
 V章 噴砂跡 飯島義雄(群馬県立歴史博物館 学芸員)
 井上昌美(群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査研究員)
 陶磁器観察 大西雅広(群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員)
 上記以外 坂口 一
- 遺構・遺物図面整理、図版作成等
 阿部和子 及川美保子 狩野フミ子 島崎敏子 島村玲子 関みどり 高橋里佳 橋爪美頼
 福島和恵 星野春子
- 遺物写真 佐藤元彦
 保存科学 関 邦一 小村浩一 土橋まり子 小沼恵子
- 12 出土遺物と、野中天神遺跡に関する整理済み記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 13 本書の作成にあたっては、次の方々に有益な指導と助言を賜った。記して深甚なる感謝の意を表す次第である。
- 赤山容造 新井喜昭 飯島静男 飯島義雄 石本 弘 白居直之 江浦 洋 工業普通 小林正春
 佐藤明人 須永光一 早田 勉 外尾常人 武末純一 田中清美 田辺昭三 橋本澄朗 前原 豊
 三浦京子 柳沼賢治 梁木 誠 (敬務略)

凡 例

- 1 調査区域には、国家座標に基づいて4m間隔のグリッドを設定した。グリッドの原点(AA-00)は日本平面直角座標系第IX系の $X=41.500\text{km}$ 、 $Y=-63.700\text{km}$ で、グリッドの国家座標上における位置は、付図1「遺跡位置図」に示した。
- 2 住居の方位は、電が付設された壁、あるいは電が付設されていたと推定される壁に直行する軸線の、真北に対する傾きを示し、時計回りを+、反時計回りを-とした。
- 3 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。
 - (1) 胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理研究会による基準に従い、細砂粒($<0.5\text{mm}$)、粗砂粒($0.5\sim 2.0\text{mm}$)、細礫($2.0\sim 5.0\text{mm}$)、中礫($5.0\text{mm}>$)とした。
 - (2) 色調は農林省水産技術会議事務局監修、(財)日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に従った。
 - (3) 遺物の出土レベルは、遺構の床面から遺物までの垂直距離を示した。
- 4 竪穴住居の面積は、1/40図上でプランメーターによる3回の計測平均値を採り、住居確認面の掘り込みから内側を測定した。



竪穴住居外形分類基準

上 段：長軸長(単位 m)
下 段：長軸比(長軸長/短軸長)

規模	形状	正 方 形	縦 長 長 方 形	横 長 長 方 形
超 大 形		6.5m以上	6.5m以上	6.5m以上
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
大 形		5.4~6.5m未満	5.4~6.5m未満	5.4~6.5m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
中 形		4.3~5.4m未満	4.3~5.4m未満	4.3~5.4m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
小 形		3.2~4.3m未満	3.2~4.3m未満	3.2~4.3m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
超 小 形		3.2m未満	3.2m未満	3.2m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上

目 次

序	i
例言	iii
凡例	v
報告書抄録	vii
I 発掘調査と遺跡の概要	
1 調査の経過	1
2 遺跡の位置と地形	2
3 周辺の遺跡	3
4 遺跡の標準土層	5
II 竪穴住居	6
III 掘立柱建物	99
IV 水田・畠	106
V 中世屋敷跡	114
VI その他の遺構（墓跡・井戸・溝・土壇・噴砂跡）	117
VII 考 察	
野中天神遺跡の集落変遷について	182
遺構索引表	185
別 冊	
遺物観察表	
付 図	
1 遺跡位置図 (1/1,000)	
2 遺構全体図 (1/600)	
3 水田詳細図 (1/200)	

報 告 書 抄 録

ふりがな	のなかてんじん
書名	野中天神遺跡
副書名	一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第4集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第201集
編著者名	坂口 一 関根慎二 飯島義雄 井上昌美 大西雅広
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	西暦1996年2月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
野中天神 <small>のなかてんじん</small>	群馬県前橋市 野中町字天神 前橋市上長磯 町	102016	—	36度 22分 18秒	139度 7分 20秒	19881020～	5,800	道路(一般 国道50号改 築工事)建 設に伴う事 前調査
						19890331		
						19891002～		
						19900331		
						19901120～		
						19910218		
						19910416～		
						19910715		
						19911016～		
						19920115		
19920517～	507							
19920529		575						

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野中天神	墓	古墳	墓 1基		
	集落	古墳	竪穴住居 1軒	土師器、須恵器、灰輪陶器、 ロクロ土師器、鉄器	
			奈良平安 竪穴住居 50軒		
	田・島	平安	水田 2か所	須恵器、灰輪陶器	浅間B降下軽石 (1,108年)層下
			島 1か所		
	その他	平安	噴砂跡 4か所		弘仁9(818)年の 地震の可能性
	集落	中世	掘立柱建物 6棟		
	集落	中世	井戸 3基		
	墓	中世	土壇墓 1基	古銭(祥符通寶・紹聖元寶・ 洪武通寶・永樂通寶)、釘	人骨
その他	近・現代	河川 1条	陶・磁器		

I 発掘調査と遺跡の概要

1 調査の経過

一般国道50号(東前橋拡幅)改築に伴う野中天神遺跡は、昭和63年度から平成4年度までの6年間にわたって発掘調査を実施した。調査対象地は全長約500mに及び、幅は国道50号線の両側で概ね8～10mである。発掘調査にあたっては、調査対象地内の用地買収の進捗、耕作物の除去、家屋の移転撤去などの行程上の経緯もあり、発掘調査が可能な地点より順次着手することになった。以下調査年度に沿って経過を報告する。

昭和63年度(昭和63年10月20日～平成元年3月31日) センター杭No.89～97の範囲で、面積5,800㎡の発掘調査を実施した。検出した遺構の主なものには平安時代の竪穴住居・水田、中世の屋敷・土塙墓・井戸、近世の河川などである。

平成元年度(平成元年10月2日～平成2年3月31日) センター杭No.73～88の範囲で、面積3,600㎡の発掘調査を実施した。検出した遺構の主なものには平安時代の竪穴住居・水田、中世の土塙・井戸・溝などである。

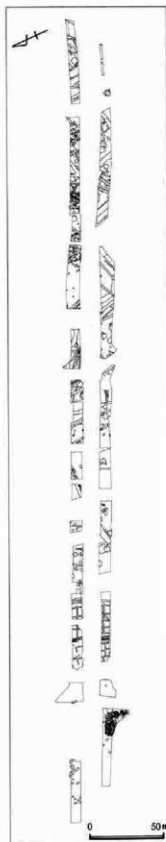
平成2年度(平成2年11月20日～12月28日、平成3年1月23日～2月18日) センター杭No.74～83の範囲で、面積631㎡の発掘調査区を実施した。検出した遺構の主なものには平安時代の竪穴住居・水田と、地震による地割れ・噴砂で、これは弘仁9(818)年に北関東地方を襲った地震の可能性がある。

平成3年度(平成3年4月16日～7月15日、10月16日～平成4年1月15日) センター杭No.77～79の範囲で、面積507㎡について発掘調査を実施した。検出した遺構の主なものには古墳時代の墓・土塙、平安時代の竪穴住居・溝などである。

平成4年度(平成4年5月17日～5月29日) センター杭No.79～83の範囲で、面積575㎡の発掘調査区を実施した。検出した遺構の主なものには古墳時代の溝及び平安時代の竪穴住居と地震による地割れ・噴砂で、これは古墳時代の溝及び平安時代の竪穴住居との重複関係から、4世紀～10世紀の間に位置付けられ、弘仁9(818)年の地震による可能性が考えられた。

以上、野中天神遺跡の発掘調査は延べ6年間にわたり、面積11,113㎡を調査した。この一連の発掘調査で、かつては利根川の流路であったこの地にも、激高地上では古墳時代前期から遺構が認められ、奈良・平安時代には竪穴住居や水田が立地していることが判明した。これらの遺構は、この地域における集落の動向を、生産域である水田を含めて検討することのできる重要な資料を提供した。

また、その年代が弘仁9(818)年の可能性が高い地震による地割れや、噴砂跡を検出し、この地域における地震の規模やその影響を考える上で貴重な資料を得ることができた。



挿図1 発掘調査区域図

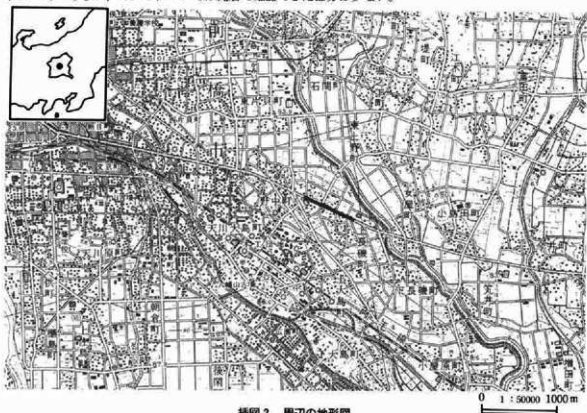
2 遺跡の位置と地形

野中天神遺跡は群馬県前橋市野中町、上長磯町に所在し、前橋市街地の東方4.5kmに位置している。群馬県の中央部には、標高1,828mの黒檜山を最高峰とする赤城山が、半径15kmの範囲に緩やかな裾野をひろげている。この山麓には数多くの開析谷が台地を刻んでおり、特に南麓の一番は樹枝状に伸びた沖積低地が発達している。また、この地域では前橋台地が形成された際に堆積した前橋泥流堆積物が、赤城山麓の末端部と接している。さらに、この前橋泥流堆積物層が旧利根川によって浸食されてきた広瀬川低地帯が北西から南東にかけて存在し、赤城山麓の末端部と接している。したがって、この遺跡の周辺では赤城山麓、前橋台地、広瀬川低地帯という変化に富んだ地形面を形成している。

広瀬川低地帯は、前橋市の北西部から南東部にかけて、約2.5~3kmの幅で帯状に形成されている。この地形はかつて利根川が形成したもので、基盤層には氾濫原堆積物である沖積砂礫が堆積しており、現在は広瀬川、桃木川の流路となっている。また、この低地帯内には自然堤防などによる微高地部分と低地部分とが混在し、現在の集落が立地している部分は、こうした微高地の部分にあっている。なお、過去の利根川はその流路を、赤城山の山麓よりから南方の前橋台地側に向かって移動したと考えられている。

野中天神遺跡は広瀬川低地帯上に立地し、標高は88~90mである。調査区域内には、自然堤防などによる微高地部分と低地部分とが混在している。このため、遺跡が立地する地形は大きく微高地部と低地部とに分かれ、いずれも北西から南東にかけて緩やかに傾斜地形を示している。主として微高地部には集落が営まれ、低地部には水田が営まれている。

低地部には、旧利根川による堆積物の上位を完新世の火山灰が覆っている。下位から4世紀前半の浅間C軽石層(As-C)、6世紀初頭の榛名山ニッ岳降下火山灰層(Hr-FA)、天仁元(1,108)年の浅間B軽石層(As-B)であるが、As-Cについては純層で確認できた部分は少ない。



挿図2 周辺の地形図

3 周辺の遺跡

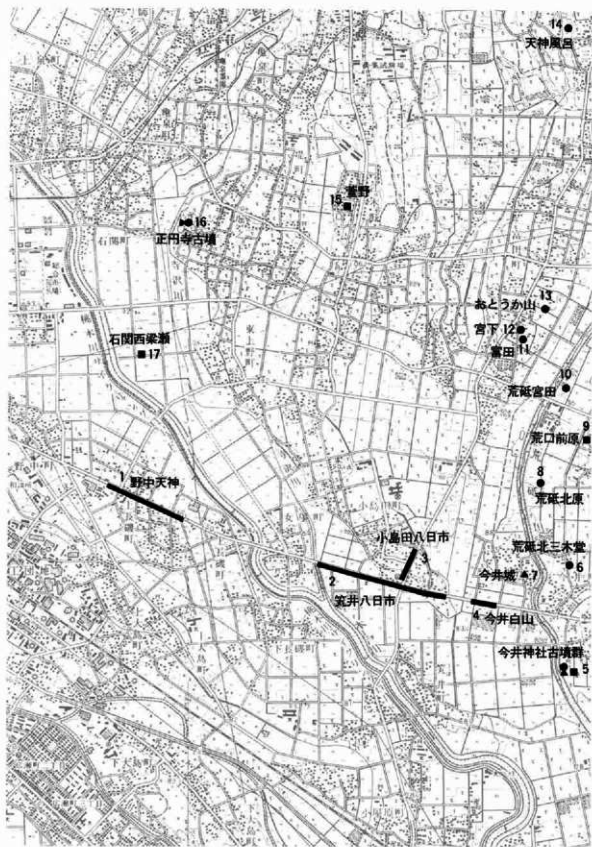
野中天神遺跡が立地する広瀬川低地帯上では、従来大規模な開発行為が少ないこともあって遺跡の発掘調査例が少なかった。しかし近年の発掘調査により、この広瀬川低地帯上でもいくつかの遺跡が確認されてきた。この野中天神遺跡(Na1)では、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居や、天仁元(1,108)年の浅間山の噴火に伴う浅間B軽石層(As-B)に覆われた平安時代の水田が検出された。また、桃木川の支流にあたる石岡西梁瀬遺跡(Na17)では、低地内に点在する微高地上で古墳時代から平安時代にわたる竪穴住居が検出されている。このうちの最も古いものは中期の5世紀代まで遡る。さらにこの遺跡では、表面採集資料で4世紀代の土器も検出されていることから、おそらく集落の開始時期は4世紀代の古墳時代前期まで遡る可能性が高いと考えられる。

また、桃木川を挟んだ東側には箕井八日市遺跡(Na2)が立地し、この遺跡が立地する赤城山の南麓の末端部から広瀬川低地帯にかけての地域では、数多くの遺跡が近年の発掘調査で確認されている。特に、赤城山麓を南流する荒砥川の流域には弥生時代以降の数多くの集落遺跡・墳墓が立地し、とりわけ古墳時代中期以降から、集落は急激な増加の傾向を示している。

特に、赤城山麓の末端部と広瀬川低地帯が接する箕井八日市遺跡では、5世紀後半の豪族居館の可能性がある大規模な堀を検出した。これは、南北160m、東西200mの範囲を堀が区画すると考えられる。さらに、貴船川の低地を挟んだ今井白山遺跡(Na4)では、古墳時代前期から平安時代にかけての竪穴住居、荒砥川を挟んだ今井道上遺跡では古墳時代中期から後期の竪穴住居及び、一边が約109mの平安時代の区画溝、荒砥北三木堂遺跡(Na6)では弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居がそれぞれ発掘調査されている。また、荒砥北三木堂遺跡に近接する荒砥川の縁辺部には、5世紀後半の前方後円墳である今井神社古墳(Na5)が立地している。この古墳の周辺地域における集落遺跡の竪穴住居は5世紀代から急激な増加傾向を示しているが、これは今井神社古墳の成立時期と一致することから、相互の密接な関連性が考えられる。

これに対して、荒砥川以西の広瀬川低地帯に接する赤城山麓の末端部では、遺跡の発掘調査例が少ない。しかし、古墳時代前期から平安時代にかけての集落を検出した萱野遺跡(Na15)などの例から、これはこの地域における開発行為の頻度の差に起因するものと考えられる。

番号	遺跡名	時代	主な遺構	文献
1	野中天神	古墳・奈良・平安・中近世	住居・水田・墓・地溝跡	
2	箕井八日市	縄文・古墳・奈良・平安・中近世	住居・墳墓・方形区画遺構・水田	『箕井八日市遺跡』(財)群埋文 1994
3	小島八日市	縄文・古墳・中世	墳墓・墓	『年報』12(財)群埋文 1993
4	今井白山	縄文・古墳・奈良・平安	住居・地溝跡	『今井白山遺跡』(財)群埋文 1993
5	今井神社古墳群	古墳・奈良・平安	住居・墓	『荒砥北原遺跡』(財)群埋文 1986
6	荒砥北三木堂	先土器・縄文・古墳・奈良・平安	住居・墳墓	『荒砥北三木堂遺跡』(財)群埋文 1982
7	今井城	中世	城跡址	『群馬県古城址址の研究』上巻 山崎 一 1971
8	荒砥北原	縄文・古墳・奈良・平安	住居・墓	『荒砥北原遺跡』(財)群埋文 1986
9	荒口前原	縄文・奈良・平安	住居	『荒口前原遺跡』『まえあし』14 穂沼忠介 1973
10	荒砥宮田	縄文・古墳・奈良・平安・中近世	住居・水田・墓	
11	富田古墳群	縄文・古墳・奈良・平安	住居・墳墓・墓	
12	宮下	縄文・古墳・奈良・平安	住居・墓	『富田・西大室・清里南部遺跡群』前橋市教委 1981
13	おとうか山古墳	古墳	墳墓	
14	天神風呂	縄文	住居	『富田・西大室・清里南部遺跡群』前橋市教委 1981
15	萱野	縄文・古墳・奈良・平安	住居・墓	『天神風呂遺跡発掘調査報告書』大沼町教委 1981
16	正内寺古墳	古墳	墳墓	『群馬県史』資料編3 県史編さん委員会 1981
17	石岡西梁瀬	古墳・奈良・平安	住居	『年報』14(財)群埋文 1995



■ 集落 ● 古墳 ▲ 城郭 ● 前方後円墳

神図3 周辺の遺跡分布図

0 1:25000 500m

4 遺跡の標準土層

この遺跡は、広瀬川低地帯から、旧利根川に浸食されずに残存した前橋台地にかけて立地している。このため、前橋台地上（台地部）と広瀬川低地帯の部分（低地帯）とでは、標準土層が大きく異なる。ここでは、台地部と低地帯に分けてその層序を以下に述べる。

台地部

台地部では、前橋泥流堆積物層の上部を上部ローム層が覆い、このなかには浅間一板鼻黄色軽石層（As-Y P）が含まれる。その上位を赤城山麓からの砂礫層が覆って、現地表面に至っている。

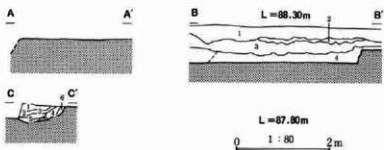
I 層：現表土	I 層：現表土
II 層：褐灰色土層	II 層：褐灰色土層
III 層：褐灰色土層（II層より灰色味が強い）	III 層：褐灰色土層
IV 層：茶褐色土層（多量の鉄分が沈着）	IV 層：茶褐色土層
V 層：黒褐色土層（多量の浅間B軽石を含む）	V 層：黒褐色土層
VI 層：褐色土層（浅間B軽石の純層）	VI 層：褐色土層（As-B）
VII 層：暗褐色土層（やや砂質）	VII 層：暗褐色土層
VIII 層：明黄褐色土層（砂が主体）	VIII 層：明黄褐色土層
IX 層：明灰褐色土層（シルト質で、鉄分が沈着）	IX 層：明灰褐色土層
X 層：灰褐色土層（φ 1～20mmの榛名山二ツ岳降下軽石含む）	X 層：灰褐色土層
XI 層：暗褐色土層（φ 5mmの榛名山二ツ岳降下軽石含む）	XI 層：暗褐色土層
XII 層：黄褐色土層（榛名山二ツ岳降下軽石含む）	XII 層：黄褐色土層
XIII 層：暗褐色土層	XIII 層：暗褐色土層
XIV 層：にぶい黄褐色土層（榛名山二ツ岳降下火山灰の純層）	XIV 層：にぶい黄褐色土層（Hr-F A）
XV 層：黒色土層	XV 層：黒色土層
XVI 層：明灰褐色土層（砂を主体とし、鉄分が沈着）	XVI 層：明灰褐色土層
XVII 層：礫層	XVII 層：礫層

※土層の色調は標準土色帖に従った。

挿図4 標準層序図

II 竪穴住居

I号住居

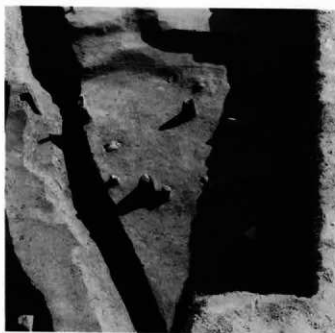


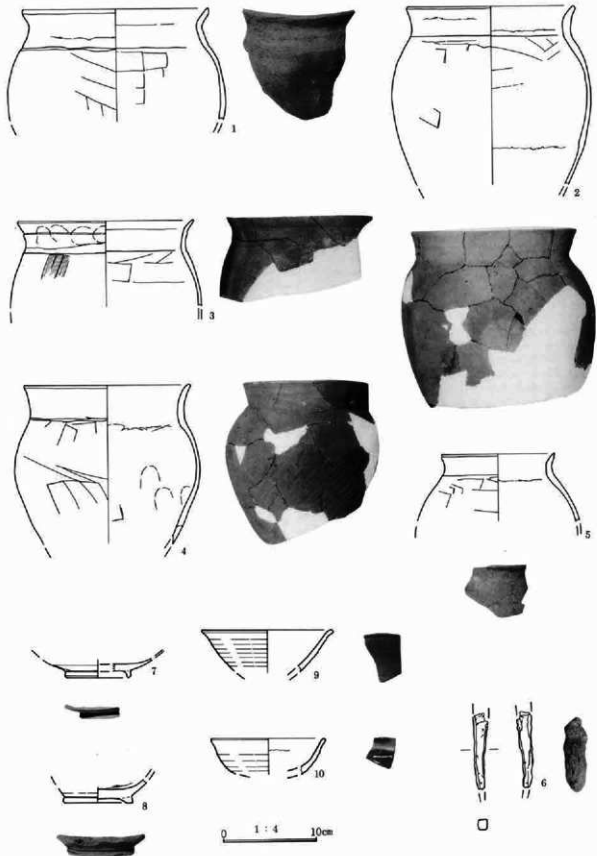
- 1 現表土。黒褐色土。やや砂質で、白色軽石を含む。
- 2 黒褐色土。やや砂質で、暗褐色土粒、白色軽石を多く含む。
- 3 暗褐色土。ほとんど均質で、黒褐色土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土。ほとんど均質で、地山褐色シルト粒を少量含む。

竪

- 1 暗褐色土。ほとんど均質で、白色軽石(Hr-FP?)を含む。
- 2 暗褐色土。1層と同じ。炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土。炭化物粒、焼土粒を多量に含む。
- 4 暗褐色土。焼土粒を多量に含む。
- 5 暗褐色土。4層と5層の境界に灰の薄層がみられる。炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土。地山の褐色シルト粒を含む。

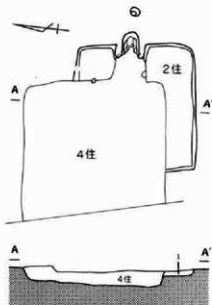
形状 住居の北側を後世の溝に切れ、住居の南側は調査区域外のため全形を確認することができない。
床面 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っている。貼床は認められない。
柱穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。
竈跡 東壁に設置する。壁を幅70cm、奥行き50cmの半円形に掘り込んで燃焼部とし、燃焼部はその約半分を壁外に造り出している。火床は周囲の床面より10cm程深い楕円状に掘り込まれている。煙道は確認できない。
遺物 住居中央部及び住居中央南側の床面に密着して土師器片が出土し、これらが住居の年代を示す。
重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。
方位 +108° **面積** 測定不可能。



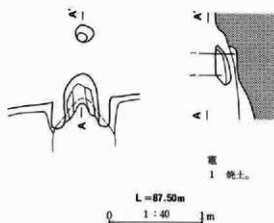


1号住居出土遺物

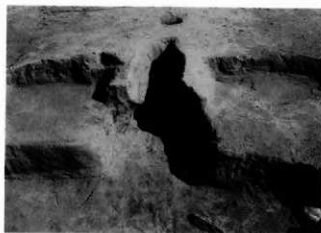
2号住居



1 黒色土。Hr-FAを含む。



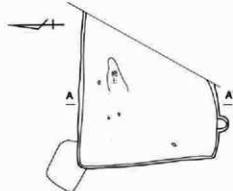
竈
1 焼土。



L=87.00m
0 1:80 2m

形状 住居の北西隅は確認できないが、短軸2.6m、長軸2.7mで、東西に僅かに長い超小形正方形住居と推定する。10号住居に住居の形状、規模が比較的近似するが軸線の傾きが異なり、年代も異なる。**床面** 基盤層を10cm掘り込んで床面とする。住居の北西部を重複する4号住居に切られるが、確認した面は平坦で良く整っている。貼床はない。**柱穴** 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁のほぼ中央部に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出したが、4号住居の竈と重複するために全形を確認することはできない。燃焼部は幅30cmで、その一部を壁外に造り出している。煙道は壁の外側50cmまで緩やかな勾配で伸びる。**遺物** この住居に伴出する復原が可能な遺物はない。**重複** 住居の北西部で4号住居と重複する。4号住居がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。**方位** +86° **面積** 6.85㎡(推定)。

3号住居



- 1 茶褐色土。Hr-FAを含む。
- 2 淡茶褐色土。Hr-FAを含む。
- 3 淡褐色土。Hr-FA、炭化物を含む。

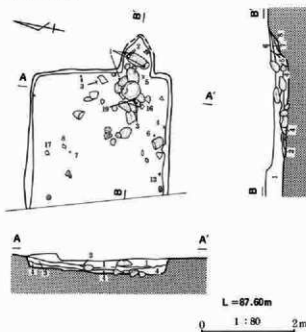
L = 87.70m

0 1 : 80 2m

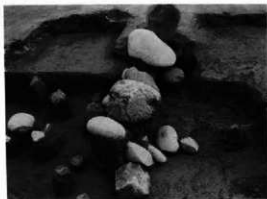
形状 住居の東半部が調査区域外のため、全形を確認することができない。確認した南北軸は3.0mを測る。**床面** 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っており、貼床は認められない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットは確認できない。**竈跡** 確認した範囲の壁面に、竈の痕跡を示す焼土等は一切検出できない。調査区域外の東壁に設置されていた可能性が高い。**遺物** 復原が可能な伴出土器はない。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +93° **面積** 測定不可能。



4号住居



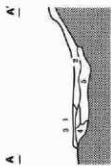
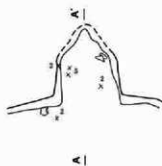
- 1 淡褐色土。Hr-FAを含む。
- 2 淡黄褐色粘質土。
- 3 淡褐色土。Hr-FA、2層のブロックを含む。
- 4 褐色土。2層のブロック、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土。焼土、炭化物を含む。
- 6 褐色土。Hr-FA、焼土、炭化物を含む。
- 7 淡褐色土。Hr-FA、焼土、炭化物を含む。
- 8 焼土。



形状 住居の西半部が調査区域外のため、全形を確認することができない。確認した南北軸は3.0mを測る。床面 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っており、貼床は認められない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。竈跡 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅60cm、奥行き50cmで、全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は奥壁の中段から緩やかな勾配で立ち上がる。竈の手前を中心に出土する石は、重複する後世の墓跡のもの。遺物 竈の火床直上より須恵器高台付埴・羽釜が出土し、これらが住居の年代を示すと判断した。この他に南壁際中央部の覆土内より灰釉陶器柄、北壁際中央部の覆土内より須恵器坏・高台付埴・砥石が出土する。重複 住居の南東部で2号住居と重複する。この住居が2号住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。

方位 +83° **面積** 測定不可能。



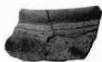
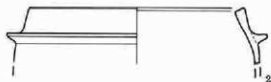


圖

- 1 焼土・炭化物層。
- 2 焼土。
- 3 炭化物。
- 4 淡黄褐色粘質土。地山層。
- 5 暗黄褐色粘質土焼土。炭化物を含む埋土。

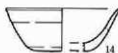
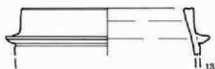
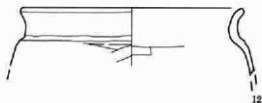
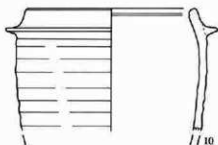
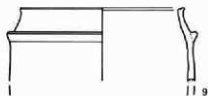
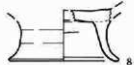
L=87.60m

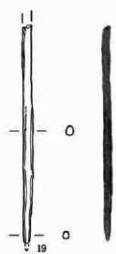
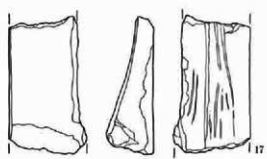
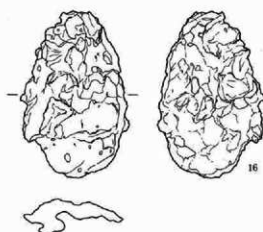
0 1:40 m



4号住居出土遺物

0 1:4 10cm

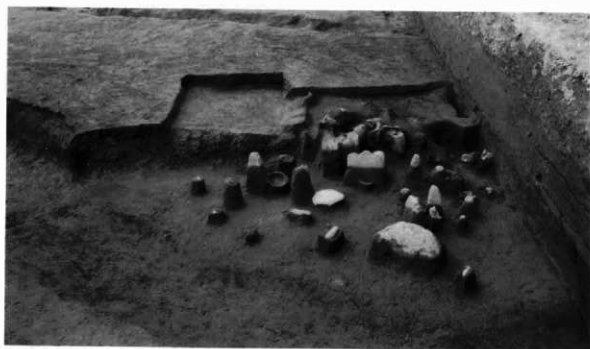
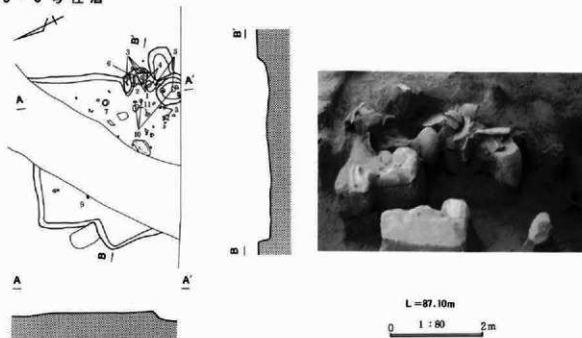




4号住居出土遺物

0 1 : 2 5cm

5・8号住居



5号住居

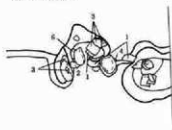
形状 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した南西軸は3.2mを測る。**床面** 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。床面は住居の中央部が後世の溝に切られる他は、平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるビットはない。**竈跡** 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅35cm、奥行き40cmで、その約半分を壁外に造り出す。両側の袖部の末端部に補強用の石材を立て、火床の中央よりやや左側に石製支脚を置く。内部より出土する羽釜は、使用状態のものが崩れ落ちたものと考えられる。煙道は

奥壁の中段から壁を掘り込むが、詳細は確認できない。**貯蔵穴** 竈南側の東壁に沿って直径50cm、深さ25cm程の不整形円形プランで設ける。**遺物** 竈の火床に密着して須恵器羽釜・高台付埴、竈手前の床面直上より須恵器高台付埴、東壁際の床面直上と貯蔵穴内より須恵器杯が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 住居の南半部で8号住居と重複する。この住居が8号住居を切って構築する平面精査の所見を得、それぞれの住居に伴出する土器の型式も8住→5住の順を示す。**方位** +113° **面積** 測定不可能。

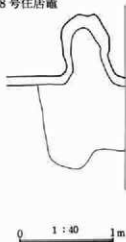
8号住居

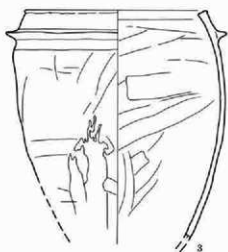
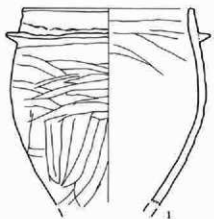
形状 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。**床面** 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。後世の5号住居、1号溝に切られて、この住居の床面はほとんど確認することができない。**柱穴** 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 東壁に設置する。5号住居と重複するために全形は不明だが、幅30cm、奥行き40cmの燃焼部は全て壁外に造り出すものと考えられる。煙道は確認できない。**遺物** 住居の覆土内より土師器杯・須恵器杯が出土し、これ以外に住居の年代を判定できる遺物はない。**重複** 住居の北半部で5号住居と重複する。この住居の覆土を5号住居が切って構築する平面精査の所見を得、これはそれぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。**方位** +93° **面積** 測定不可能。

5号住居竈



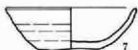
8号住居竈





5号住居出土遺物

0 1:4 10 cm



0 1:4 10cm

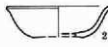


9



0 1:2 5cm

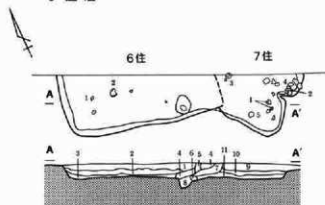
5号住居出土遺物



8号住居出土遺物

0 1:4 10cm

6・7号住居



- 1 深褐色土。Hr-FA, As-Cを含み、やや砂質。
- 2 褐色土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 3 暗褐色土。やや砂質。
- 4 暗灰褐色土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 5 灰褐色土。砂質土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 6 暗茶褐色砂質土。
- 7 茶褐色土。Hr-FA, As-C、炭化物を含む。
- 8 褐色土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 9 褐色土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 10 暗褐色土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 11 暗茶褐色土。Hr-FA, As-C、炭化物を含む。

L=65.90m

0 1:80 2m



6号住居

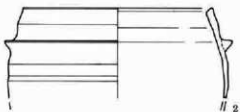
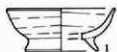
形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確認することができない。床面 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は小さな起伏が多く、平坦ではない。南壁際東側に直径30cm、深さ20cmのビットをもつ。柱穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるビットはない。竈跡 確認した壁面の範囲に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。遺物 住居西側の床面直上より須恵器杯・高台付碗が出土し、これらが住居の年代を示すものと判断した。重複 住居の東側で7号住居と重複する。この住居が7号住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得たが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は6住→7住の順を示して、土層断面の所見と一致しない。方位 +105° 面積 測定不可能。

7号住居

形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確認することができない。床面 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っている。柱穴 確認した床面の範囲に柱穴と認定できるビットはない。竈跡 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ15cmの袖部を検出した。焼土部の北半部が調査区域外のため全形を確認することはできないが、造り付けた袖部の末端部に補強用の石材を据え、火床にも石製支脚を置く。煙道は確認できない。遺物 住居南東部の床面に密着して須恵器高台付碗、住居西側の床面直上より須恵器杯、竈内より須恵器羽釜が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 住居の西側で6号住居と重複する。6号住居がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得たが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は6住→7住の順を示して、土層断面の所見と一致しない。方位 +141° 面積 測定不可能。

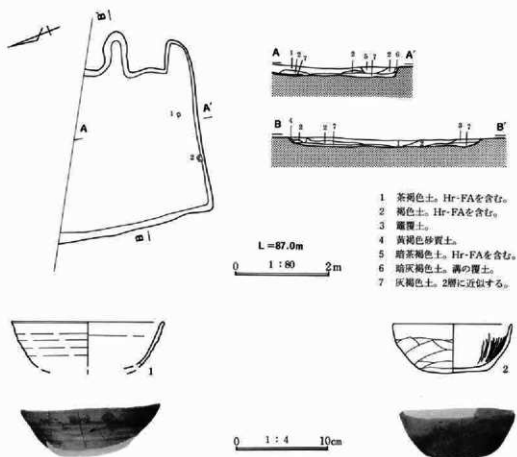


6号住居出土遺物

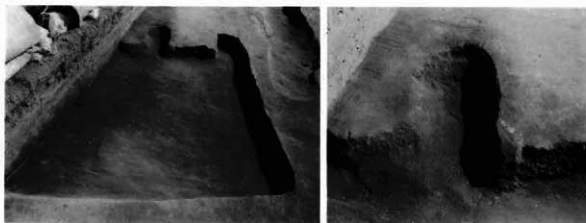


7号住居出土遺物

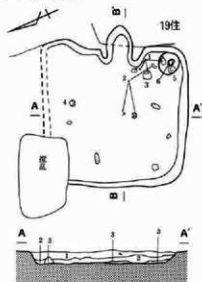
0 1 : 4 10cm



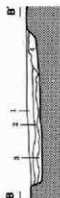
形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.3mを測る。**床面** 基整層を15cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 東壁に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き30cmで全てを壁外に造り出し、煙道は火床の底面から緩やかな勾配で立ち上がる。**遺物** 南壁際の床面直上より須恵器高台付碗・土師器杯が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +103° **面積** 測定不可能。



10号住居



- 1 暗茶褐色砂質土。Hr-FAを含む。
- 2 茶褐色土。Hr-FA、焼土を含む。
- 3 暗黄褐色土。Hr-FA、焼土、炭化物を含む。
- 4 暗茶褐色土。焼土を少量に含む。

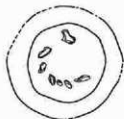
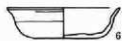
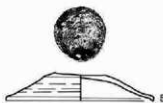
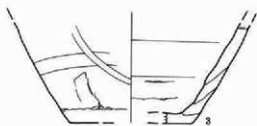
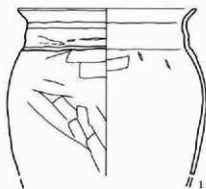


形状 住居の北壁部は確認できないが、一辺3.1mの超小形正方形住居と推定する。2号住居に住居の形状、規模が比較的近似するが軸線の傾きが異なり、年代も異なる。**床面** 基盤層を25cm掘り込んで床面とする。床面は住居の中央部が僅かに高い他は平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるビットはない。**竈** 東壁のほぼ中央部に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃焼部は幅35cm、奥行き60cmで、その約半分を壁外に造り出す。煙道は確認できない。**貯蔵穴** 住居の南東隅に直径50cm、深さ30cmの円形プランで設ける。**遺物** 貯蔵穴周辺部の床面に密着して土師器杯、貯蔵穴内より土師器壺・須恵器蓋が出土し、これらが住居の年代を示す。**重覆** 住居の北半部で11号住居、竈の部分で19号住居とそれぞれ重複する。この住居が11住、19住の覆土を切って構築する土層断面、平面精査の所見を得た。それぞれの住居に伴出する土器の型式からは、前後関係を明確に判定することができない。**方位** +116° **面積** 8.83㎡(推定)。

L=87.30m

0 1:80 2m

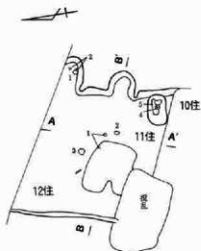




10号住層出土遺物

0 1 : 4 10cm

11・12号住居



L=67.20m
1:80
0 2m

11号住居

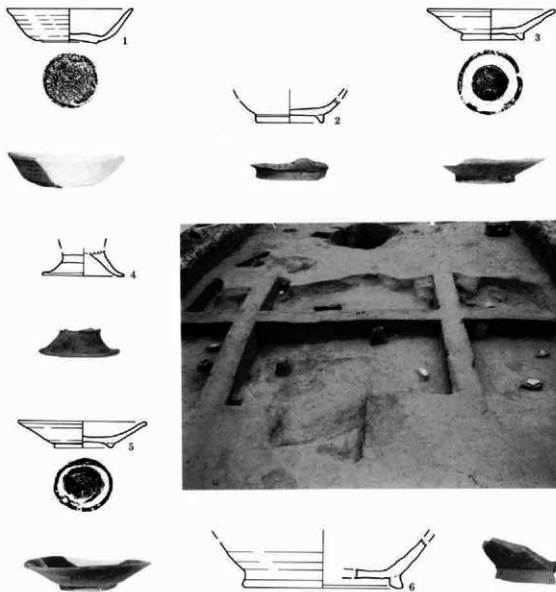
形状 北壁部と南壁部が他の住居と重複するため、外形を確定することができない。確認した東西軸は2.8mを測る。**床面** 基盤層を20cm掘り込んで床面とする。住居の南西部が擾乱を受けている他は、比較的平坦で整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。

竈跡 東壁に設置する。燃焼部は幅30cm、奥行き40cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。**貯蔵穴** 竈南側の東壁際に短軸40cm、長軸60cm、深さ35cmの方形プランで設ける。**遺物** 住居中央部の床面に密着して須恵器杯、床面直上より須恵器皿・高台付碗、貯蔵穴内より須恵器皿が

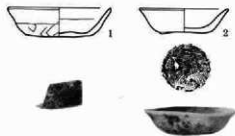
出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 住居の南半部で10号住居、北半部で12号住居とそれぞれ重複する。10号住居がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。12号住居との新旧関係を判定する実証的な資料を欠くが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は11住→12住の順を示す。**方位** +110° **面積** 測定不可能。

12号住居

形状 住居の北半部が調査区域外で、南半部が他の住居と重複するため、外形を確定することができない。確認した東西軸は2.8mを測る。**床面** 基盤層を20cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴うピットは確認できない。**竈跡** 東壁に設置する。北半部が調査区域外のために燃焼部の全形を確認することはできないが、奥行き60cmの燃焼部を全て壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。**遺物** 竈内の火床直上より土師器杯・須恵器杯が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 住居の南半部で11号住居と重複する。新旧関係を判定する実証的な資料を欠くが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は11住→12住の順を示す。**方位** +110° **面積** 測定不可能。



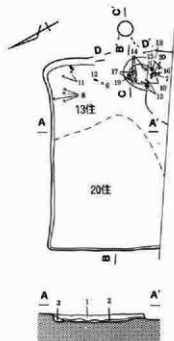
11号住居出土遺物



0 1 : 4 10cm

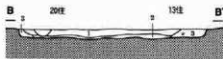
12号住居出土遺物

13号住居

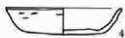


- 1 暗褐色土。軽石、炭化物を含む。
- 2 暗黄褐色土。黄色シルトを含む。
- 3 茶褐色土。黄色シルトを含む。

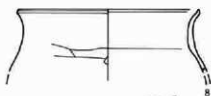
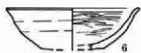
L=67.20m
0 1:80 2m



形状 住居の南半部が調査区域外のため、全形を確認することができない。確認した東西軸は4.1mを測る。床面 基整層を20cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っており、貼床はない。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴うピットは確認できない。竈跡 東壁に設置する。残存状態が悪く燃焼部の状況は不明であるが、煙道部の状況からみて燃焼部壁内型の可能性が高い。貯蔵穴 東壁際の南側に直径80cm、深さ40cmの不整形円形プランで設ける。竈が燃焼部壁内型であるとすれば、この位置は竈と重複することになり、住居とは年代の異なる遺構の可能性もあるが、貯蔵穴内より出土する土器と床面から出土する土器に型式差が認められないため、この住居に伴うものと判断した。したがって、竈とは同時に機能していない可能性がある。遺物 貯蔵穴北側の床面に密着してクロコ土師器杯、貯蔵穴南側の床面に密着して須恵器杯・高台付碗、住居北東隅の床面に密着して土師器杯・須恵器皿、貯蔵穴内より須恵器高台付碗・杯が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 住居の西半部で20号住居、22号住居とそれぞれ重複する。この住居が20住、22住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。伴出する土器の型式は20住→13住の順を示す。方位 +116° 面積 測定不可能。

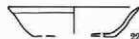
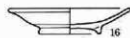
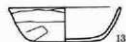
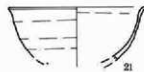
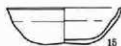
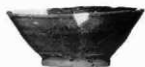


13号住居構築面出土遺物



0 1 : 4 10cm

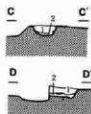
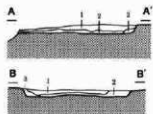
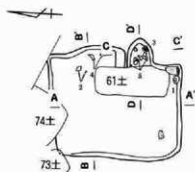
13号住居出土遺物



13号住居出土遺物

0 1:4 10cm

14号住居



L=87.20m
0 1:80 2m

- 1 暗茶褐色土。若干の礫石、炭化物を含む。
2 暗黄褐色土。黄色シルト粒を多く含む。
3 黄褐色土。黄色シルトの剥落したもの。

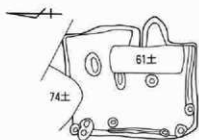
電

- 1 暗茶褐色土。黄褐色シルトを含み、砂質。
2 暗灰色土。炭化物、礫土、灰が混じる。

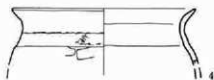
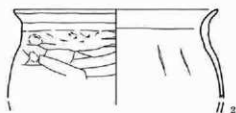


形状 短軸2.0m、長軸2.8mで、南北に長軸をもつ超小形横長長方形住居。36号住居に住居の形状、規模、軸線の傾きが近似し、伴出する土器の年代も近い。床面 基盤層を15cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っており、貼床はない。東壁際南側を後世の土壌が切る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。電跡 東壁の南側に設置する。重複する土壌に切られて全形を確認することはできないが、燃焼部は幅40cm、奥行き40cmで、その全て壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈すものと考えられる。遺物 住居南東隅の床面に密着して須恵器皿、東壁際北側の床面直上より土師器壺、竈内より土師器壺が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +87° 面積 5.97㎡。





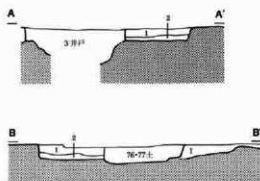
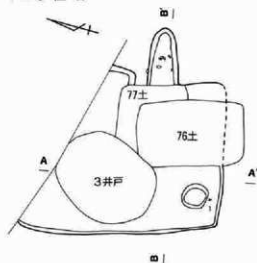
0 1:60 2m



0 1:4 10cm

14号住居出土遺物

15号住居



- 1 暗褐色土。軽石、炭化物を含む。
- 2 茶褐色土。黄色シルト粒を含む。

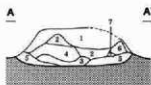
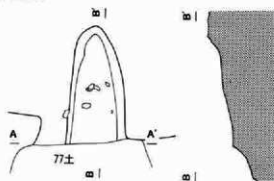
L=87.10m
0 1:80 2m

形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.5mを測る。**床面** 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。床面は住居の南東部を上壤に、北西部を井戸にそれぞれ切られているが、確認した面は平坦で整っている。住居南西隅のピットは、この住居に伴うものか否かの判定ができない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**電跡** 東壁に設置する。重複する土壌に切られて、燃焼部の全形を確認することはできないが、幅50cm、奥行き60cmでその全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈すものと考えられる。煙道は火床の底面から緩やかに立ち上がる。**遺物** 住居南西隅の床面に密着して土師器片が出土し、これが住居の年代を示す。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +84° **面積** 測定不可能。



15号住居竈

遺物観察表 6



竈

- 1 明茶褐色土。焼土、炭化物を含む。
- 2 焼土。
- 3 灰・炭化物。
- 4 茶褐色土。灰、焼土、炭化物を多く含む。
- 5 黄色シルト層。袖基部の地山層。
- 6 暗茶褐色土。若干の炭化物、焼土を含む。
- 7 焼土・炭化物ブロック。

L = 87.10m

0 1 : 40 1m

15号住居構築面



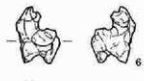
0 1 : 80 2m



0 1 : 4 10cm

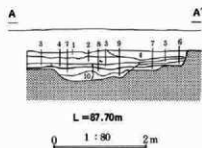
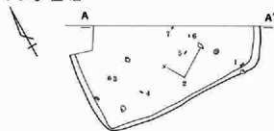


0 1 : 2 5cm



15号住居出土遺物

16号住居



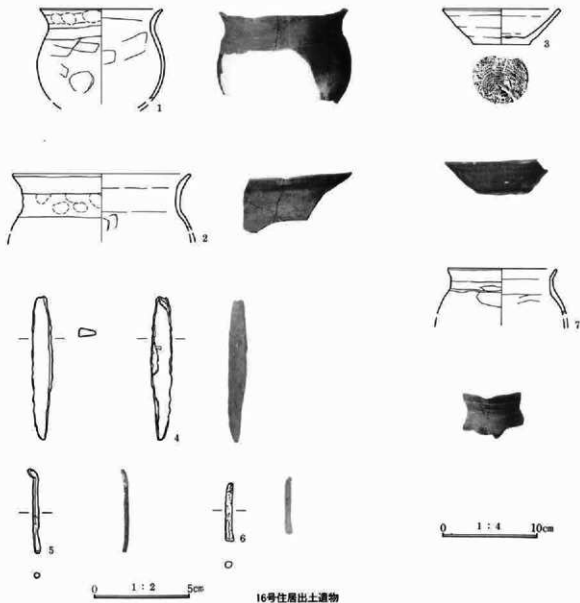
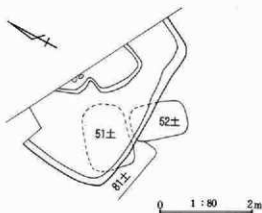
- 1 明茶褐色土。軽石を含む砂質土。
- 2 暗茶褐色土。軽石、炭化物を含む。
- 3 茶褐色土。若干の軽石、炭化物を含む。
- 4 暗黄褐色土。黄色シルト粒を含む、砂質。
- 5 茶褐色土。軽石、炭化物を含み、やや砂質。
- 6 明茶褐色土。若干の炭化物を含み、やや砂質。
- 7 明黄褐色土。黄色シルトを含み、砂質。
- 8 褐色土。炭化物を多く含む。
- 9 明褐色土。黄色シルト混入。
- 10 茶褐色土。若干の軽石を含む。



形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.9mを測る。**床面** 基盤層を20cm掘り込んで床面とする。住居の中央部を深さ30cmの不整形に掘り込み、この中に貼床を施して全体に平坦な床面を造る。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 確認した範囲の壁面に、竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。**遺物** 住居南西隅と中央部の床面直上より土師器甕、西壁際の床面直上より須恵器杯が出土し、これらが住居の年代を示す。この他に西壁際の床面直上より刀子が出土する。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +92° **面積** 測定不可能。



16号住居構築面

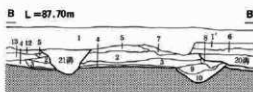
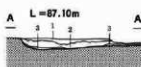


16号住居出土遺物

17号住居



- 1 耕作土。
- 1' 耕作土。鉄分を含む。
- 2 暗茶褐色土。軽石、若干の炭化物を含む。
- 3 茶褐色土。軽石を含む。
- 4 明茶褐色土。黄色シルト粒を含む。
- 5 褐色土。軽石、若干の黄色シルト粒を含む、やや砂質。
- 6 暗灰褐色土。若干の軽石を含む、やや砂質。
- 7 暗褐色土。若干の炭化物を含む。



- 8 明褐色土。若干の軽石、黄色シルト粒を含む。
- 9 暗黄褐色土。黄色シルト粒を多く含む。
- 10 暗灰褐色土。炭化物、灰を含む。
- 11 黄褐色土。炭化物、黄色シルトが混入。
- 12 茶褐色土。黄色シルト、若干の炭化物を含む。
- 13 明茶褐色土。黄色シルトを含む。
2~5層まで住居層土。

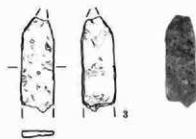
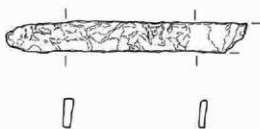
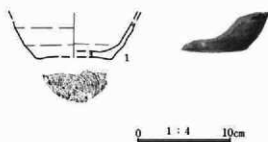
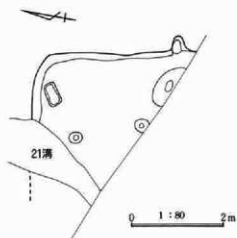
形状 住居の南半部が調査区域外で、西壁部は掘り込みが浅いために、全形を確認することができない。

床面 基盤層を15cm掘り込んで床面とする。床面は住居の西側を南北に後世の溝が切り、この溝より西側は掘り込みが浅いために明確には捉えられない。確認した範囲の床面は平坦で良く整っている。東壁際南側のピットは、この住居に伴うか否かの判定ができない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 東壁に設置するが掘り込みが浅いために、燃焼部の状況は不明である。**遺物** 住居中央部の床面直上より須恵器環が出土し、これが住居の年代を示すものと判断した。この他に東壁際の床面直上より刀子が出土する。**重複** 住居の西側で24号住居と重複する。新旧関係を判定する実証的な資料を欠くが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は24住→17住の順を示す。**方位** +80° **面積** 測定不可能。



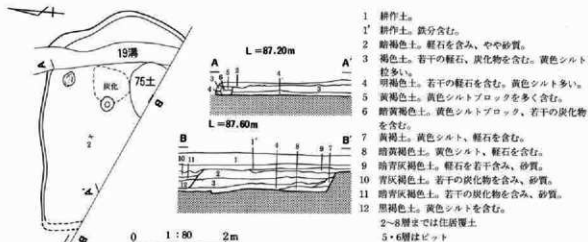


17号住居構築面



17号住居出土遺物

0 1:2 5cm



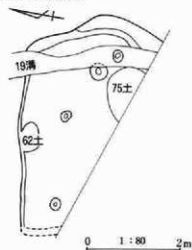
- 1 耕作土。
 - 1' 耕作土。鉄分含む。
 - 2 暗褐色土。軽石を含み、やや砂質。
 - 3 褐色土。若干の軽石、炭化物を含む。黄色シルト粒多い。
 - 4 明褐色土。若干の軽石を含む。黄色シルト多い。
 - 5 黄褐色土。黄色シルトブロックを多く含む。
 - 6 暗黄褐色土。黄色シルトブロック、若干の炭化物を含む。
 - 7 黄褐色土。黄色シルト、軽石を含む。
 - 8 暗黄褐色土。黄色シルト、軽石を含む。
 - 9 暗青灰褐色土。軽石を若干含む、砂質。
 - 10 青灰褐色土。若干の炭化物を含み、砂質。
 - 11 暗青灰褐色土。若干の炭化物を含み、砂質。
 - 12 黒褐色土。黄色シルトを含む。
- 2~8層までは住居覆土
5・6層はピット



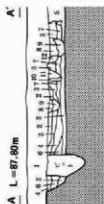
形状 住居の南西部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は4.9mを測る。**床面** 基整層を40cm掘り込んで床面とする。住居の東側を南北に、住居の北側を東西にそれぞれ後世の溝が切る。また、住居の南東部は土壌に切られるが、確認した範圍の床面は平坦で整っている。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 東壁に設置するが、掘り込みが浅いために僅かな焼土を検出したにすぎない。**遺物** 住居の覆土内より須恵器蓋・土師器坏が出土し、これを除いて住居の年代を判定

できる遺物はない。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +89° **面積** 測定不可能。

18号住居構築面



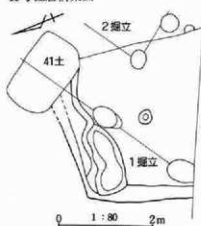
0 1:4 10cm



- 1 耕作土。
- 2 茶褐色土。少量の軽石を含む。
- 3 暗黄褐色土。少量の軽石、炭化物を含む。
- 4 明茶褐色土。少量の軽石、炭化物を含む。
- 5 明褐色土。炭化物の混入多い。
- 6 暗黄褐色土。軽石の混入少ない。黄色シルト混入。
- 7 黄褐色土。軽石、黄色シルトを含む。
- 8 褐色土。軽石、黄色シルトを含む。
- 9 明褐色土。軽石を多く含む。
- 10 黄褐色土。黄色シルトを多く含む。
- 11 茶褐色土。若干の黄色シルトを含む。
- 12 暗茶褐色土。若干の軽石を含む。



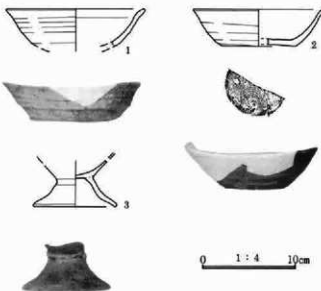
19号住居構築面



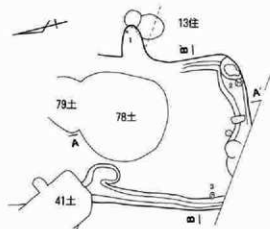
形状 住居の南半部が調査区域外で、住居の東半部が他の住居と重複するため、外形を確定することができない。床面 基盤層を40cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で整っている。柱穴 壁内に主柱穴はないと判定した。住居中央部に直径25cm、深さ20cmの柱穴様ビットをもつが、住居の外形が確定できないため、この住居に伴うか否かの判定ができない。竈跡

確認した壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は検出できない。遺物 住居東側の床面直上より須恵器杯・土師器台付甕が出土し、

これらが住居の年代を示すと判断した。重複 住居の西側で10号住居、東側で20号住居とそれぞれ重複する。また、1号掘立柱建物、2号掘立柱建物と重複する。10号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得たが、それ以外の重複に関する新旧関係を判定する実証的な資料はない。伴出する土器の型式は20住→19住の順を示す。方位 測定不可能。面積 測定不可能。

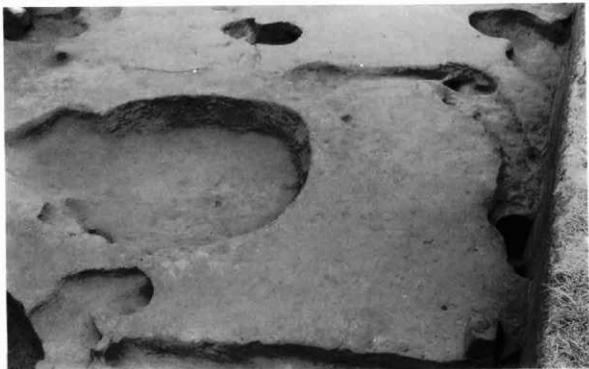


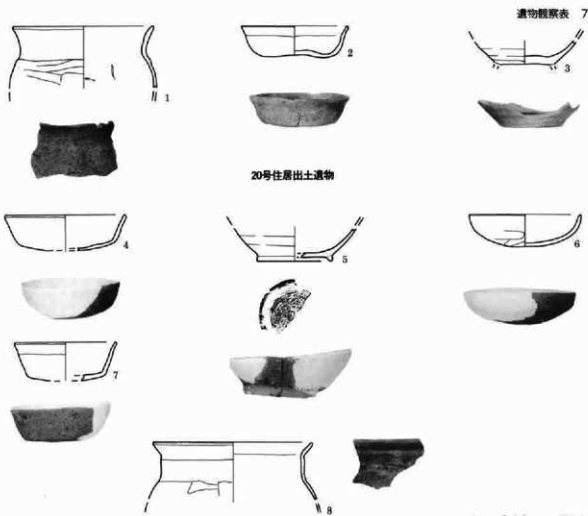
20号住居



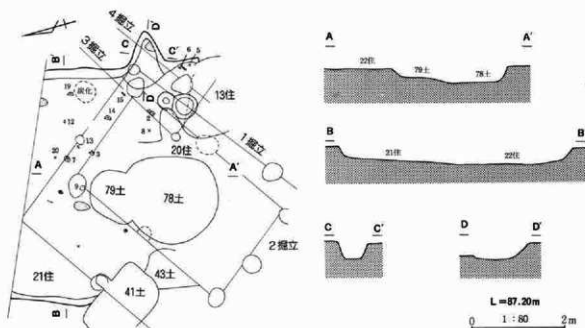
L = 87.00m
0 1 : 80 2 m

形状 北壁部が他の住居と重複するため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.2mを測る。**床面** 基盤層を僅かに掘り込んで床面とする。床面は住居の中央部から北側にかけての部分の後世の土壌に切られるが、確認した範囲の床面は平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 東壁に設置するが、掘り込みが浅いために詳細は不明である。**壁溝** 幅20cm、深さ10～20cmで、西壁部から住居南東隅にかけての壁下に巡る。**遺物** 住居南東部の壁溝直上より土師器杯、西壁際南側の床上17cmの位置から須恵器高台付碗が出土し、これらが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 住居の東側で13号住居、西側で19号住居、北側で21号住居とそれぞれ重複する。13号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。19・21住との新旧関係を判定する実証的な資料はないが、伴出する土器の型式は20住→13・19・21住の順を示す。**方位** +103° **面積** 測定不可能。





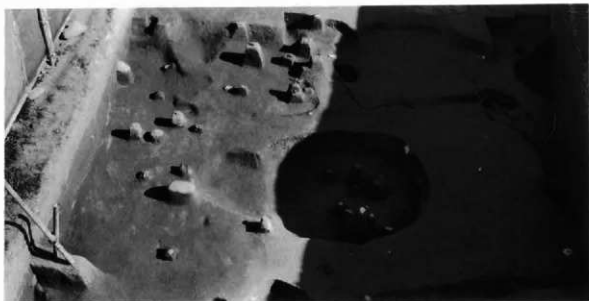
21号住居

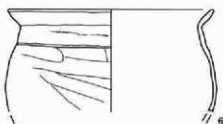
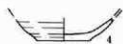
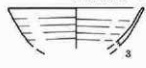
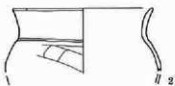


形状 住居の北半部が調査区域外で、南半部で他の住居と重複するため、外形を確定することができない。確認した東西軸は5.0mを測る。床面 基盤層を35cm掘り込んで床面とする。床面は住居の南半部が重複する土壌に切られる他は平坦で良く整っており、貼床はない。柱 穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。竈 跡 東壁に設置する。燃焼部は幅60cm、奥行き60cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。遺物 東壁際南側の床面直上より土師器杯、竈西側の床面直上より須恵器杯、住居北東部の床面直上より土師器杯・須恵器高台付塊が出土し、これらが住居の年代を示す。また、覆土内より銅製鉈尾が出土しているが、この住居に共存するか否かの判定ができない。

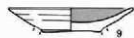
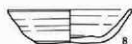
重複 住居の南半部で13号住居、20号住居と重複する。いずれも新旧関係を判定する実証的な資料を欠くが、伴出する土器の型式は20住→21住の順を示す。

方位 +106° **面積** 測定不可能。





6

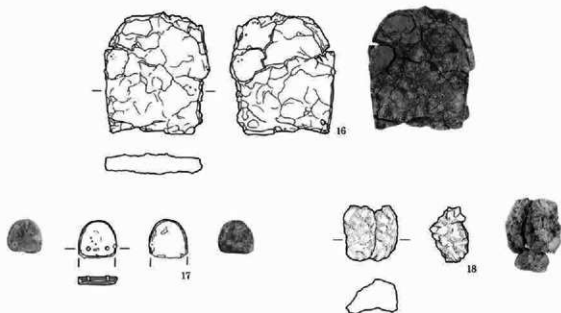
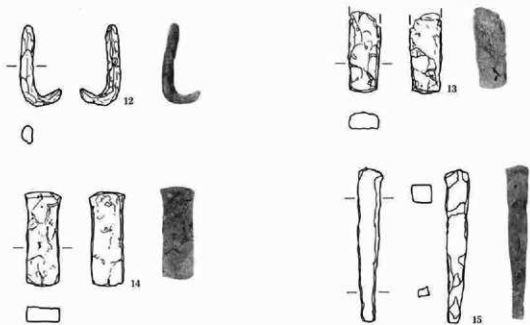


11

0 1 : 4 10cm



21号住居出土遺物



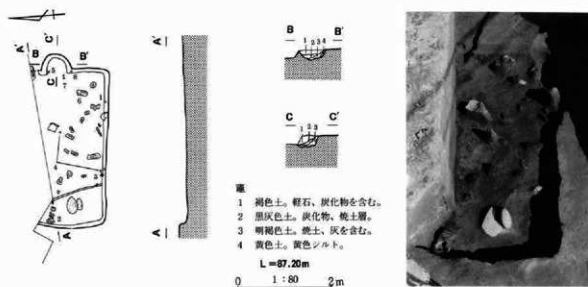
0 1:2 5cm

21号住居出土遺物



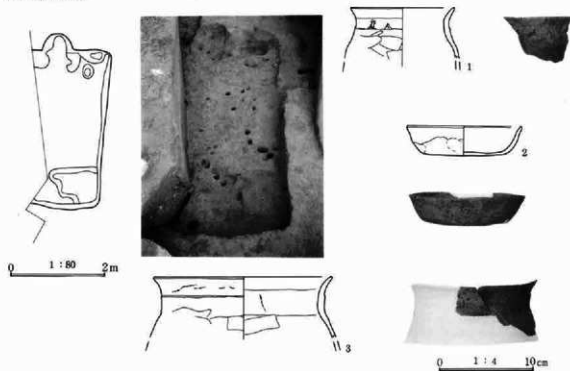
21号住居精査面出土遺物

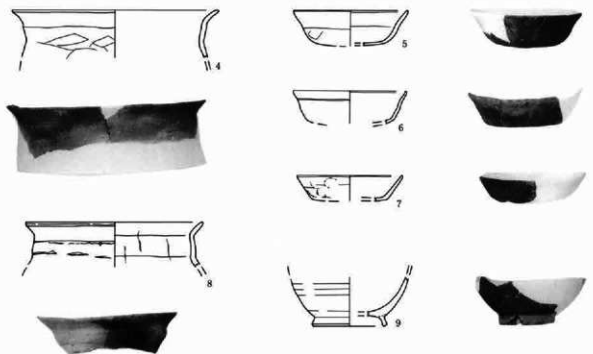
0 1:4 10cm



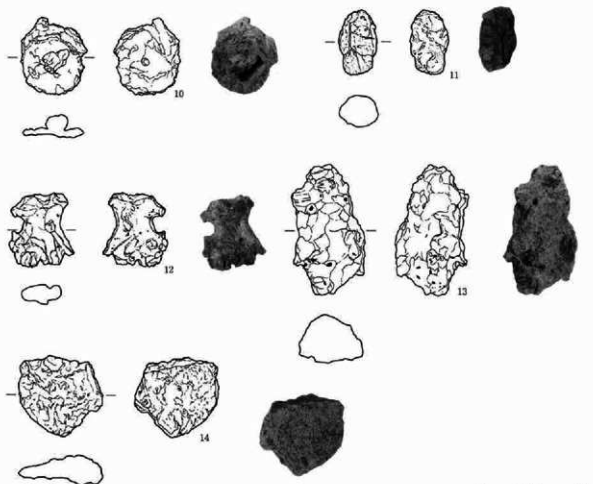
形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確認することができない。確認した東西軸は3.4mを測る。床面 基礎層を15cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。竈跡 東壁に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き30cmの半円形で、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。遺物 南壁際東側の床面に密着して土師器甕、西壁際の床面に密着して土師器杯、電手前の床面直上より土師器杯が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +93° 面積 測定不可能。

23号住居構築面





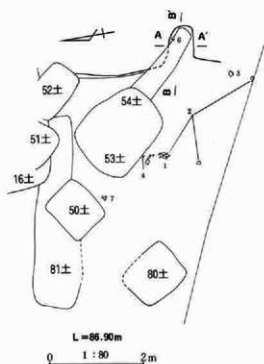
0 1:4 10cm



0 1:2 5cm

23号住居出土遺物

24号住居

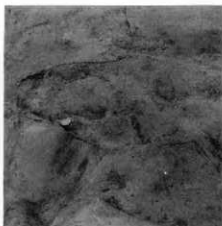


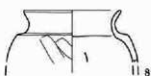
竈

- 1 茶褐色土。若干の軽石を含む。
- 2 黄褐色土。焼土、炭化物を多く含む。
- 3 赤褐色土。焼土ブロック。
- 4 暗黄褐色土。焼土を含む。
- 5 明黄褐色土。焼土、炭化物を含む。
- 6 黄褐色土。砂質、若干の焼土、炭化物を含む。



形状 住居の南半部が調査区域外で、全体に住居の掘り込みも浅いために、東壁の一部と竈を検出するのみで外形は確定できない。**床面** 基盤層を僅かに掘り込んで床面とする。床面は重複する土壌に多くの部分を切られて、明確に把握することはできない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 東壁に設置する。掘り込みが浅いため全形を把握することはできないが、燃焼部は幅40cm、奥行き50cm程で、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型と推定される。**遺物** 住居中央部の床面に密着して土師器坏、住居南東部の床面直上より土師器鉢・須恵器坏、竈内より須恵器高台付碗が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 住居の東側で17号住居と重複する。新旧関係を判定する実証的な資料を欠くが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は24住→17住の順を示す。**方位** +104°(推定)。**面積** 測定不可能。

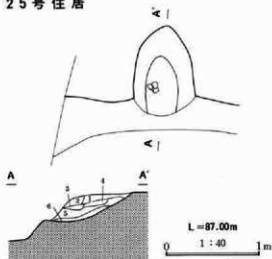




0 1:4 10cm

24号住居出土遺物

25号住居



電

- 1 茶褐色土。黄色シルト、軽石を若干含む。
- 2 暗褐色土。黄色シルト、軽石を若干含む。
- 3 黒褐色土。炭化物、焼土、黄色シルト、軽石を含む。
- 4 赤褐色土。焼土層。
- 5 黒灰色土。炭化物、灰層。
- 6 暗茶褐色土。炭化物、焼土、灰が多量に混じる。

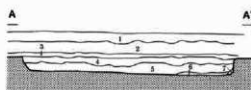
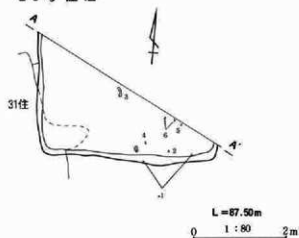


住居の大半の部分を重複する溝に切られて、電の部分

以外は確認できない。電は燃焼部の幅35cm、奥行き60cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型と推定される。内部より土師器甕の破片が出土し、これは復原が不可能であるが9世紀後半代の年代を示す。



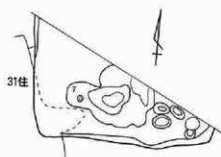
26号住居



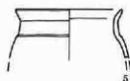
- 1 耕作土。
- 2 暗灰褐色土。As-Bを含む。
- 3 暗黄褐色土。As-Bを含み、鉄分の沈着が認められる。
- 4 淡茶褐色土。Hr-FAを含む。
- 5 暗灰褐色土。Hr-FA、As-Bを含む。
- 6 淡黄褐色土。Hr-FA、黄褐色砂質土を含む。
- 7 黄褐色砂質土。

形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.8mを測る。**床面** 基盤層を25cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。**竈跡** 確認した範囲の壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。**遺物** 南壁際中央部の床面に密着してロクロ土師器坏、南壁際東側の床面直上より灰釉陶器碗、住居南東部の床面直上より土師器坏・甕・須恵器坏が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、住居中央部の床面直上より鎌が出土する。**重複** 住居の西側で31号住居と重複する。31号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。**方位** +8° **面積** 測定不可能。





0 1:80 2m



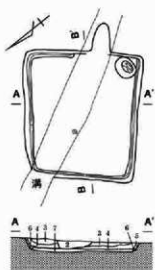
0 1:2 5cm



0 1:4 10cm

26号住居出土遺物

27号住居



L=87.00m
0 1:80 2m

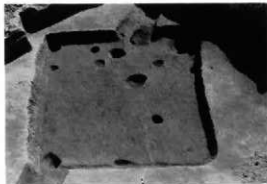
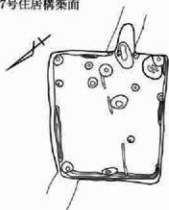
- 1 暗褐色土。粒子細かくシルト質。灰黄褐色シルトブロックを含む。新しい木根等による擾乱。
- 2 褐色土。粒子細かくシルト質。灰黄褐色シルトブロックを多く含む(溝の埋土)。
- 3 黄褐色土。粒子細かくシルト質。褐色シルトブロック、少量のHr-FP小粒を含む。
- 4 暗褐色土。粒子細かくシルト質。褐色シルトブロック、少量のHr-FP小粒を含む。
- 5 褐色土。粒子細かくシルト質。暗褐色土、灰黄褐色シルトブロック、少量のHr-FP粒を含む。
- 6 褐色土。粒子細かくシルト質。5層に類似するが暗褐色土ブロックが少なく、Hr-FP粒はほとんど含まず。
- 7 褐色土。粒子細かくシルト質。灰黄褐色のシルトブロックを多く含む。



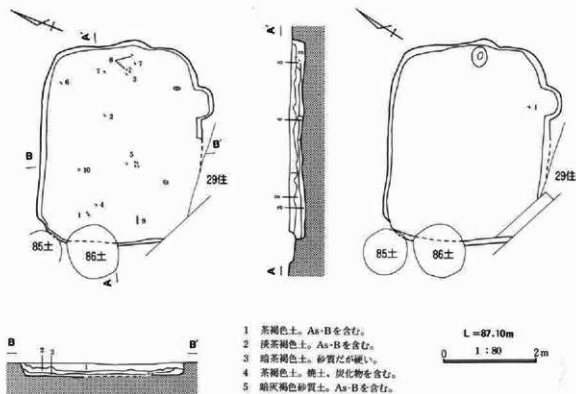
形状 短軸2.4m、長軸2.7mで、東西に長軸をもつ超小形縦長方形住居。東壁に対して西壁がやや短い不整形長方形を呈す。この遺跡では全形を確認できる住居が少ないが、超小形縦長方形に分類できるのはこの住居のみである。床面 基盤層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は主として住居の東半部にいくつかのピットをもつ他は平坦である。この面に厚さ5cmの貼床を一様に施して生活面とする。生活面は全体

に平坦で良く整っている。住居の北西隅から竈にかけての部分の後世の溝が切るが、溝の底面は生活面を掘り込んでいない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。竈跡 東壁の南側に設置するが重複する溝に切られて、詳細は不明である。燃焼部は幅40cm、奥行き50cm程で、その全てを壁外に透り出す燃焼部壁外型と推定される。貯蔵穴 住居の南東隅に直径40cm、深さ20cmの不整形円形プランで設ける。遺物 復原が可能な伴出土器はない。重複 他の住居と重複することなく、単独で地地する。方位 +131° 面積 6.46㎡。

27号住居構築面

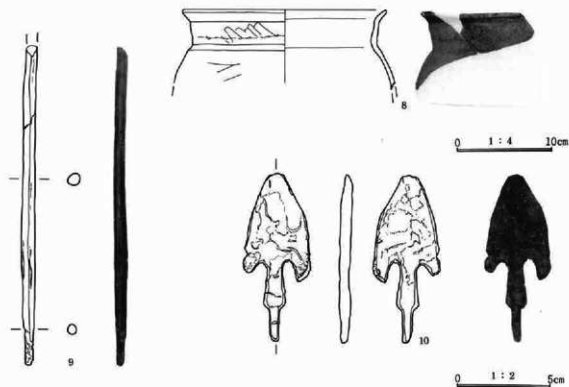
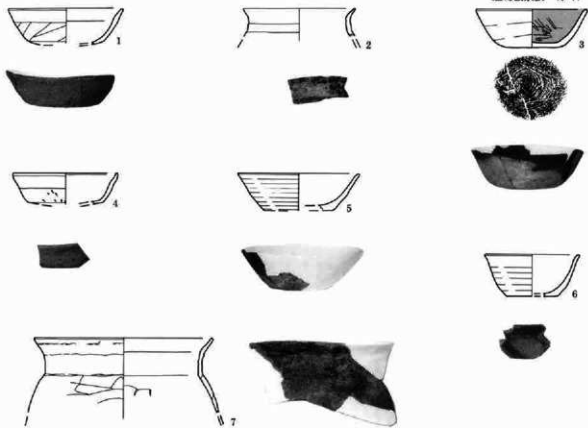


0 1:80 2m



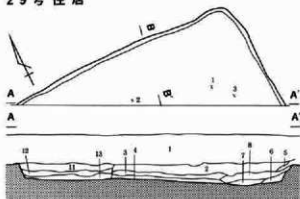
形状 短軸3.4m、長軸4.1mで、東西に長軸をもつ小形縦長方形住居。44号住居に住居の形状、規模、軸線の傾きが比較的近似するが、伴出する土器の年代は異なる。床面 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っており、貼床はない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴と認定できるピットはない。竈跡 確認した壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。遺物 床面に密着した土器はないが、床面上5~20cmの範囲に土師器杯・甕、ロクロ土師器杯・須恵器杯・鉄鍬・鉄製紡錘車の軸が出土する。これらの土器には大きな型式差が認められないため、住居の埋没過程の一時期に廃棄されたものと考えられ、この住居に伴伴するものではないが、住居の年代はこれらの土器の年代に比較的近いものと判断した。重複 住居の南西隅で29号住居と重複する。29号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得、これはそれぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。方位 +71° 面積 13.68㎡(推定)。





28号住居出土遺物

29号住居



- 1 耕作土。
- 2 褐色土。As-A、Hr-FP、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土。As-A、Hr-FPを少量含みシルト質。

L=87.70m
0 1:80 2m

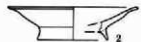


- 4 黒褐色土。少量のAs-A、Hr-FP、若干のシルトを含む。
- 5 黄褐色土。シルトを多く含む。
- 6 褐色土。シルトを含む。
- 7 暗茶褐色土。As-A、Hr-FPを少量含み、シルト粒多い。
- 8 茶褐色土。As-A、Hr-FP、シルト粒を多く含む。
- 9 黒色土。As-A、Hr-FPを多く含む。
- 10 黒色土。As-A、Hr-FPを少量含む。
- 11 暗茶褐色土。As-A、Hr-FP、炭化物を含む。
- 12 茶褐色土。As-A、Hr-FPを少量含む。
- 13 褐色土。シルト、As-A、Hr-FPを少量含む。

形状 住居の大半の部分が調査区域外のために、外形を確定することができない。床面 基整層を30cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っており、貼床はない。柱穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 確認した範囲の壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。遺物 住居東側の床面直上より須恵器高台付埴、覆土内より須恵器皿・土師器甕が出土し、これらに型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。重複 住居の北西部で28号住居と重複する。この住居が28住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得、この順序はそれぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。方位 +89° 面積 測定不可能。29号住居構築面



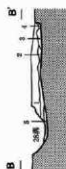
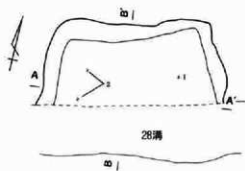
0 1:80 2m



0 1:4 10cm

30号住居

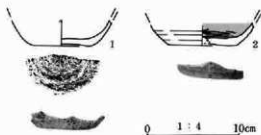
遺物観察表 11



L=67.10m
0 1:80 2m

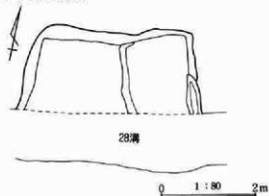


- 1 淡茶褐色土。Hr-FA、As-B、少量の炭化物を含む。
- 2 褐色土。Hr-FA、黄褐色砂質土を含む。
- 3 暗黄褐色土。Hr-FAを含む。
- 4 暗黄褐色砂質土。
- 5 褐色土。Hr-FAを含む(床面に貼ったものか?)。

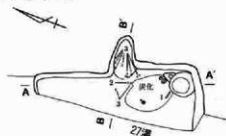


形状 住居の南半部が後世の溝に切られているため、全形を確認することができない。確認した東西軸は3.8mを測る。**床面** 基盤層を25cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 確認した範囲の壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。**遺物** 住居西側の床面直上より須恵器環、住居東側の床面直上よりロクロ土師器環が出土し、これらが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 他の住居と重複することなく単独で占地するが、立地する位置的な関係から29号住居との同時存在はあり得ない。**方位** +78° **面積** 測定不可能。

30号住居構築面



31号住居

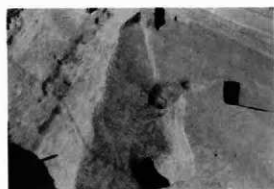


層

- 1 茶褐色土。少量のHr-FP、炭化物、シルトを含む。
- 2 褐色土。少量のHr-FP、炭化物、シルトを含む。
- 3 赤褐色土。焼土ブロック、炭化物層。
- 4 明褐色土。シルト、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土。多量の炭化物、少量のHr-FPを含む。
- 6 赤褐色土。焼土、炭化物層。
- 7 黒灰色土。灰層。
- 8 明茶褐色土。シルト、炭化物を含む。
- 9 黒灰色土。灰層。

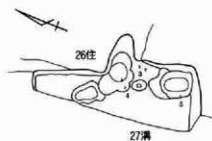
L=87.00m
0 1:80 2m

形状 住居の西半部が重複する溝に切られて、外形を確定することができない。確認した南北軸は3.6mを測る。**床面** 基礎層を35cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の中央部に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き60cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。**貯蔵穴** 住居の南東隅に直



径50cm、深さ25cmの円形プランで設置する。**遺物** 竈内より土師器壺、竈手前の床面直上より須恵器高台付塊が出土し、これらが住居の年代を示す。この他に、住居南東隅の床面に密着して刀子が出土する。**重複** 住居の東側で26号住居と重複する。この住居が26住居の覆土を切って構築する平面精査、土層断面の所見を得た。**方位** +70° **面積** 測定不可能。

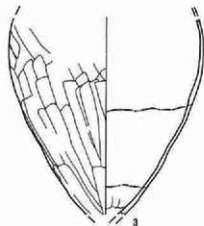




0 1:80 2m



0 1:2 5cm

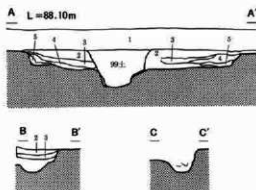
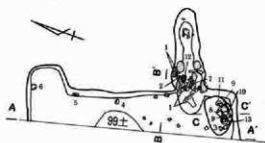


0 1:4 10cm



31号住居出土遺物

32号住居



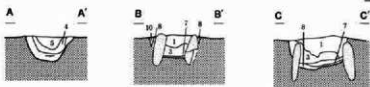
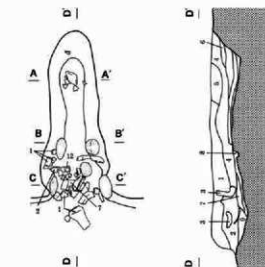
- 1 褐色土。現耕作土。
- 2 褐色土。明黄褐色ローム粒、Hr-FP粒、炭化物を含む。
- 3 褐色土。2層と同様であるが、しまりが弱く黄褐色シルトブロックを含む。
- 4 褐色土。黄褐色シルトブロックを多く含む。
- 5 褐色土。3層に類似。

L=87.60m
0 1:60 2m

形状 住居の西半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した南北軸は4.5mを測り、東壁の北端に幅90cm、奥行き50cmの張り出し部をもつ。床面 基盤層を40cm掘り込んで構築面とし、この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。確認した範囲の生活面は住居の中央部が後世の土壌に切られている他は、平坦で整っている。柱穴 確認した範囲の床面に主柱穴はなく、壁にも柱穴の痕跡がない。竈跡 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅50cm、奥行き60cmでその全てを壁外に透り出す燃焼部壁外型を呈し、焚口部の両側と奥壁の両側に石材を埋め込む。煙道は火床の底面から80cm伸びて、緩やかな勾配で立ち上がる。火床中央部の両側に据えられた石材は支脚の可能性が高いが、向って左側の石材は高さが低く、上部に須恵器高台付塊が置かれた状態で出土している。貯蔵穴 住居の南東隅に幅50cm、長さ80cm、深さ25cmの不整長方形プランで設置する。遺物 竈内より土師器壺・須恵器高台付塊・羽釜、貯蔵穴内より須恵器杯・高台付塊が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +78° 面積 測定不可能。



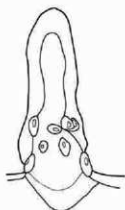
32号住居窟



L=87.60m 0 1:40 1m

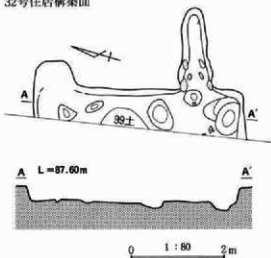
概

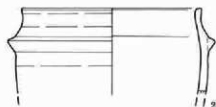
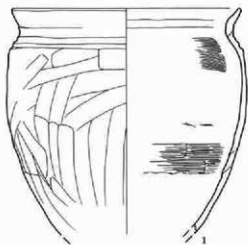
- 1 暗褐色土。多量のHr-FP微粒を層全体に含み、やや砂質。
- 2 暗褐色土。1層に比べ若干の炭化物を含むため黒色味がやや強い。Hr-FPの量は1層より少ない。
- 3 明黄褐色土。地山である明黄褐色砂質土で、ブロック状に混入する。
- 4 赤褐色土。焼土が主体。若干のHr-FP微粒を含む。
- 5 茶褐色土。焼土が小ブロック状に混入する。
- 6 淡褐色土。少量の焼土を含み、Hr-FP微粒をごくわずか含む。
- 7 黒色土。炭化物、灰、焼土層。
- 8 褐色土。焼土。
- 9 黄褐色土。焼土を10%含む。
- 10 黄褐色砂質土。焼土粒を10%含む。



0 1:40 1m

32号住居構築面

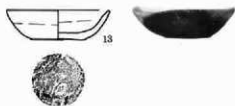




32号住居出土遺物

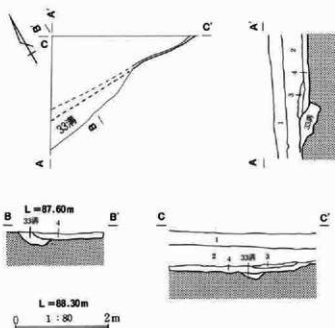
0 1:4 10cm





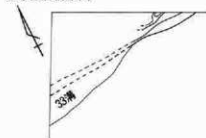
0 1:4 10cm

33号住居



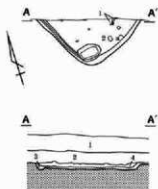
- 1 褐色土。小礫を含む客土。
- 2 褐色土。耕作土。
- 3 にぶい黄褐色土。鉄分が斑文状に沈着し、明黄褐色シルト大ブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土。3層に類似するが鉄分の沈着がやや少ない。明黄褐色シルトブロックを含む。

33号住居構築面



南壁の一部を検出するのみで住居の外形を確定することができず、復原が可能な伴出土器もないために年代も不明である。重複する33号溝の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。方位測定不可能。面積測定不可能。





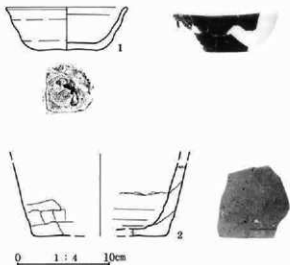
- 1 褐色土。礫を含む客土。
- 2 にぶい黄褐色土。Hr-FP小粒を含む構作土。
- 3 褐色土。明黄褐色シート大ブロック、明黄褐色ローム粒、Hr-FP粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土。3層に類似するがやや黒色味が強く、炭化物を含む。



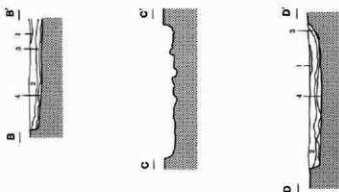
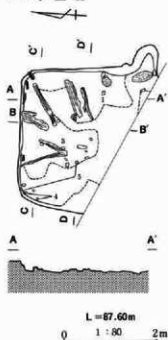
34号住居構築面



形状 住居の大半の部分が調査区域外で、外形を確定することができない。床面 基盤層を15cm掘り込んで構築面とし、この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面とする。確認した範囲の生活面は平坦で整っている。柱穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 確認した範囲の壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切ない。壁溝 幅5cm、深さ5cmで、西壁下に巡る。遺物 床面直上よりロクロ土師器杯・須恵器甕が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 測定不可能。面積 測定不可能。

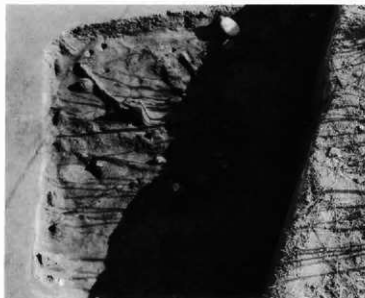


35号住居

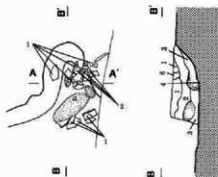


- 1 褐色土。暗褐色土ブロック、明黄褐色ローム粒、Hr-FP粒、少量の炭化物を含む。
- 2 褐色土。1層に類似するが、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。1層よりやや炭化物を多く含む。
- 3 褐色土。2層に類似するが、2よりにぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、2より大きな炭化物を含む。特に壁際に炭化物多い。
- 4 黄色砂質土。若干の褐色土をブロック状に含む。

形状 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.0mを測る。**床面** 基盤層を25cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っている。この住居は焼失住居で、住居の中央部に向かって崩れ落ちた炭化材が床面に密着して出土している。**柱穴** 壁内にも柱穴の痕跡はない。壁外にも柱穴の痕跡はない。**竈跡** 東壁に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmでその全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。焚口部の右側に補強用に据えた石材を検出した。また、焚口部の手前に崩れ落ちた状態で出土する石材は、焚口部に横架されていた可能性が高い。**遺物** 竈内より須恵器壺、住居北西部の床面直上より須恵器杯・高台付壺が出土し、これらが住居の年代を示すと判断した。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +87° **面積** 測定不可能。



35号住居竈



竈

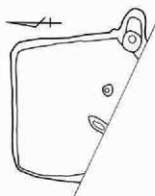
- 1 黒褐色土。φ2~4mm大のHr-FPを2~3%、褐色砂を5%含む。
- 2 黄褐色土。粘質土、黒褐色土ブロックを少々含む。
- 3 黒褐色土。黄褐色土粒、焼土粒を2~3%含む。
- 4 褐色土。焼土を30%含む。
- 5 暗褐色土。焼土を10%、黄褐色土ブロックを5%含む。
- 6 黄褐色粘質土ブロック。



L=87.50m
0 1:40 | m

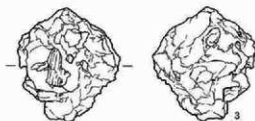
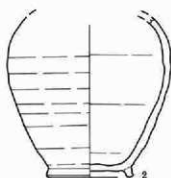
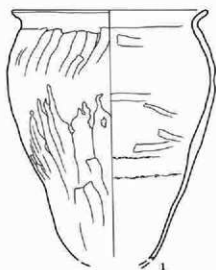


35号住居構築面



0 1:80 2m





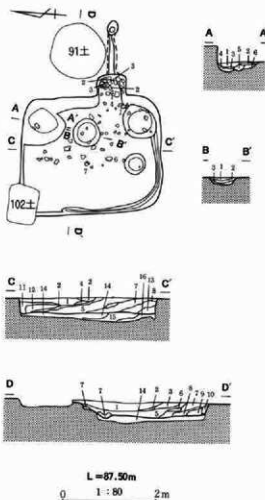
0 1:2 5cm



35号住居出土遺物

0 1:4 10cm

36号住居



住居

- 1 暗褐色土。φ2~5mm大のHr-FPを2~3%、黄褐色土ブロックを5%含む。
- 2 黒色土。炭化物が主体をなす。
- 2' 黄褐色土。炭化物、Hr-FPを2~3%含む。
- 3 暗褐色土。1層に類似。1層よりHr-FPを多く含む。
- 4 黄褐色土。ブロック状。
- 5 黒褐色土。φ2~7mm大のHr-FPを5%、黄褐色土の小ブロックを2~3%含む。
- 6 黄褐色土。灰白砂質土を小ブロック状に含む。
- 7 黄褐色土。φ2~3mm大のHr-FP粒を2~3%含み砂質土に近い。
- 8 黒褐色土。5層に類似。5層よりHr-FPが少ない。
- 9 黒褐色土。Hr-FPをほとんど含まず、黄褐色土を10%含む。
- 10 黒褐色土。9層に類似。Hr-FP粒を1%含む。
- 11 暗褐色砂質土。φ1~2mm大のHr-FPを10%含む。
- 12 黒褐色土。5層に類似。黄褐色土ブロックはほとんどみられない。
- 13 黄褐色砂質土。
- 14 黒褐色土。黄色砂質土ブロックを50%、Hr-FP粒を1~2%含む。
- 15 黒褐色土。14層と同様。φ2~3mm黄色粒を3~6%含む。
- 16 黒褐色土。黄色砂質土ブロックを20%、黄色砂ブロックを3~5%含む。

1号ピット

- 1 暗褐色土。褐色砂ブロックを5%含む。
- 2 暗褐色土。褐色砂ブロックを20~30%含む。
- 3 暗褐色土。褐色砂ブロックを10%含む。

1号土坑

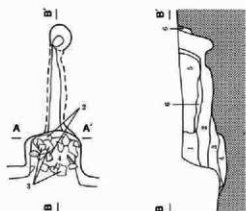
- 1 暗褐色土。φ2~3mm大のHr-FP粒を1%、炭化物を5%含む。
- 2 黄褐色土。黄色砂を5%含む(粘床的?)。
- 3 暗黄褐色土。黄褐色砂。2層のブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土。灰褐色砂を10%含む。
- 5 黒褐色土。灰褐色砂をブロック状に20%含む。
- 6 黒褐色土。灰褐色砂、黄褐色砂を10%、炭化物を2~3%含む。

形状 短軸2.5m、長軸2.9mで、南北に長軸をもつ超小形横長長方形住居。14号住居に住居の形状、規模、軸線の傾きが近似し、伴出する土器の年代も近い。**床面** 基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ10~20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡はない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmの方形で、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は火床のほぼ底面から水平に1.1m伸びて、115°の角



度で立ち上がる。**貯蔵穴** 住居の南東隅に直径60cm、深さ30cmの不整形円形プランで設置する。**壁溝** 幅5~10cm、深さ5~10cmで、西壁の北側から南壁にかけての壁下に巡る。**遺物** 竈内より土師器壺・須恵器羽釜、竈西側の床面直上より灰軸陶器皿が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +89° **面積** 7.54㎡。

36号住居電



L = 87.50m
0 1 : 40 1m

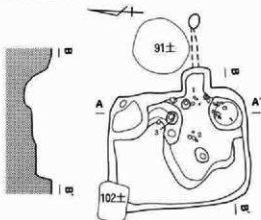


0 1 : 40 1m

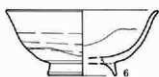
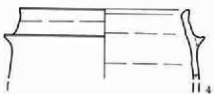
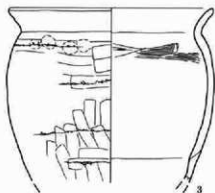
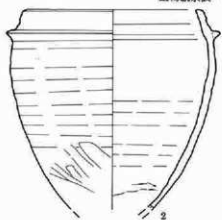
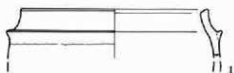
電

- 1 暗褐色土。砂質を呈し、Hr-FP微粒を少量含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒、Hr-FP微粒を1層に比べやや多く含む、よく締まる。
- 3 褐色土。Hr-FP微粒、炭化物をごくわずかに含む。
- 4 黄褐色土。焼土、褐色土の小ブロックを若干含む。
- 5 黄褐色土。砂質(天井部か)。
- 6 赤褐色土。焼土層であり、天井部の焼けた部分と思われる。

36号住居構築面



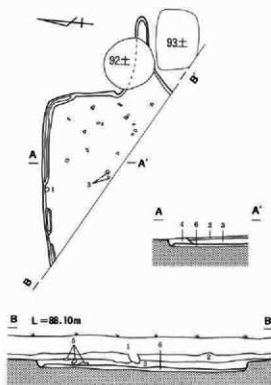
L = 87.50m
0 1 : 80 2m



0 1:4 10cm

36号住居出土遺物

37号住居



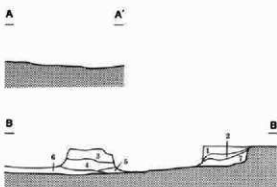
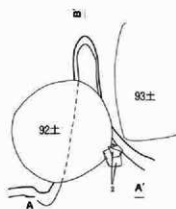
- 1 耕作土。
- 2 暗褐色土。φ2~5mm大のHr-FPを1~2%、褐色砂を5%含む。
- 3 黄褐色土。褐色砂を20%、暗褐色土ブロックを20%、φ2~3mmのHr-FP粒を1~2%含む。
- 4 暗褐色土。φ1~2mm大のHr-FP粒を1~2%、褐色砂を10%含む。
- 5 黄褐色土ブロック。
- 6 黄褐色砂質土。暗褐色土をブロック状に20~30%含む(床面を構成)。



L=87.80m
0 1:80 2m

形状 住居の南西部が調査区域外のため、外形を確定することができない。床面 基盤層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。確認した範囲の生活面は平坦で良く整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡はない。竈跡 東壁に設置するが、重複する土壌に切られて燃焼部、煙道部の全形は確認できない。壁溝 幅10cm、深さ10cmで、北壁から東壁北側にかけての壁下を巡る。遺物 北壁際中央部の床面に密着して須恵器杯、竈内より土師器甕が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +85° 面積 測定不可能。

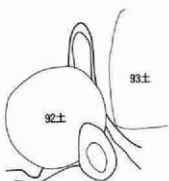
37号住居竈



層

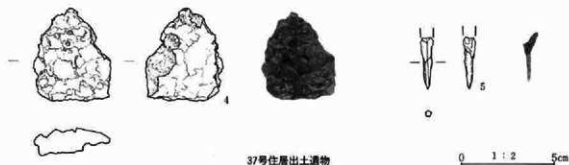
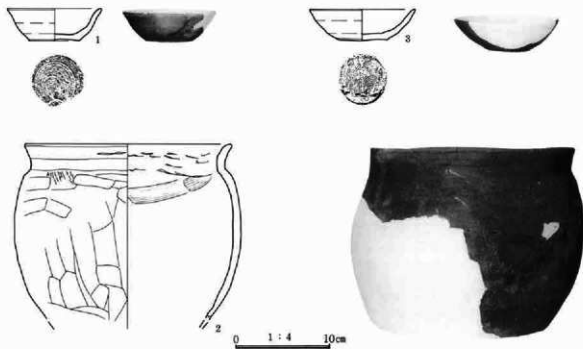
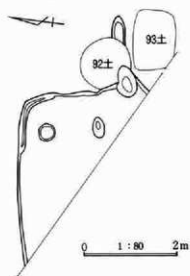
- 1 明褐色土。粒子の細かい砂質土。
- 2 暗褐色土。Hr-FP微粒を若干含む。
- 3 黒褐色土。若干のHr-FP微粒、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土。2層と同様であるが、若干の焼土を含む。
- 5 暗褐色土。炭化物、灰を多く含む。
- 6 黒褐色土。焼土粒を2~3%、黄色砂ブロックを10%含む。
- 7 黄色砂質土。焼土粒を1%含む。

L = 67.60m
0 1 : 40 1m



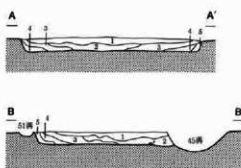
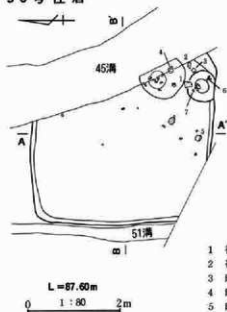
0 1 : 40 1m

37号住居構築面



37号住居出土遺物

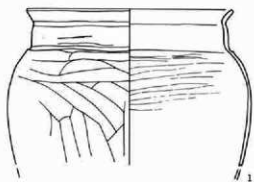
38号住居



- 1 褐色土。少量のHr-FP微粒および細粒を層全体に含む。
- 2 褐色土。灰色を呈したシルト質のブロック、少量のHr-FP微粒を含む。
- 3 暗褐色土。Hr-FP微粒の混入は1層より少なく、焼土、シルトのブロックを含む。
- 4 暗褐色土。シルト質の土が混入しているため、やや灰色味を呈す。
- 5 暗褐色土。地肌である黄褐色土をブロック状に含む。壁の崩壊土と思われる。

形状 住居の東壁部が重複する溝に切られているために、外形を確定することができない。確認した南北軸は4.2mを測る。**床面** 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁に設置していたものと考えられるが、重複する溝に切られて確認できない。**貯蔵穴** 住居の南東隅に直径60cm、深さ25cm、直径1.0m、深さ20cmの2個の貯蔵穴椽ビットを検出した。**遺物** 住居南東隅の床面に密着して土師器壺・杯・須恵器高台付埴が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +93° **面積** 測定不可能。





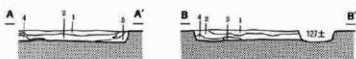
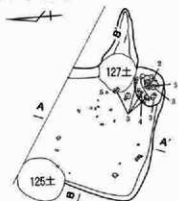
0 1 : 4 10cm



38号住居出土遺物

0 1 : 2 5cm

39号住居



- 1 暗褐色土。少量のHr-FP微粒を層全体に含む。
- 2 暗褐色土。1層に比べやや黒色味が強い。Hr-FP微粒の混入率は1層と同様。
- 3 褐色土。Hr-FP微粒を若干含む。
- 4 明褐色土。地山である明黄褐色土が主体である。壁の崩壊土か。
- 5 暗褐色土。Hr-FP微粒を若干含む。

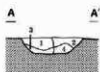
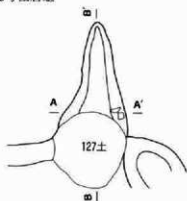
L=87.50m

0 1:60 2m

形状 住居の北壁部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は2.8mを測る。**床面** 基礎層を20cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っており、貼床はない。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁に設置する。燃焼部を重複する土塊に切られて全形を確認することはできないが、燃焼部の全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型と推定される。**貯蔵穴** 住居の南東隅に短軸60cm、長軸90cm、深さ15cmの不整形円形プランで設置する。**遺物** 竈西側の床面直上より須恵器杯、貯蔵穴内より須恵器杯・羽釜が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +107° **面積** 測定不可能。



39号住居竈

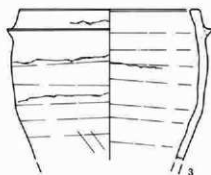
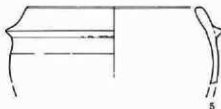
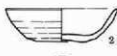


竈

- 1 暗褐色土。砂質で、少量の炭化物を含む。
- 2 赤褐色土。焼土ブロックを多く含む。
- 3 明黄褐色土。壁の崩壊土と推定される。
- 4 暗褐色土。1層と同質。



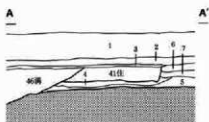
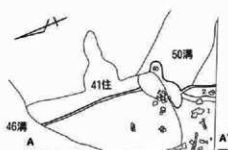
L=87.50m
0 1:40 1m



39号住居出土遺物

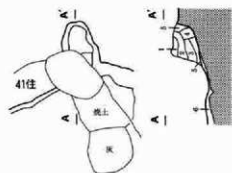
0 1:4 10cm

40号住居

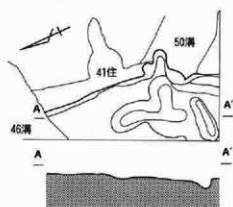


- L = 89.30 m
0 1 : 80 2 m
- 1 表土。現代の埋土。
 - 2 灰褐色土。水田耕作土。
 - 3 褐色土。水田の田床。
 - 4 暗褐色土。φ2~3mm大のHr-FPを2~3%、黄色砂ブロックを5%含む。
 - 5 暗灰褐色土。φ2~3mm大のHr-FPを1%、炭化物を微量含む。
 - 6 暗灰褐色土。φ2~3mm大のHr-FP粒を3%含む。
 - 7 暗灰褐色土。6層に類似。6層より粘性強い。

形状 住居の西西部が調査区域外のため、外形を確定することができない。住居の北側も重複する溝に切られて、東壁の一部を検出するにすぎない。床面 基盤層を40cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は比較的平坦で整っている。柱穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 重複する40号住居に切られて燃焼部の一部を検出するのみで、全形を確認することができない。遺物 東壁際南側の床面に密着して土師器環が出土し、これが住居の年代を示す。この他に、東壁際南端の床面上32cmより出土する須恵器環は出土レベルが高いにもかかわらず、土師器環との型式差が認められない。重複 住居の大半の部分が41号住居と重複する。41号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査及び土層断面の所見を得た。この新旧関係は、それぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。方位 +99° 面積 測定不可能。

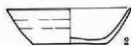


- L = 87.40 m
0 1 : 40 1 m
- 1 褐色土。焼土を30%、φ2~3mm大のHr-FPを2~3%含む。
 - 2 暗褐色土。焼土を10%、φ2~3mm大のHr-FPを5%、灰褐色砂ブロックを10%含む。
 - 3 暗褐色土。焼土粒を2~3%、φ2~3mm大のHr-FP、2~3%黄色砂ブロックを5%含む。
 - 4 黄褐色土。黄色砂を10%、Hr-FP粒を2~3%含む。
 - 5 暗黄褐色土。焼土粒を5%、黄色砂を10%含む。
 - 6 暗黄褐色土。焼土、灰を30%含む。

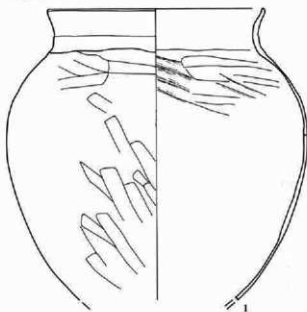


L=87.10m

0 1:80 2m



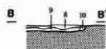
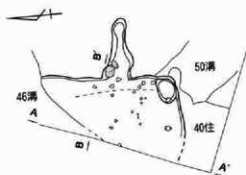
0 1:2 5cm



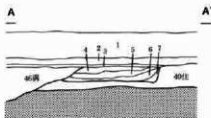
40号住居出土遺物

0 1:4 10cm

41号住居



L=68.30m
0 1:80 2m



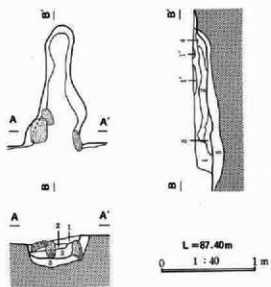
- 1 表土。現代の埋土。
- 2 灰褐色土。水田耕作土。
- 3 褐色土。水田の田床。
- 4 暗褐色土。φ2~3mm大のHr-FPを2~3%、炭化物を含む(砂質土に近い)。
- 5 暗灰褐色土。φ2~4mm大のHr-FPを3%、炭化物、焼土粒を1%含む。
- 6 暗灰褐色土。5層より粘性強い。φ2~3mm大のHr-FP、焼土粒を1%含む。
- 7 暗褐色土。6層に類似。焼土粒を1%含む。
- 8 暗褐色土。少量のHr-FP微粒を層全体に含む。
- 9 暗褐色土。Hr-FP微粒をほとんど含まず。
- 10 明黄褐色土。壁の崩壊土か。



形状 住居の西半部が調査区域外で、北半部が重複する溝に切られているため、外形を確定することができない。床面基盤層を30cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っている。柱穴確認した範囲の床面に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 東壁に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmの方形で、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。焚口部の右側と奥壁の左側に、補強用として据えられていた石材が遺存していた。煙道は火床の底面からほぼ水平に80cm伸びて、緩やかな角度で立ち上がる。

貯蔵穴 住居の南東隅に直径50cm、深さ10cmの不整形円形プランで設置する。**遺物** 住居南東隅の床面直上より須恵器羽釜が出土し、これが住居の年代に近いものと判断した。**重複** 住居の南半部で40号住居と重複する。この住居が40号住居の覆土を切って構築する平面精査及び土層断面の所見を得た。この新旧関係は、それぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。**方位** +101° **面積** 測定不可能。

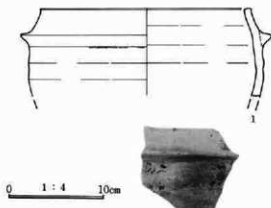
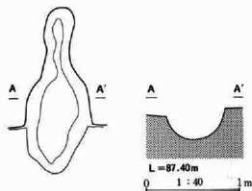
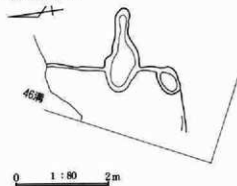
41号住居竈



竈

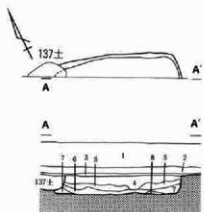
- 1 灰褐色土。灰色のシルト、Hr-FP微粒、少量の焼土を含む。
- 1' 焼土層。
- 2 赤褐色土。焼土ブロックを多く含む。
- 3 褐色土。灰色シルト、焼土を含む。
- 4 暗褐色土。灰、炭化物、Hr-FP微粒を若干含む。
- 5 黒褐色土。炭化物を多量に含む。

41号住居構築面



41号住居出土遺物

42号住居



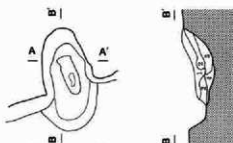
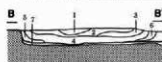
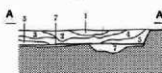
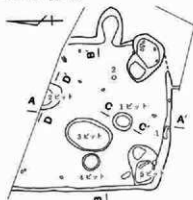
- 1 表土。
- 2 暗褐色土。現水田耕土。
- 3 褐色土。
- 4 黒褐色砂質土。φ5mm大のHr-FPを2~3%、黄色砂ブロックを10%含む。
- 5 黒褐色砂質土。4層に類似。4層より黄色砂ブロックを多く(20~30%)含む。
- 6 黒褐色砂質土。4・5層に類似。4・5より黄色砂ブロックを多く(50%)含む。
- 7 黒褐色砂質土。6層に類似。Hr-FPをほとんど含まない。
- 8 黒褐色砂質土。7層に類似。Hr-FPをほとんど含まない。黄色砂をしま状に20%含む。

L=86.30m
0 1:80 2m

形状 住居の大半の部分が調査区域外で北壁部を検出したにすぎず、外形を確定することができない。床面 基盤層を40cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で整っている。柱 穴 確認できない。竈 跡 確認した範囲の壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。遺物 復原が可能な伴出土器はない。重複 単独で占地する。方位 +109°(推定)。面積 測定不可能。



43号住居



層

- 1 明赤褐色土。焼土を少量に含む。
- 2 灰黒色土。多量の灰、炭化物、少量の焼土を含む。
- 3 灰黒色土。2層に比べ灰、焼土の混入が少ない。
- 4 明灰褐色土。少量の焼土が混入する。

形状 住居の北半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.3mを測る。床面 基礎層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の南東部が中央部より10cm程深く掘り込まれている。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面とする。生活面にはいくつかのピットが認められるが、この住居に伴うか否かの判定ができない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 東壁に設置する。竈体部は幅30cm、奥行き60cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。貯蔵穴 住居の南東隅に短軸60cm、長軸80cm、深さ20cmの楕円形プランで設置する。遺物 竈西側の床面直上より土師器甕、覆土内より土師器杯が出土し、これらを除いて住居の年代を判定できる土器はない。この他に、南壁際中央部の床面直上より鎌が出土する。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +96° 面積 測定不可能。

- 1 暗褐色土。Hr-FP微粒を層全体に含む。
- 2 暗褐色土。1層よりやや明るく、Hr-FPをごくわずかに含む。
- 3 暗褐色土。1層と同質であるが、Hr-FP微粒の混入が多い。
- 4 黒褐色土。Hr-FP微粒を若干含む。
- 5 黒褐色土。炭化物の混入があるため、4層に比べ黒色が強い。
- 6 褐色土。地山の明黄褐色土のブロックが主体。壁の崩壊土と思われる。
- 7 灰褐色砂質土。焼土粒、炭化物を1写含む。



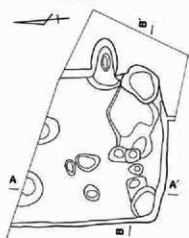
- 1号ピット
- 1 褐色土。地山の明黄褐色土が多く混入するため、やや黄褐色味を呈す。若干の炭化物、Hr-FP微粒を含む。
 - 2 暗褐色土。層上半部に炭化物、焼土が混入。1層より粘性が強い。

- 2号ピット
- 1 褐色土。地山の明黄褐色土が小ブロックで混入する。少量のHr-FP微粒を含む。
 - 2 褐色土。1層に比べ、Hr-FPの混入は少ない。

0 1:80 2m



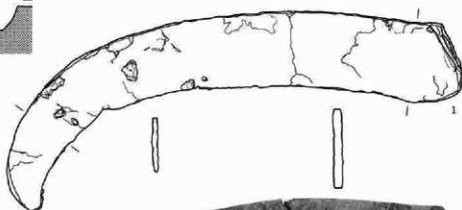
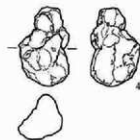
43号住居構築面



L=87.30m
0 1:80 2m



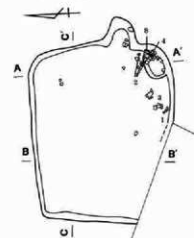
0 1:4 10cm



43号住居出土遺物

0 1:2 5cm

44号住居



L=37.90m

0 1:80 2m

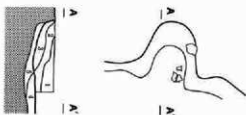


- 1 黒褐色土、やや粘質。
- 2 暗褐色土、砂質。
- 3 暗褐色土、少量の炭化物、焼土を含む。

形状 住居の南西隅は調査区域外のために確認できないが、短軸3.1m、長軸3.8mで、東西に長軸をもつ小形縦長長方形住居と推定する。**床面** 基盤層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面には3個の床下土塊を掘り、この土塊の部分に貼床して平坦な生活面とする。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmの半円形で、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。**貯蔵穴** 住居の南東隅に短軸40cm、長軸60cm、深さ25cmの楕円形プランで設置する。**遺物** 南壁際の床面に密着して須恵器高台付埴、住居南東隅の床面に密着して須恵器杯、南壁際の床面直上より須恵器羽釜が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 46号住居と重複する。新旧関係を判定する実証的な資料を欠き、伴出する土器の型式でも明確な新旧関係の判定ができない。**方位** +87° **面積** 10.97㎡(推定)。



44号住居窟



階

- 1 暗褐色土。灰褐色土が少量混入。焼土はごく微量。
- 2 暗褐色土。茶褐色土の小ブロックが少量混入。
- 3 暗褐色土。茶色味強く、焼土、炭化物が少量混入する。
- 4 炭化物、灰層。茶褐色土の小ブロック、焼土含む。
- 5 暗灰褐色土。暗褐色土の小ブロックごとの凝土層。



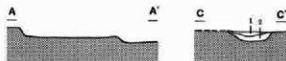
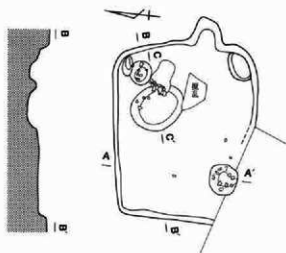
L = 87.70m
0 1 : 40 1m



0 1 : 40 1m



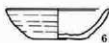
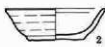
44号住居構築面



1号床下土壌

- 1 暗褐色土。少量の炭化物を含む。
- 2 黒褐色土。Hr-FP微粒、炭化物を少量含む。

L = 87.80m
0 1 : 80 2m

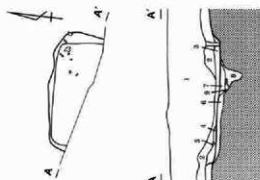


0 1:2 5cm

44号住層出土遺物

0 1:4 10cm

45号住居



L=88.80m
0 1:80 2m

- 1 攪乱。
- 2 黒褐色土。砂質、黄褐色土粒を多く含む。
- 3 褐色土。砂質で、多量の黄褐色土の粒子、炭化物、焼土を含む。
- 4 黄褐色土。地山の黄褐色土がブロック状に混入。
- 5 褐色土。2層に類似。
- 6 黄褐色土。粒子が細かく、やや粘質。
- 7 暗褐色土。少量の黄褐色土小ブロック、炭化物、焼土粒を含む。
- 8 暗褐色土。砂質。黄褐色土の小ブロックを含む。
- 9 暗褐色土。6層に類似。壁の崩壊土か。

形状 住居の大半の部分が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は2.5mを測る。**床面** 基盤層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面には直径1.0m、深さ20cmの不整形ビットが認められる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面とする。**柱穴** 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 確認した範囲の壁面に竈の痕跡を示す焼土、粘土は一切検出できない。**遺物** 復原が可能な伴出土器はない。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +98°(推定)。**面積** 測定不可能。

45号住居構築面



0 1:80 2m



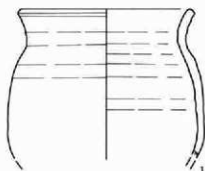


■

- 1 褐色土。砂質を呈し、焼土、炭化物を少量含む。
2 赤褐色土。砂質を呈し、焼土を多量に含む。

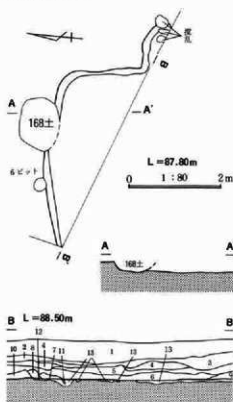
L = 87.60m
0 1 : 40 1m

形状 全体に住居の掘り込みが浅いため、竈の部分以外は確認できない。竈跡 残存状態が悪く、火床の掘り込み部以外は検出できない。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmと推定され、煙道は火床の底面から緩やかに立ち上がる。**遺物** 竈内より須恵器甕が出土し、これが住居の年代を示す。**重複** 44号住居と重複する。新旧関係を判定する実証的な資料を欠き、伴出する土器の型式でも明確な新旧関係の判定ができない。**方位** +105° (竈の主軸)。 **面積** 測定不可能。



0 1 : 4 10cm

47号住居



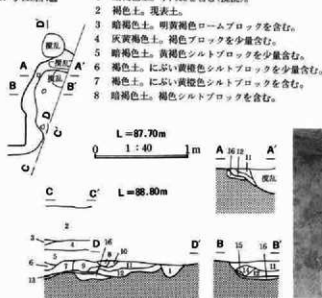
- 1 暗褐色土。灰土(瓦礫を含む)。
- 2 褐色土。攪乱。
- 3 暗褐色土。攪乱(灰化物を含む)。
- 4 褐色土。黄褐色シルトブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 暗褐色土。にぶい黄褐色小ブロック、明黄褐色軽石を少量含む。
- 6 暗褐色土。にぶい黄褐色小ブロック、明黄褐色軽石をやや多く含む。
- 7 褐色土。焼土粒、灰化物を少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土。にぶい黄褐色土ブロック、明黄褐色軽石を含む。
- 9 褐色土。にぶい黄褐色土ブロック、明黄褐色軽石を含む。
- 10 にぶい黄褐色土。しまりややあり(地山?)。
- 11 褐色土。粒子細かく粘性なし(攪乱?)。
- 12 黄褐色土。にぶい黄褐色土ブロックを含む。
- 13 黄褐色土。12層と同じ。



形状 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。床面 基盤層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は小さな起伏が多いが、全体に平坦である。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 東壁に設置する。南半部が調査区域外のために全形を確認することはできないが、燃焼部の全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型と推定される。遺物 復原が可能な伴出土器はない。

重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +88° 面積 測定不可能。

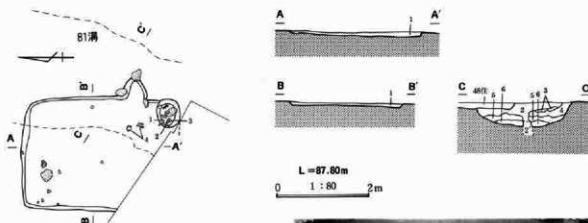
47号住居履



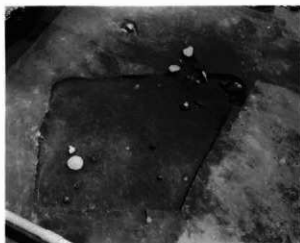
- 1 暗褐色土。小円礫を含む(攪乱)。
- 2 褐色土。現表土。
- 3 暗褐色土。明黄褐色ロームブロックを含む。
- 4 灰黄褐色土。褐色ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土。黄褐色シルトブロックを少量含む。
- 6 褐色土。にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
- 7 褐色土。にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
- 8 暗褐色土。褐色シルトブロックを含む。
- 9 にぶい黄褐色土。にぶい黄褐色シルトブロック、焼土粒を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土。9層にほぼ類似。
- 11 暗褐色土。焼土ブロックを多く含む。
- 12 暗褐色土。下部に炭化物を含む。
- 13 にぶい黄褐色土。シルト質(地山?)。
- 14 暗褐色土。焼土を多く含む。
- 15 黒色土。炭化材主体。
- 16 暗褐色土。炭化物、焼土粒を少量含む。



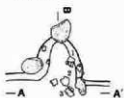
48号住居



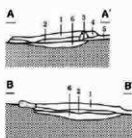
- 1 暗褐色土。茶褐色土の小ブロック、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土。シルト質。白色～黄褐色の軽石粒を含む。
- 2' 点線以下は色調暗くなり2層と3層が混じっているようである。
- 3 暗褐色土。シルト質。ほとんど均質。SPB・B'セクションでは炭化物を含む。
- 4 褐色土。シルト質。細粒砂の塊を含む。
- 5 暗褐色土。シルト質。黄褐色シルト(地山)塊を壁際に含む。
- 6 にぶい黄褐色土。中位～粗粒。砂層底部は地山のシルト層と乱れる。ラミナは認められない。



形状 住居の南西隅は擾乱を受けて確認できないが、短軸2.4m、長軸3.3mで、南北に長軸をもつ整った小形横長長方形住居と推定する。49号住居に住居の形状、規模、軸線の傾きが近似し、伴出する土器の年代も近い。**床面** 基礎層を5cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き50cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。焚口部の向って右側に補強用として据えた石材が遺存し、他の2個の石も使用状態は示していないが竈の構築材と考えられる。煙道は確認できない。**貯蔵穴** 住居の南東隅に短軸50cm、長軸60cm、深さ10cmの楕円形プランで設置する。**遺物** 竈西側の床面直上より須恵器高台付碗、貯蔵穴内より須恵器高台付碗・羽釜が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。なお、この住居は81号溝と住居の東半部で重複し、この住居が81号溝の覆土を切って構築する平面精査の所見を得ている。一方、81号溝には地割れ跡と、この内部に下方から立ち上がった噴砂を検出したことから、この地割れ跡は溝に後出する年代の地震に起因してできたものと判断することができる。地割れ跡の内部からは、81号溝に帰属すると考えられる土器器壺が出土し、81号溝はこの土器の年代に近いものと考えられる。また、地割れ跡を48号住居が切って構築する土層断面の所見を得ていることから、これらは81溝→地割れ跡(地震)→48住の順を示し、この新旧関係は、それぞれの遺構に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾がない。したがって、地割れ跡の成因となった地震は81号溝の年代を上限とし、48号住居の年代を下限とする年代幅のなかに位置付けることができる(169頁・81号溝、177頁・噴砂跡参照)。**方位** +88° **面積** 8.01㎡(推定)。



I 図

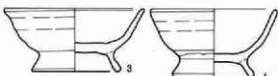
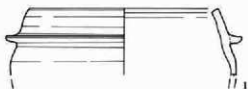


L=57.80m

0 1:40 1m

竈

- 1 暗褐色土。少量の茶褐色小ブロック、白色軽石、灰褐色土を含む。
- 2 暗褐色土。少量の炭化物を含む。
- 3 暗褐色土。やや灰色味を帯びる。
- 4 暗褐色土。3層に類するがやや茶色味が強い。
- 5 暗褐色土。茶褐色土の小ブロックを含む。
- 6 暗褐色土。茶褐色土、灰褐色土、炭化物、少量の機土を含む。



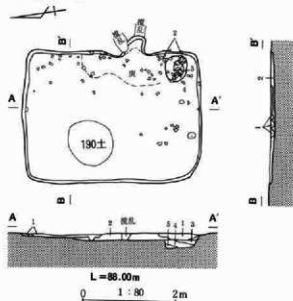
0 1:4 10cm



0 1:2 5cm

48号住居出土遺物

49号住居

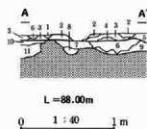
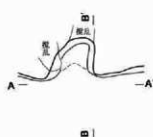


- 1 暗褐色土。茶褐色土粒、白色軽石、灰褐色シルト粒を含む。
- 2 暗褐色土。茶褐色土の小ブロック、下層に炭化物粒を含む。
- 床下土壌
- 3 褐色土。シルト質。
- 4 暗褐色土。焼土、灰を多く含む。
- 5 暗褐色土。シルト質で、ほとんど均質。

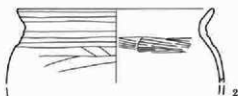
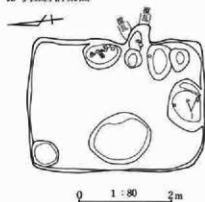
形状 短軸2.8m、長軸3.8mで、長軸を南北にもつ整った小形横長長方形住居。48号住居に住居の形状、規模、軸線の傾きが近似し、伴出する土器の年代も近い。**床面** 基盤層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面には5個の床下土壌を掘り、これらの上に貼床を施して平坦な生活面とする。**柱穴** 壁内にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅40cm、奥行き30cmの半円形で、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。燃焼部は攪乱を受けて確認できない。**貯蔵穴** 住居の南東隅に短軸40cm、長軸55cm、深さ15cmの不整形円プランで設置する。**遺物** 住居南東隅の床面直上より土師器甕・須恵器羽釜・ロクロ土師器高台付埴が出土し、これらが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +96° **面積** 10.15㎡。



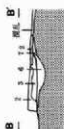
49号住居竈



49号住居構築面



0 1:4 10cm

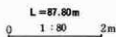
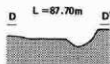
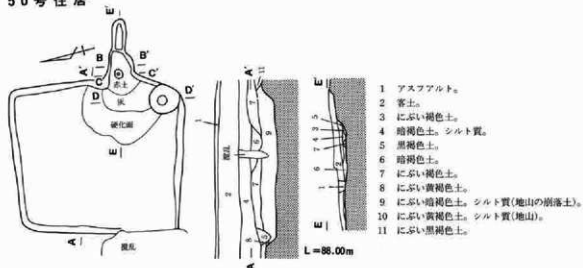


竈

- 1 暗褐色土。やや砂質、新しい時代の耕作痕と思われる。
- 2 暗褐色土。シルト質、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 3 黒褐色土。多量の灰、地山シルト粒、炭化物粒を含む。
- 4 黒褐色土。3層と同様だが、黄褐色シルトブロックが落ち込んでいる構築材か。
- 5 褐色シルト。ほとんど均質。
- 6 灰層。黄褐色シルト粒、焼土粒を含む。
- 7 黒褐色土。灰、黄褐色シルト粒、焼土粒、炭化物粒を含む。
- 8 暗褐色土。黒褐色土粒を含む(灰のブロック)。
- 9 暗褐色土。シルト質、黒褐色土粒を含む(灰のブロック)。
- 10 黒褐色土。多量の灰、炭化物、黄褐色シルトブロックを含む。
- 11 黒色土。6層と同じ。



50号住居

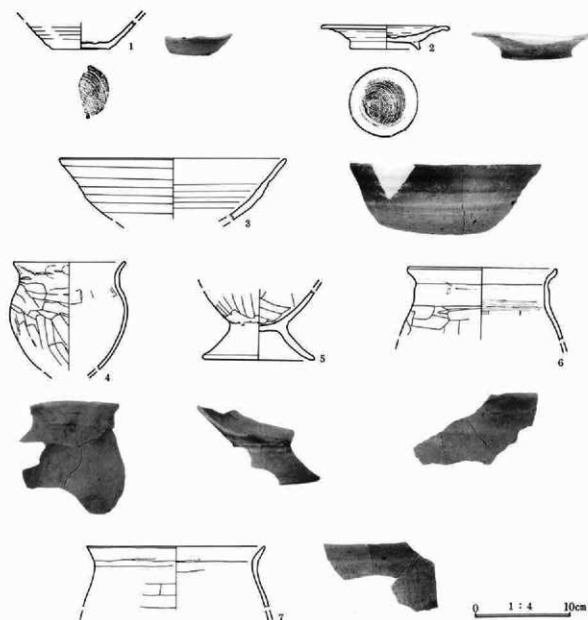


層

- 1 暗褐色土(擾乱)。
- 2 にぶい黄褐色土。シルト質。
- 3 黄褐色土。シルト質、焼土ブロック含む。
- 4 暗褐色土。シルト質、焼土ブロック含む。
- 5 暗褐色土。シルト質、焼土ブロック含む。
- 6 黒色土。多量の灰を含む。
- 7 暗褐色土。多量の焼土粒を含む。

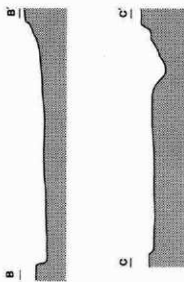
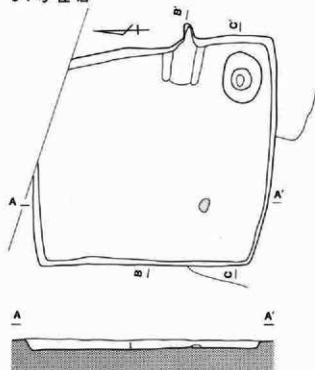


形状 短軸3.2m、長軸3.6mで、長軸を南北にもつ小形横長長方形住居。52号住居に住居の東西軸長、軸線の傾きが近似し、伴出する土器の年代も近い。**床面** 基盤層を30cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmで、その全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は火床の底面から段差をもって緩やかに60cm伸びる。火床の中央部は強く焼けた痕跡を残す。**貯蔵穴** 住居の南東隅に直径60cm、深さ15cmの円形プランで設置する。**遺物** 床面に近い位置から須恵器杯・皿・高台付碗、土師器台付壺・壺が出土する。これらに型式差が認められないことから、これらが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 住居の北半部で51号住居と重複する。この住居が51号住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。この新旧関係は、それぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。**方位** +101° **面積** 11.16㎡。



50号住居出土遺物

51号住居

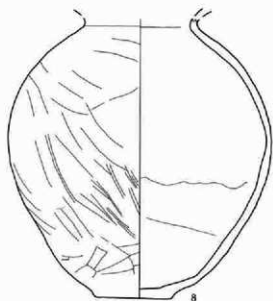


I 1 に近い黄褐色土。シルト～細粒砂が主体で均質。
黄白色軽石(As・C?)を僅かに含む。

L = 67.80m
0 1 : 80 2m

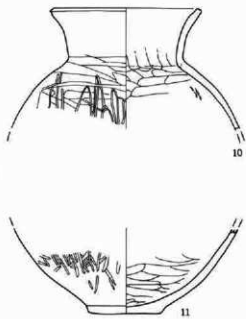
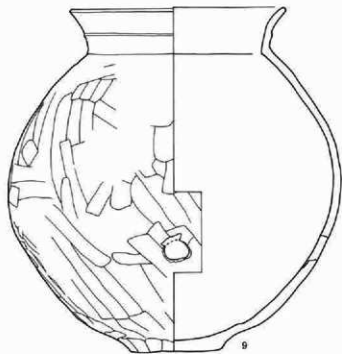
形状 住居の北東隅は調査区域外のため確認できないが、短軸4.6m、長軸5.0mで、やや南北軸が長い中形正方形住居。この遺跡で中形正方形に分類されるのはこの住居のみで、年代も他の住居と大きく異なる。
床面 基盤層を20cm掘り込んで床面とする。床面は全体に平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。遺存状態が悪いために袖部は基底部を除いて確認できないが、長さ70cmほどの袖部を壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床から僅かな段差をもって立ち上がり、壁外30cmまで緩やかな勾配で伸びる。**貯蔵穴** 住居の南東隅に短軸80cm、長軸1.0m、深さ30cmの方形プランで設置する。**遺物** 住居中央部の床面に密着して土師器杯、西壁中央部の床面直上より土師器壺が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 住居の南西部で50号住居と重複する。50号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。この新旧関係は、それぞれの住居に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。**方位** +93° **面積** 23.18㎡(推定)。





0 1:4 10cm

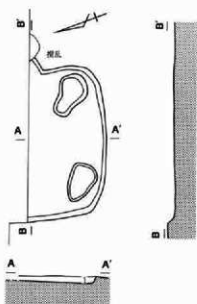
51号住居出土遺物



0 1:4 10cm

51号住居出土遺物

52号住居



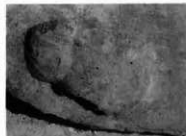
1. にぶい黄褐色土。シルト～細粒砂が主体で均質。
黄白色軽石(As-C?)を僅かに含む。

L = 67.60m
0 1 : 80 2m

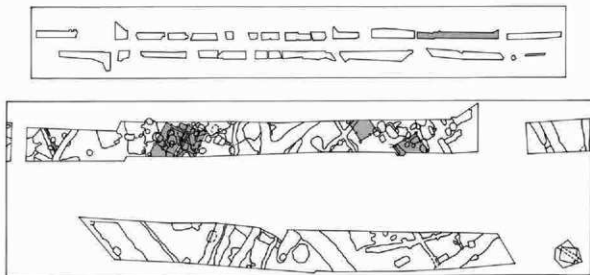
形状 住居の北半部が調査区域外のため外形を確定することはできないが、確認した東西軸は3.2mを測る。近接する50号住居に東西軸長、軸線の傾きが近似し、伴出する土器の年代も近い。**床面** 基盤層を15cm掘り込んで床面とする。確認した範囲の床面は平坦で整っている。**柱穴** 確認した範囲の床面に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁に設置するが大半が調査区域外で、さらに攪乱を受けているために全形を確認することができない。**貯蔵穴** 住居の南東隅と南西隅に深さ5cmほどの不整形ピットを検出したが、貯蔵穴とは認められない。**遺物** 覆土内より土器器坪が出土し、これが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 確認した調査範囲では他の住居と重複することなく、単独で占地する。**方位** +93° **面積** 測定不可能。



0 1 : 4 10cm



Ⅲ 掘立柱建物



1号掘立柱建物 遺構の西側が調査区域外のため、全形を確認することができない。東西に長軸をもつ長方形を呈し、確認した短軸である南北軸は4.2mを測る。主軸の方位は $+61^\circ$ である。柱穴の規模は直径30～60cm、深さ30～40cmで、柱痕は確認できない。2号掘立、13・19・20・21号住居と重複するが、新旧関係を判定する資料を欠く。年代を判定できる伴出遺物はないが、覆土の状況から中世以降のものと考えられる。

2号掘立柱建物 短軸2.4m、長軸4.0m、主軸の方位 $+55^\circ$ で、東西に長軸をもつ2間×2間の整った側柱式建物である。柱穴の規模は直径30～50cm、深さ10～30cmで、柱痕は確認できない。1号掘立、13・19・20・21号住居と重複するが、新旧関係を判定する資料を欠く。年代を判定できる伴出遺物はないが、覆土の状況から中世以降のものと考えられる。

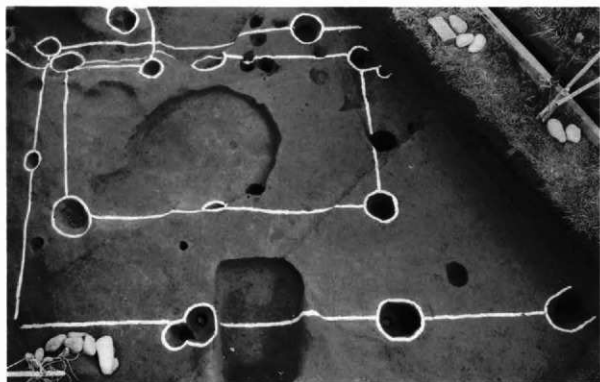
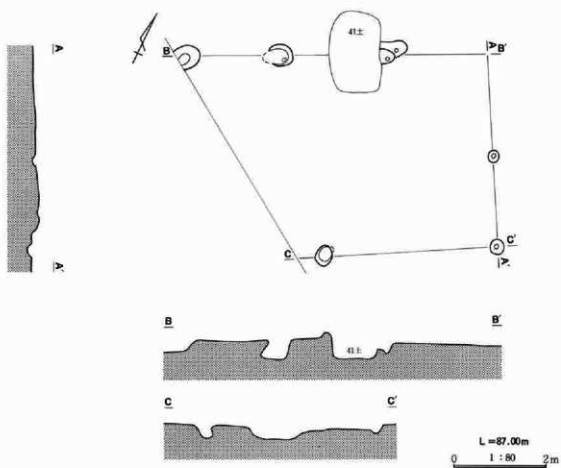
3号掘立柱建物 短軸2.4m、長軸2.8m、主軸の方位 $+54^\circ$ で、東西にわずかに長い1間×1間の側柱式建物である。柱穴の規模は直径30～50cm、深さ30～40cmで、柱痕は確認できない。3号掘立、13・21号住居と重複するが、新旧関係を判定する資料を欠く。年代を判定できる伴出遺物はないが、覆土の状況から中世以降のものと考えられる。

4号掘立柱建物 短軸2.4m、長軸4.6m、主軸の方位 $+54^\circ$ で、東西に長軸をもつ整った1間×2間の側柱式建物である。柱穴の規模は直径20～30cm、深さ20～60cmで、柱痕は確認できない。4号掘立、13・21号住居と重複するが、新旧関係を判定する資料を欠く。年代を判定できる伴出遺物はないが、覆土の状況から中世以降のものと考えられる。

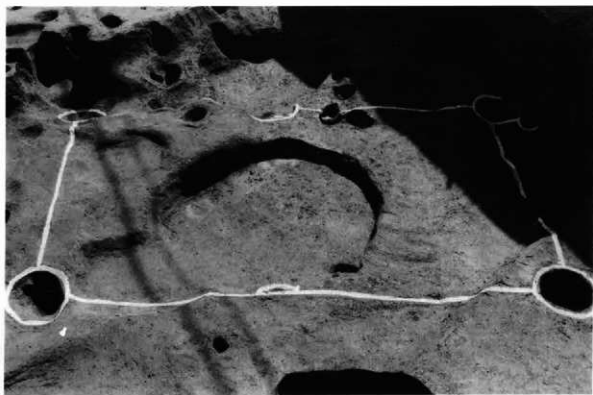
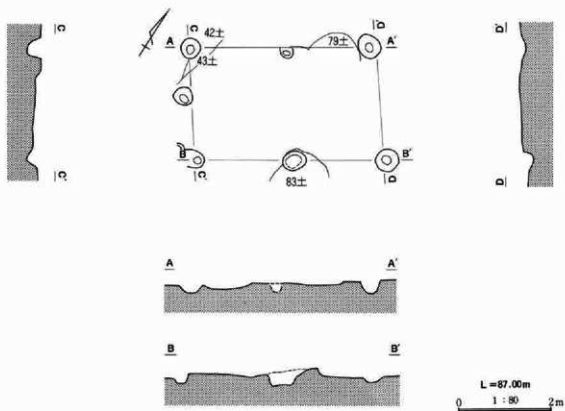
5号掘立柱建物 遺構の北半が調査区域外のため全形を確認することができないが、長軸を東西にもち、2間×2間の柱間をもつ側柱式建物の可能性が高い。方位は $+81^\circ$ である。柱穴の規模は直径20～50cm、深さ30～40cmで、柱痕は確認できない。15号住居と重複するが、新旧関係を判定する資料を欠く。年代を判定できる伴出遺物はないが、覆土の状況から中世以降のものと考えられる。

6号掘立柱建物 遺構の南半が調査区域外のため全形を確認することができないが、長軸を南北にもつ建物の可能性が高い。方位は -8° である。柱穴の規模は直径30～40cm、深さ10～50cmで、柱痕は確認できない。堅穴住居及び掘立柱建物と重複することなく、単独で占地する。年代を判定できる伴出遺物はないが、覆土の状況から中世以降のものと考えられる。

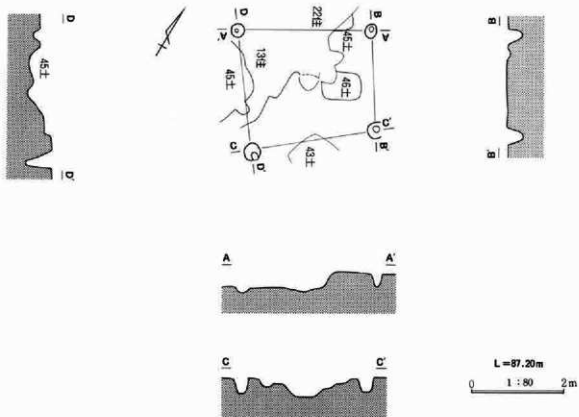
1号掘立柱建物



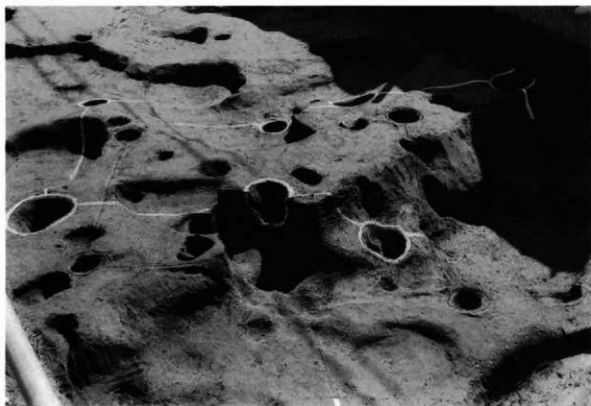
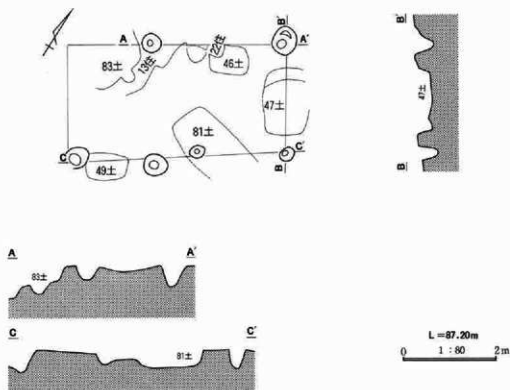
2号掘立柱建物



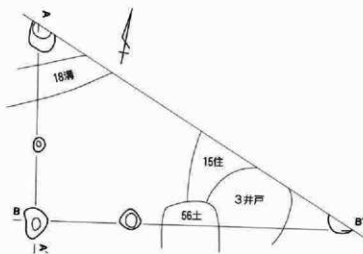
3号掘立柱建物



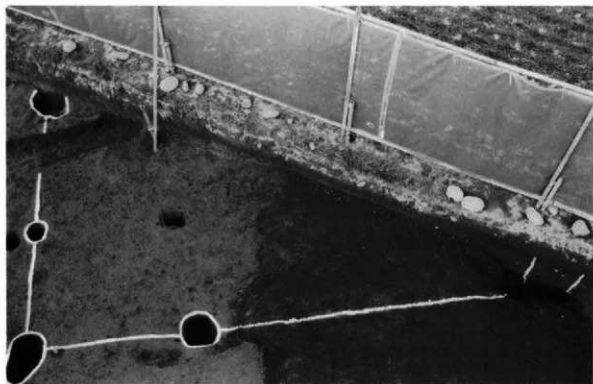
4号掘立柱建物



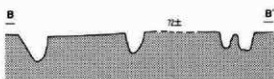
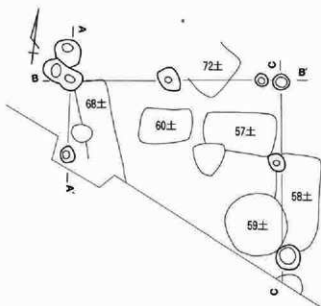
5号掘立柱建物



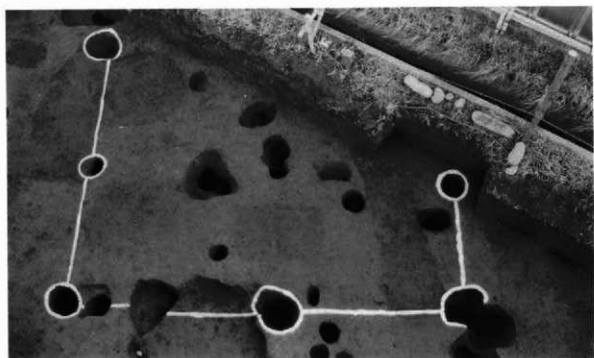
L = 87.00m
0 1 : 80 2m



6号据立柱建物



L=87.30m
0 1:80 2m



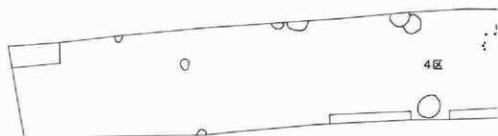
IV 水田・畠

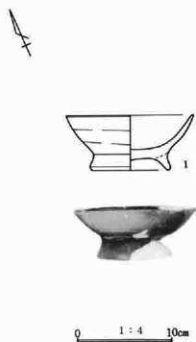
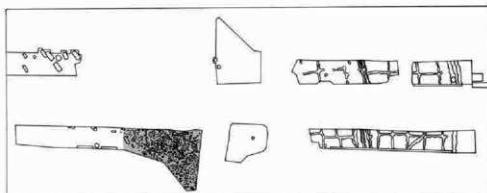
水田

1号水田

野中天神遺跡では、水田と思われる遺構が2箇所を確認された。いずれの水田も、天仁元(1,108)年の浅間山B降下軽石層(As-B)混じりの土によって覆われ、耕作土はAs-Bを含んでいない。このことから、水田の使用年代の上限はAs-B降下以前のものと思われる。

4区の水田では、畦畔の高まりは確認できなかった。そのため、一つの水田区画を特定する事はできなかった。耕作痕の集中している部分の中で、直線的に耕作痕が空白になっている部分が認められる。空白部分は耕作がされない所と考え、この部分に畦畔等があったと考えられる。耕作土は黒褐色土の粘質土で、鋤、鍬などの耕作の痕跡や足跡が確認された。検出された耕作痕は、現地表の約1 m下位から4区の中でも東半部分に集中して検出されている。耕作の痕跡は、半円状を呈し幅15~25cm、深さ10cm程である。耕作痕は比較的直線上に並ぶものと、乱雑になるものが認められた。人の足跡はいくつか確認されているが、方向性や連続性が認められなかった。その他、4区の水田からは水口や耕作に関連する水路等の施設は検出されなかった。





もう一か所の水田は、調査区の関係から11区、12区、16区と分かれている。これは、調査区の間道路等があり、調査区が分断されたためである。

水田に関連する溝は、3条確認されている。1号溝は11区から16区へ続き、南北方向に作られている。確認面での溝の幅は11区で2.5m、深さ50～60cmを測り、16区では幅約1.60m、深さ20～30cmを測る。溝の底面は11区では3条、16区では2条の小さい溝に分かれている。各々の小さい溝の断面形は、外側に開いた底の丸くなる形状を呈する。溝の新旧は、土層断面では古い順に3から1へと移動していると考えられるが、水田に伴う水路と考えた場合、これらの溝は一対となるもので、埋没した底部を掘りなおしたのと考えられる。

2号溝は11区と12区の調査区の東側にあり、水田区画を区切るように南北方向に作られている。溝の東側には水田等の遺構は確認されず、水田区画との境界になると思われる。溝は確認面で11区・12区とも幅1m、深さ20～30cmを測る。断面形態は浅い皿状になる。2号溝はAs-Bを覆土中に含み、As-B降下以前のものと水田に伴う水路と考えられる。12区からは、2号溝の続きと思われる溝と並行して掘られた、年代が若干後になる3号溝が検出された。両方の溝とも出土遺物はなく、層位的な関係から年代を推定した。3号溝は幅1m弱、深さ40cm程で、2号溝と並行して作られている。3号溝は2号溝より上位のAs-B混じり土層より掘り込まれていることから、構築年代は2号溝より新しくAs-B降下以降の中・近世のものである。2号溝に伴う耕作遺構は検出されなかったため確定できないが、耕作に関係した溝であろうと推定される。

水田は、11区・12区・16区の調査区全体で34区画発見されたが、調査区の面積が狭いため水田区画全部が検出されたものはなかった。水田区画は11区の西側が小さく東西方向で、3～4mを測る。16区西側で他の調査区でみられたものより若干大きく、東西方向で5.5～6.5mを測る。

畦畔の高まりは、11区で1～2cm程の僅かな高まりを持ち、幅50～60cmを測る。16区では比較的高くしっかりしており、高さ3cm、下端幅60cmを測る。1号溝の東側にある水田27と28の間の東西方向の畦畔は、他のものよりも幅、高さとも大きいものとなっている。それ以外で水田の区画に対する畦畔の規模の違いは、調査範囲内では認められなかった。畦畔の高まりの土は、水田耕作土と同質のやや粘質を持つ土である。耕作土との区別は、僅かな高まりを持って判別した。

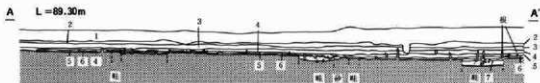
耕作土は、やや粘質を帯びた黒褐色土で現状で厚さ10cm程であった。この耕作土には、As-Bは含まれていない。耕作面は根株や耕作痕、足跡等が確らに確認された。耕作面にある痕跡は、半円状を呈し幅15～25cm、深さ5cm程である。これらの痕跡には規則性が認められなかった。

水口を確認できたのは少なく、25・26・27・30・31等に見られた。水口は、畦畔の交差する近くに設けられているものが多い。形状は畦畔の一部を寸断しただけの簡単な構造で、特別に土や石、木板等をおいて補強したり、水量を調節したような形跡はない。



2号水田出土遺物

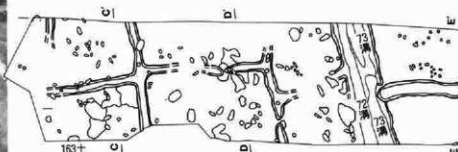




- 1 現表土(盛土)。
- 2 褐灰色土。粒子が細かい。
- 3 褐灰色土。2層に類似するが、やや灰色味が強い。
- 4 茶褐色土。多量の鉄分が沈着。
- 5 黒褐色土。As・Bを多量に含む。
- 6 褐色土。As・B純層。3枚のユニットが確認できる部位もある。
- 7 暗褐色土。やや砂質。
- 7' 暗褐色土。7層に比べやや褐色味が強い。
- 8 明黄褐色土。砂を主体とする。

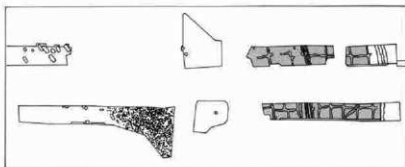


4号水田



2号水田





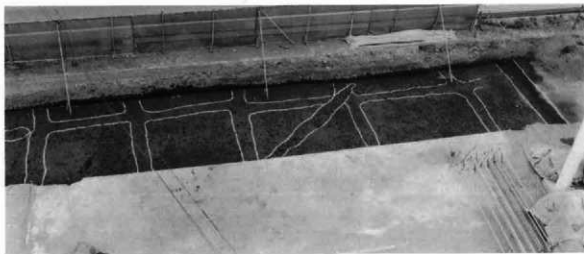
L=88.00m

0 1:200 4 m

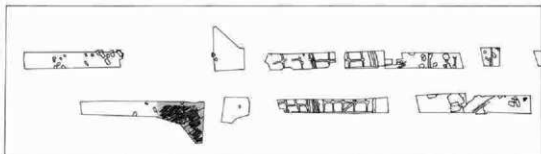


G L=87.60m

G'



畠



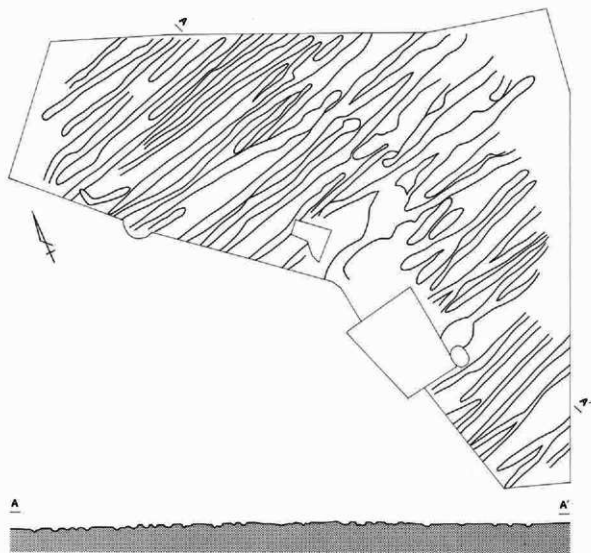
4区の水田跡の下層から、河川の氾濫と思われる堆積層に覆われた畠跡と考えられる溝状の遺構が検出された。検出されたのは溝のみで、畠の高まりは確認されていない。層的には、本区上層で検出された竪穴住居及び水田跡の下層に位置する。また、畠の覆土内から土師器の坏と甕が出土し、これらの年代は平安時代と考えられる。したがってこの遺構は、浅間山B軽石層(As-B)降下以前の段階で、奈良・平安時代に属す可能性がある。

本区の畠面上層にある水田面を覆っていた氾濫層は、As-Bが多量に混じる砂質土である。水田の耕作土は粘性がある硬くしまった土で、溝の中に堆積している黄色の砂質土とは異なる。地山の畠の耕作土は、比較的粘性のあるしまった土で溝の中に入っている土とは明確に分離される。

本調査区の地形は、南側に向かって緩やかに傾斜している。溝はこの傾斜に直行するように東西方向に作られている。溝の規模は、幅20cm～40cm、深さは浅いもので4cm、深いものでは10cmを測る。長さは単位に分かるもので4.6mを測り、長いものでは、調査区を越え8m以上になるものもある。溝の長さは、調査区の北側にあるものが南側の溝よりも長くなる傾向が認められた。また、溝と溝の間隔が若干開く部分が認められる等、溝の長さの違いや間隔の開いたところで畠の一つの単位になると考えられる。本区では2から3単位の畠があったと考えられる。溝の断面形状は、箱形の角張った形状を呈している。溝の底面は、農耕具による痕跡が認められ、半円状の窪みが連なって平坦ではない。

検出された溝の走行は一定ではなく、いくつかの重複が認められた。この溝の重複関係をみると、北西向きに作られた溝が東西に走る溝によって切られている。このことから、少なくとも2回以上の畠の作り替えによって走行の異なる溝が作られたと考えられる。





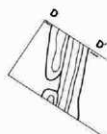
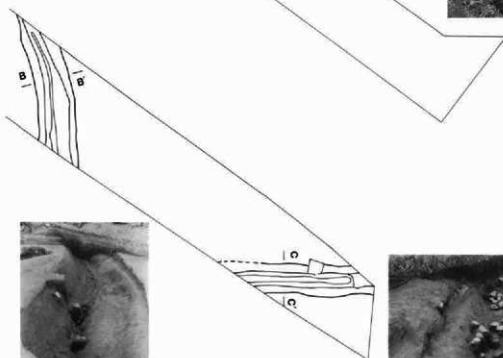
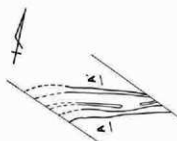
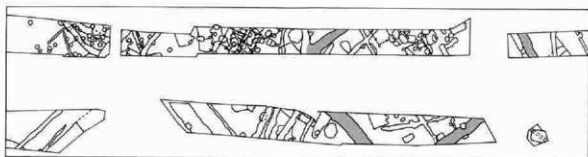
L = 87.40m
0 1 : 120 3m



0 1 : 4 10cm

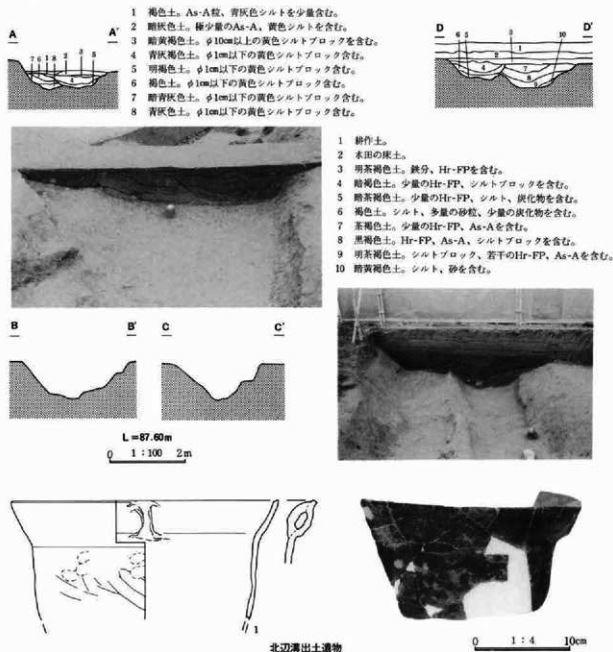
墓出土遺物

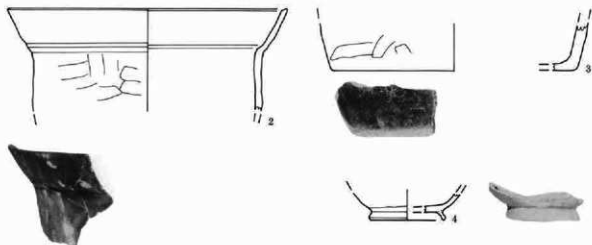
V 中世屋敷跡



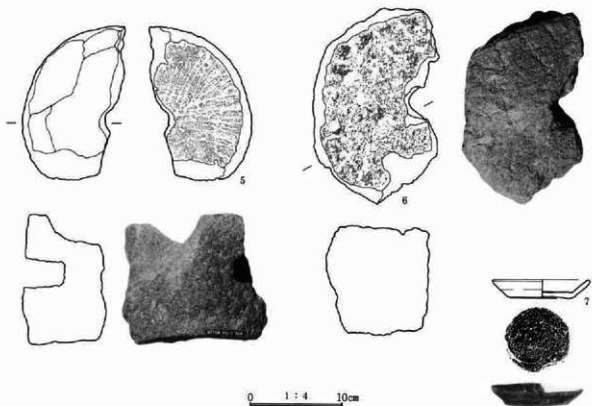
0 1 : 300 10m

形状・規模 遺構の全形は確認できないが、検出した各辺の溝から推定すると北辺約46m、南辺約37m、東辺約32m、西辺約31mの不整形長方形を呈し、軸線を真北から6°西側に傾いている。北辺と東辺の溝は南辺と西辺の溝より幅が狭く、北辺の溝は北側に、東辺の溝は西側にそれぞれ掘り直した痕跡がある。各辺の溝の幅と確認面からの深さは、北辺が幅1.7m、深さ40cm、東辺が幅1.6m、深さ50cm、南辺が幅2.2m、深さ1.0m、西辺が幅2.8m、深さ1.0mである。**遺物** 東辺を除く各溝から軟質陶器内耳鍋が出土した。底面に密着したものはないが型式差が認められないため、これらが遺構の年代を示すと判断した。また、南辺の溝から出土した石臼も近似した年代のものと考えられる。なお、東辺の溝の須恵器坏と西辺の溝の灰軸陶器碗は、この遺構に伴うものではないと判断した。**内部施設** この遺構に伴う内部施設は確認できない。遺構の北半部で検出した掘立柱建物及び土壇は、層位の状況から後世のものと考えられる。**年代** 東辺を除く各溝から出土した軟質陶器内耳鍋の年代から、15世紀代の所産と考えられる。





西辺溝出土遺物



東辺溝出土遺物

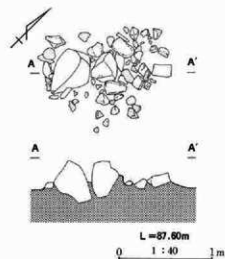


南辺溝出土遺物

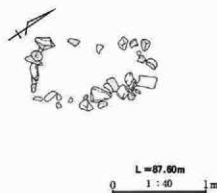
VI その他の遺構

墓 跡

1号墓

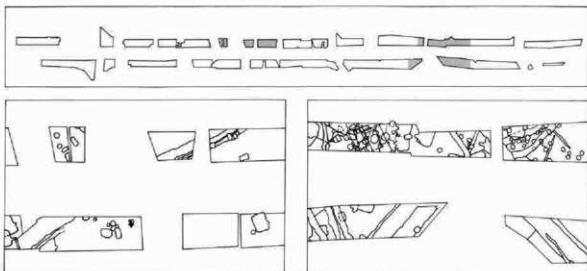


1号墓構築面



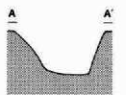
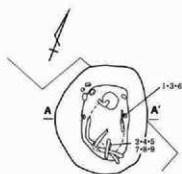
この遺構は墓墳のような掘り込みは確認できなかったが、検出した礫が規則的な配置を示すため、竪穴式小石室に近似した墓跡と判断した。この遺構は長さ10cm前後の安山岩を短辺60cm、長辺1.2mの長方形に配置し、長軸線を真北から約30°東側に傾けている。内部からは、崩れ落ちたと思われる石室を構成していた礫が、底面に埋まった状態で多数出土し、これらは方形に配置された石材よりもやや大きく、長さ60cmほどの最も大きな礫は天井部を構成していたものの可能性がある。

骨及び副葬品は一切検出できず、また、周溝も検出できなかったため、この遺構が単独で構築されたものと考えられる。遺構の構築年代を示す伴出遺物がなく詳細な年代は不明であるが、この遺構の底面の層位が、4世紀中葉以降に降下した浅間C軽石層(As-C)と、6世紀中葉の榛名山二ツ岳起源の軽石(Hr-FP)を含むシルト層の中間に位置することから、古墳時代中～後期の間に限定することができる。この遺構の周辺には6世紀前半に位置付けられる土城群が分布しているが、これらに近似した年代であることから、これらと同一の墓墳群である可能性が高い。



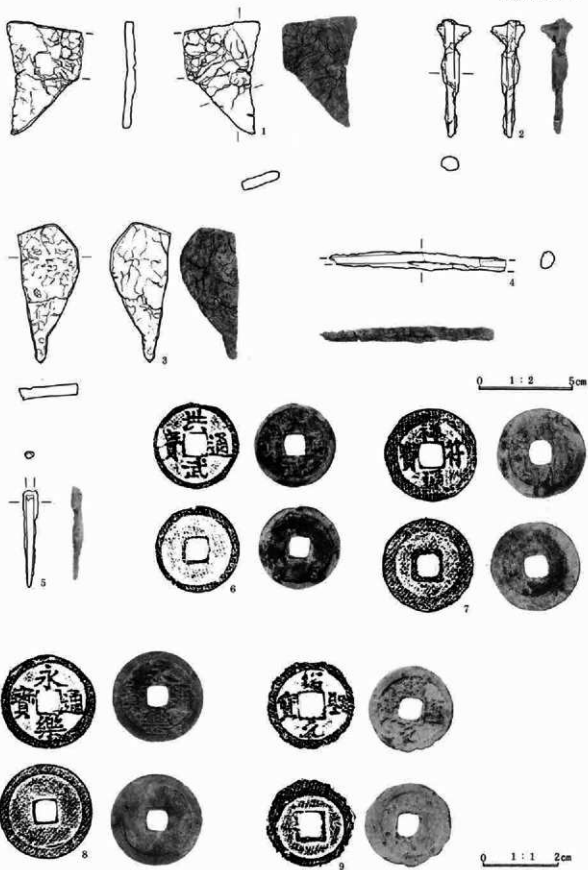
2号墓

短軸1.0m、長軸1.2m、確認面からの深さ50cmで、長軸線を真北から20°西側に傾けた土壇の底面に、脚を折曲げた状態の人骨が頭部を北側に向けて横たわる。土壇の内部から釘が出土していることから、木製の棺に納められていた可能性がある。伴出する土器はないが、祥符通寶、紹聖元寶、洪武通寶、永樂通寶などの北宋銭、明銭がいずれも底面に密着して出土している。これらの古銭からこの遺構は中世末葉の時期に比定することができる。

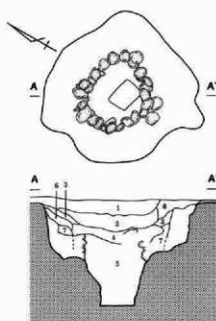


L=87.00m
0 1:40 1m





2号墓出土遺物

井戸
1号井戸

- 1 灰褐色土。小円礫を少量含む。
- 2 淡茶褐色土。
- 3 淡茶褐色土。黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 4 暗灰褐色土。円礫を多く含む。
- 5 暗灰褐色粘質土。
- 6 淡褐色砂質土。
- 7 暗黄褐色土(突き固めてある)。
- 8 暗黄褐色砂質土。Hr-FAを含む(崩落土か)。

L=67.20m

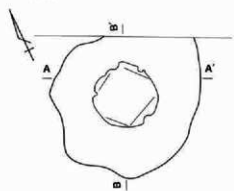
0 1:80 2m



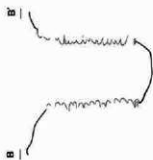
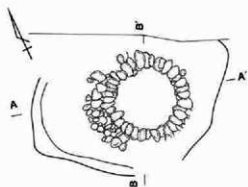
0 1:4 10cm



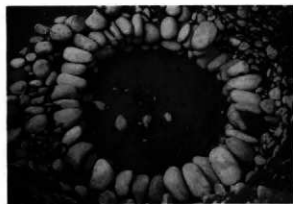
2号井戸

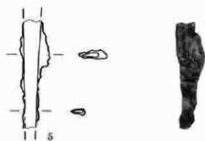
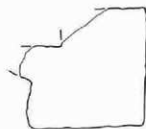


- 1 茶褐色土。極少量のAs-A、黄色シルト粒を含む。
- 2 褐色土。黄色シルトを含む。
- 3 暗褐色土。黄色シルトを含む。崩落した礫が多い。
- 4 暗茶褐色土。黄色シルトを多く含む。



L = 87.20m
0 1 : 80 2m



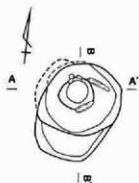


0 1 : 4 10cm

0 1 : 2 5cm

2号井戸出土遺物

3号井戸



A L=87.30m



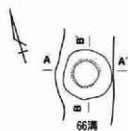
B L=87.10m



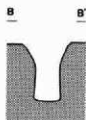
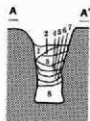
- 1 青灰褐色土。砂質で、若干の軽石を含む。
- 2 暗茶褐色土。若干の軽石、黄色シルト粒を含む。
- 3 暗黄褐色土。若干の軽石を含む黄色シルトの崩壊したもの。
- 4 暗褐色土。
- 5 褐色土。φ1~3cmの黄色シルトブロックを含む。

0 1:80 2m

4号井戸

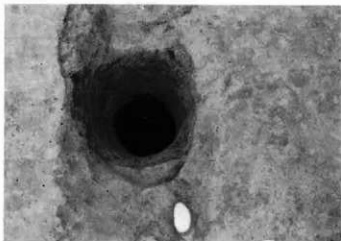


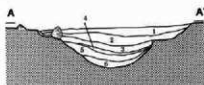
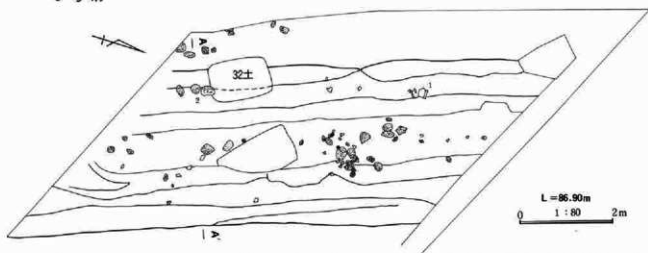
- 1 黒褐色土。地山である黄褐色土、Hr-FP微粒を若干含む。
- 2 黒褐色土。1層と同様であるが、黄褐色土の小ブロック、小礫を含む。
- 3 黒褐色土。黄褐色土の大ブロックを層全体に含み、やや黒色味が強い。
- 4 暗褐色土。多量の黄褐色土の小ブロックを層全体に混入する。
- 5 暗褐色土。黄褐色土のブロックは全く含まない。
- 6 暗褐色土。少量の黄褐色土小ブロックを層全体に含む。
- 7 褐色土。多量の小礫、黄褐色土小ブロックを含む。
- 8 黒褐色土。粘性。



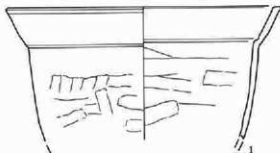
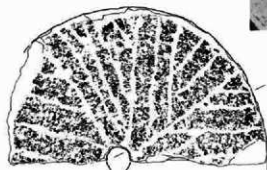
L=87.70m

0 1:80 2m



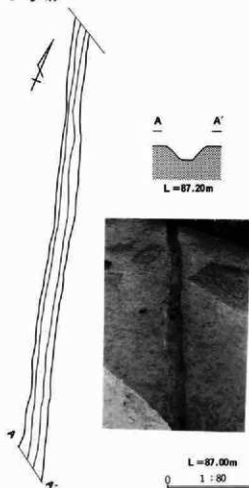


- 1 暗茶褐色砂質土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 2 茶褐色砂質土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 3 褐色砂質土。
- 4 灰褐色砂質土。
- 5 暗灰褐色砂質土。
- 6 暗褐色砂質土。やや粘性あり。

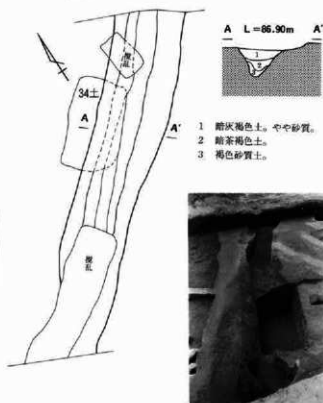


0 1:4 10cm

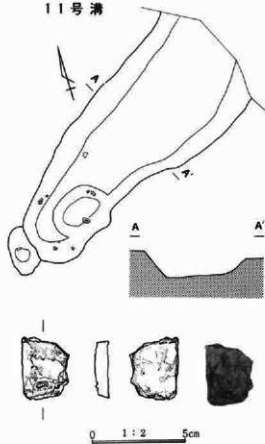
6号溝



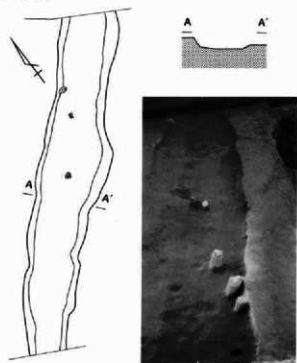
7号溝



11号溝



9号溝





A-A'

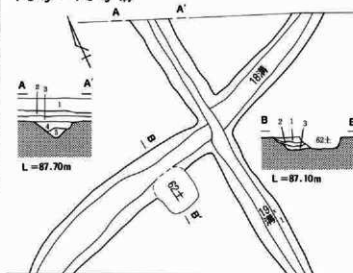
- 1 耕作土。
- 2 鉄分を含んだ層。
- 3 明黄褐色土。As-Aを含む。
- 4 暗黄灰色土。As-Aを少量含む。
- 5 暗黄灰色土。As-Aを1層より少なく含む。

B-B'

- 1 黒褐色土。極少量のAs-Aを含む。
- 2 褐色土。As-Aを含む。
- 3 暗黄褐色土。黄色シルトブロックを含む。



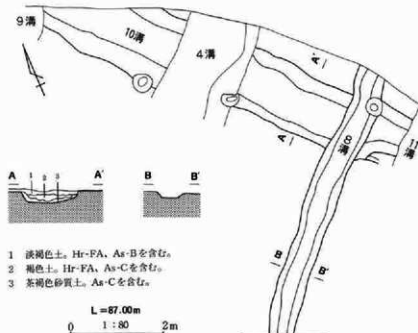
18号・19号溝



19号溝出土遺物

0 1 : 4 10cm

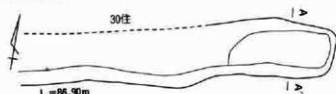
8号・10号溝



- 1 淡褐色土。Hr-FA, As-Bを含む。
- 2 褐色土。Hr-FA, As-Cを含む。
- 3 茶褐色砂質土。As-Cを含む。

L=87.00m
0 1 : 80 2m

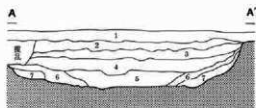
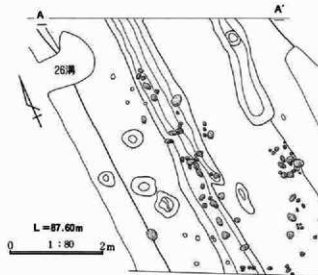
28号溝



- 1 暗黄褐色土。As-A、シルトを多く含む。
- 2 暗茶褐色土。As-A、シルトを含む。
- 3 黒褐色土。As-Aを含む。
- 4 黄褐色土。シルトを含む。

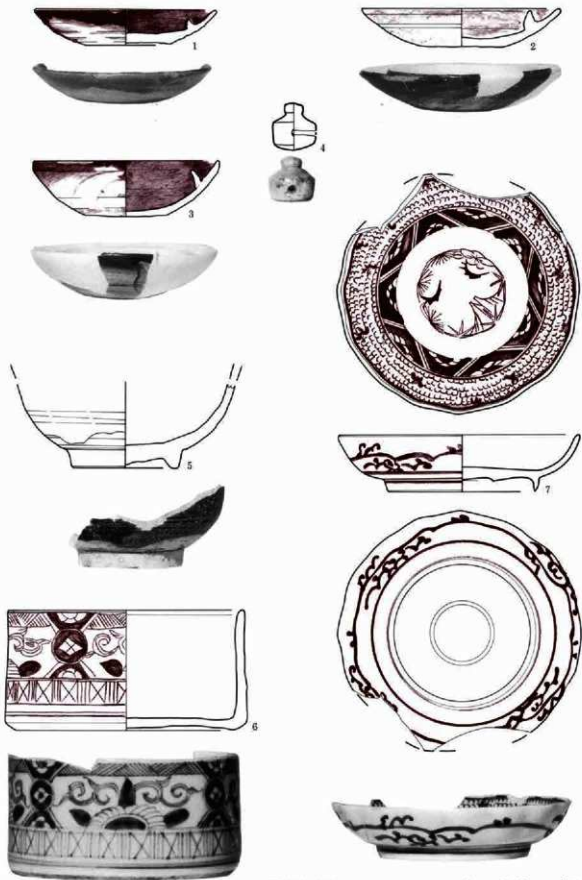


27号溝

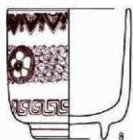


- 1 耕作土。
- 2 暗灰褐色粘質土。
- 3 暗灰褐色土。砂を少量含む。
- 4 暗灰褐色粘質土。砂層がラミナ状に入り、クラックが発達。
- 5 砂層。粗粒部と細粒部がラミナ状に入りくむ。
- 6 淡灰褐色砂質土。細粒。
- 7 灰褐色砂質土。細粒。





27号溝出土遺物



8



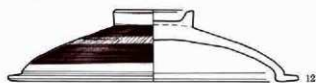
10



9



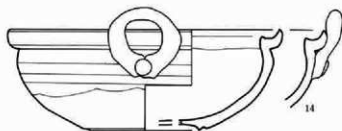
11



12



13



14

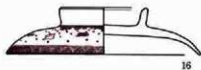
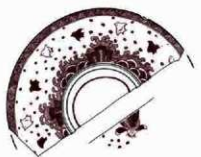


15



27号溝出土遺物

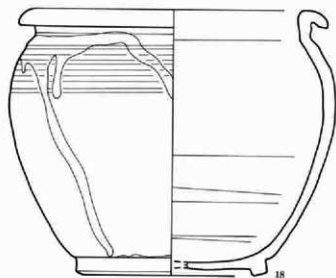
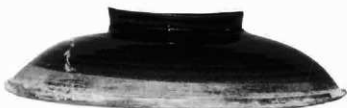
0 1:2 5cm



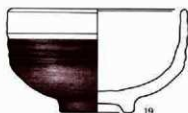
16



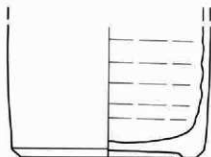
17



18



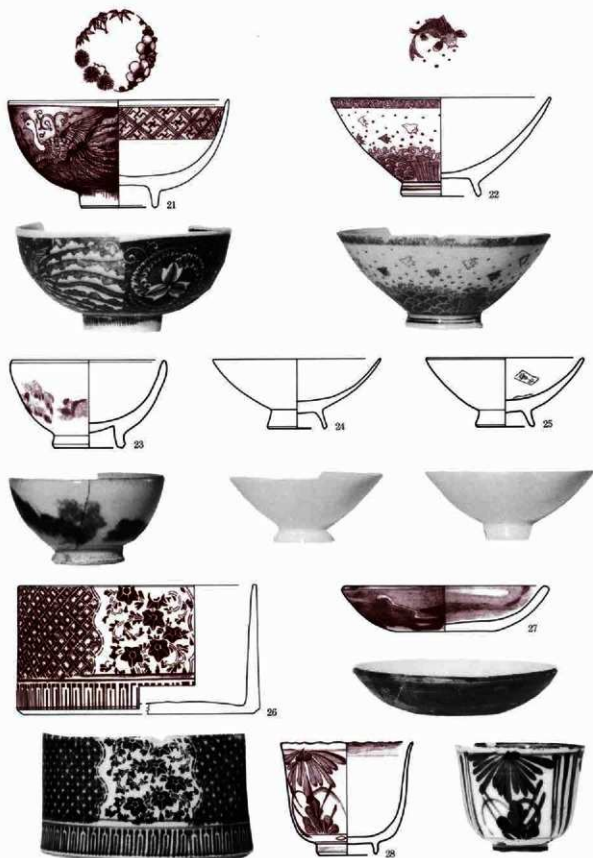
19



20



0 1 : 2 5cm



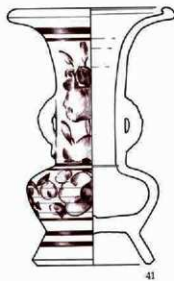
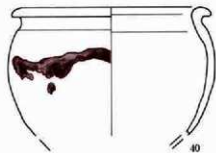
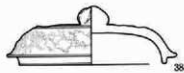
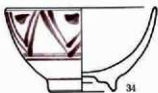
27号溝出土遺物

0 1:2 5cm



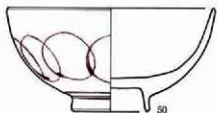
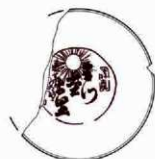
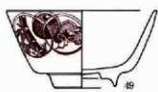
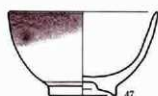
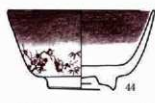
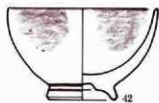
27号溝出土遺物

0 1 2 5cm



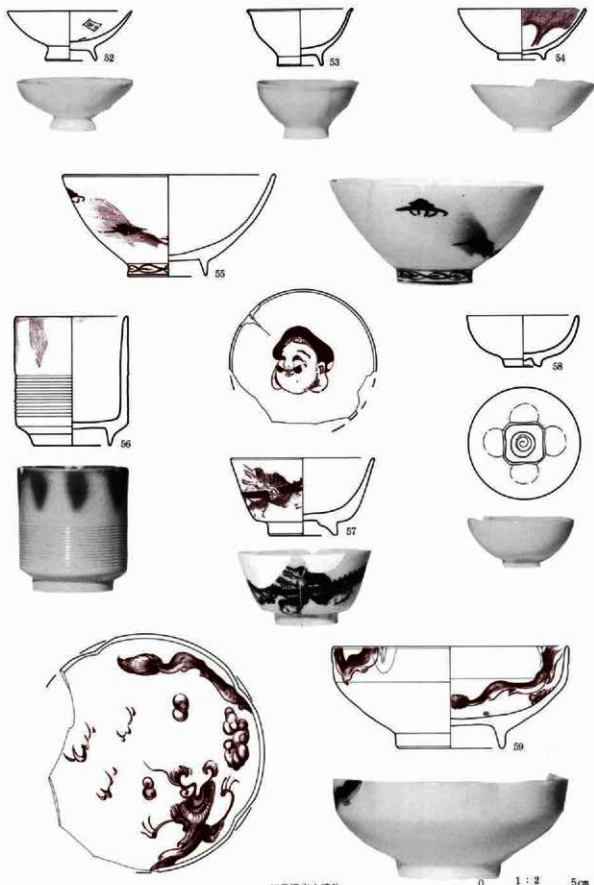
27号溝出土遺物

0 1:2 5cm



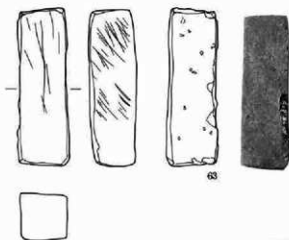
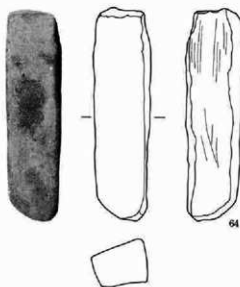
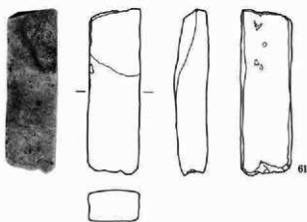
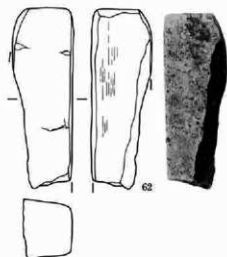
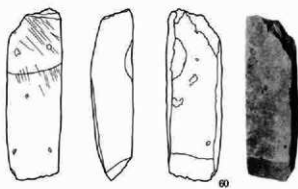
27号清出土遺物

0 1:2 5cm



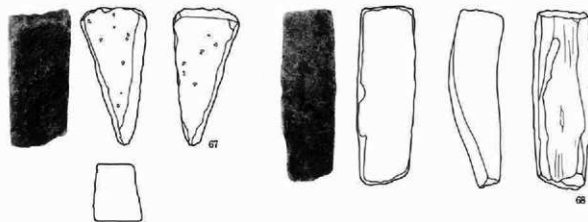
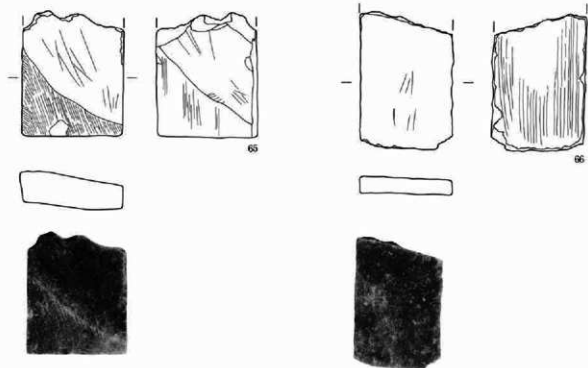
27号溝出土遺物

0 1:2 5cm



27号清出土遺物

0 1:2 5cm

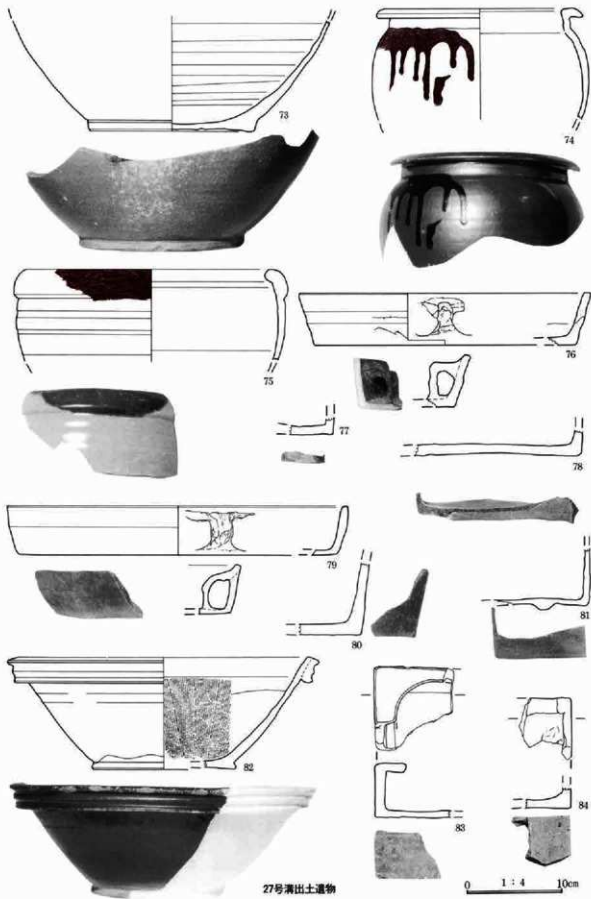


0 1:2 5cm



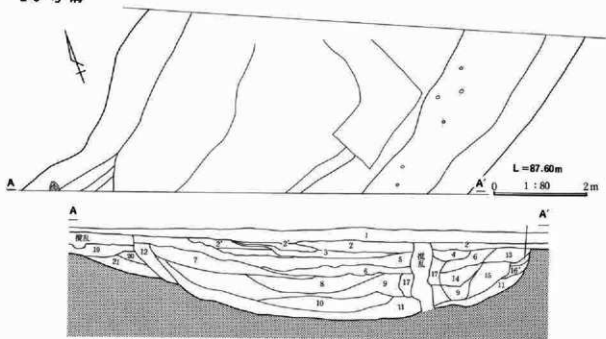
27号清出土遺物

0 1:4 10cm



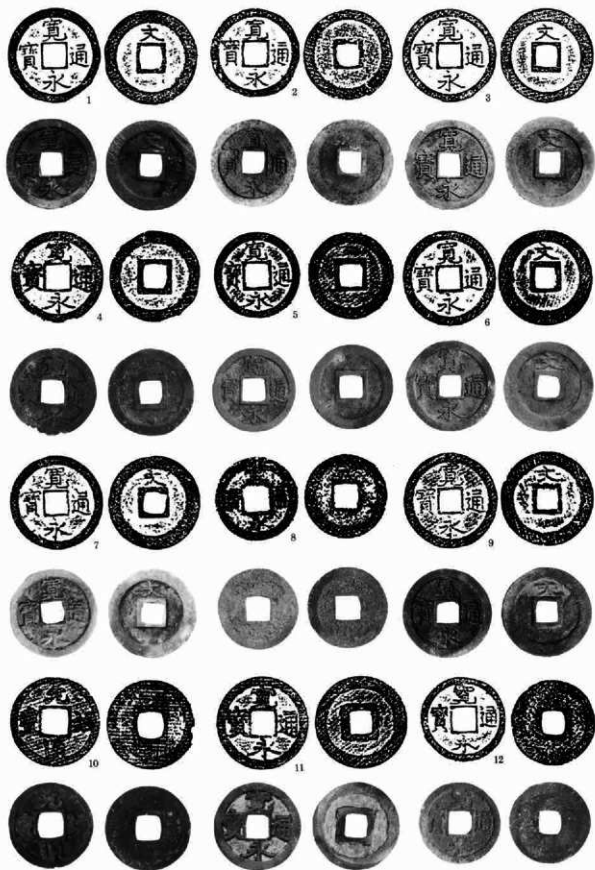
27号溝出土遺物

29号溝



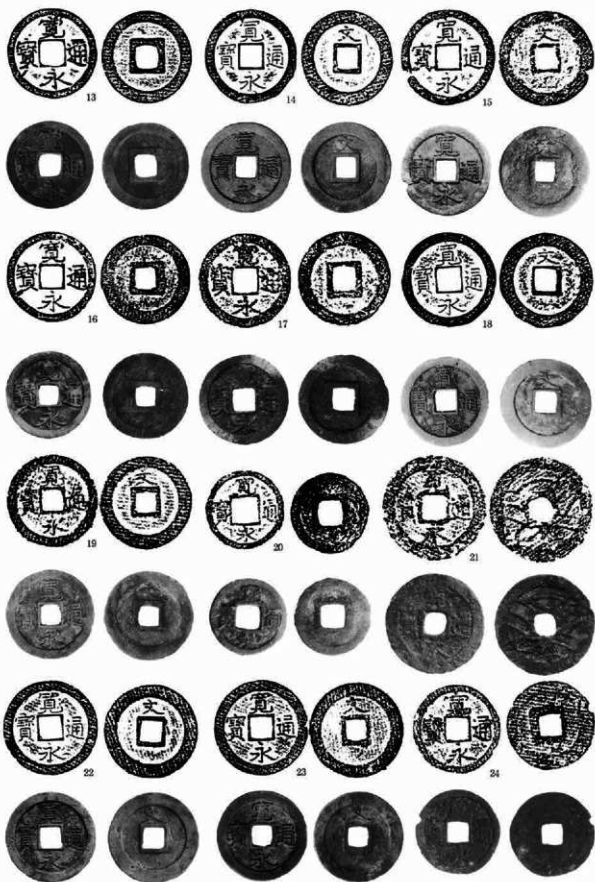
- | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 耕作土。 | 12 明茶褐色土。砂の混入が少ない。 |
| 2 明褐色土。φ1~2mmの小礫、鉄分を含む。 | 13 明褐色土。極少量のHr-FP、砂粒を含む。 |
| 2' 明褐色土。1層より砂が多い。 | 14 褐色土。砂粒をブロック状に含み、極少量のHr-FP、炭化物を含む。 |
| 3 暗青灰色土。鉄分を含んだ土と砂が混じる。 | 15 茶褐色土。砂粒を含み、極少量のHr-FP、炭化物を含む。 |
| 4 褐色土。粘性のある土と砂が交互に混じる。 | 16 暗青灰色土。砂粒を含む。 |
| 5 青灰色土。粘性のある土と砂の互層。 | 16' 暗青灰色土。16層より砂が少ない。 |
| 6 砂鉄層に粘性のある土が混じる。 | 17 暗青灰色土。少量の砂、炭化物を含む。 |
| 7 茶褐色土。粘性のある土と砂の互層で、若干の炭化物を含む。 | 18 青灰色土。砂と粘性のある土の互層。 |
| 8 明茶褐色土。砂層に粘性のある土がブロック状に入り込む。 | 19 茶褐色土。極少量のHr-FPを含む。 |
| 9 暗茶褐色土。砂と粘性のある土の互層で、炭化物を含む。 | 20 明褐色土。シルト粒を含む。 |
| 10 黒灰色土。砂、礫、陶磁器を含む。 | 21 暗茶褐色土。シルト、砂を多く含む。 |
| 11 暗灰色土。粘性のある土と砂の互層。下部に遺物、礫多く含む。 | |





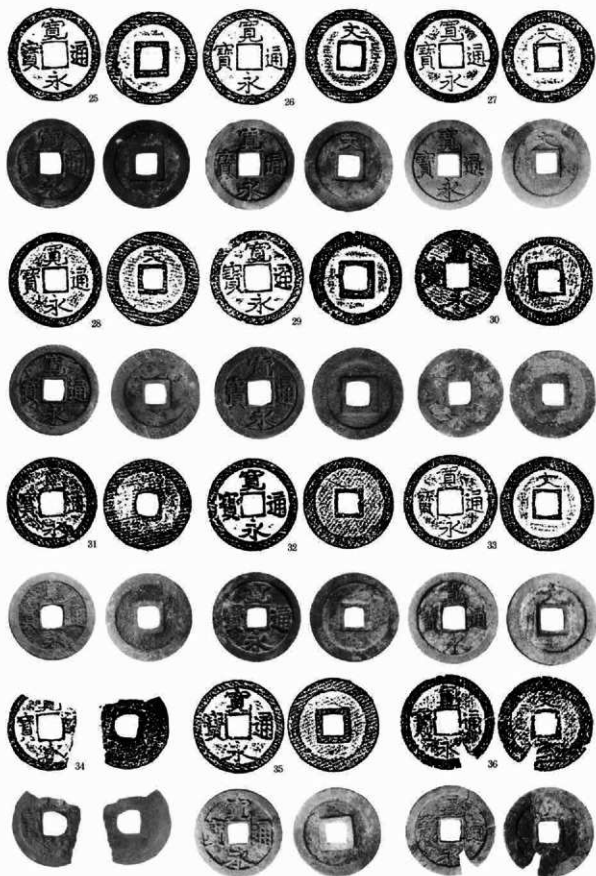
29号清出土遺物

0 1:1 2cm



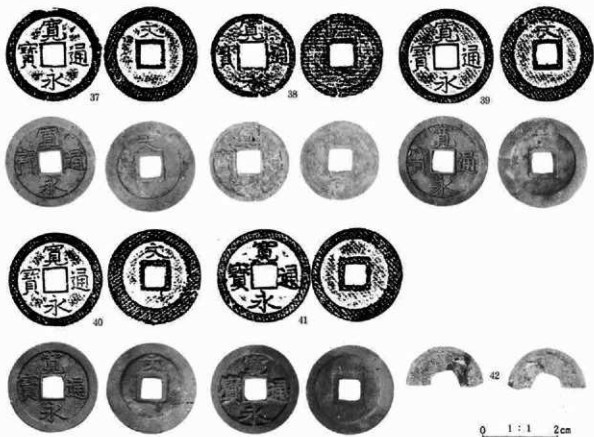
29号溝出土遺物

0 1:1 2cm

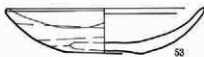
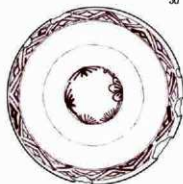
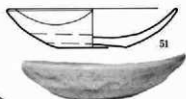
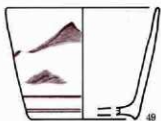
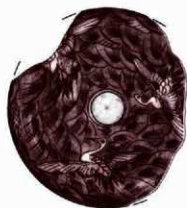


29号清出土遺物

0 1:1 2cm

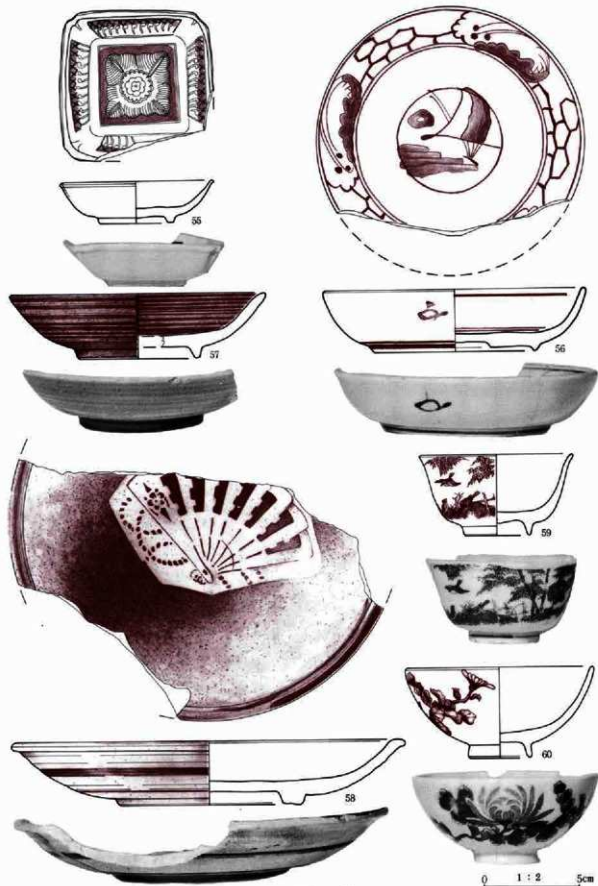


29号清出土遺物

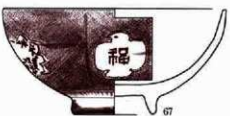
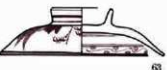
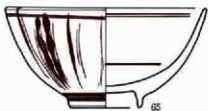
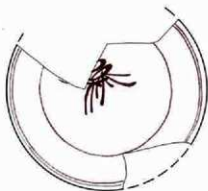


29号溝出土遺物

0 1:2 5cm

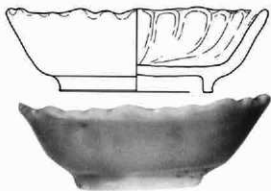
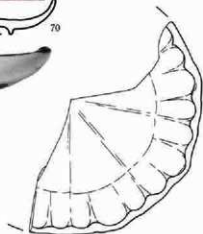
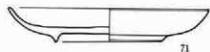
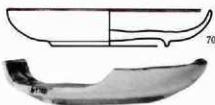
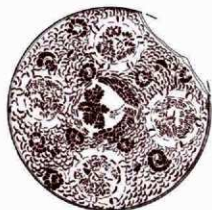
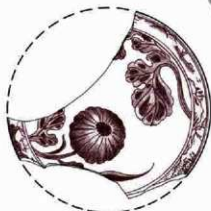
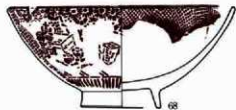


29号清出土遺物



29号溝出土遺物

0 1 : 2 5cm



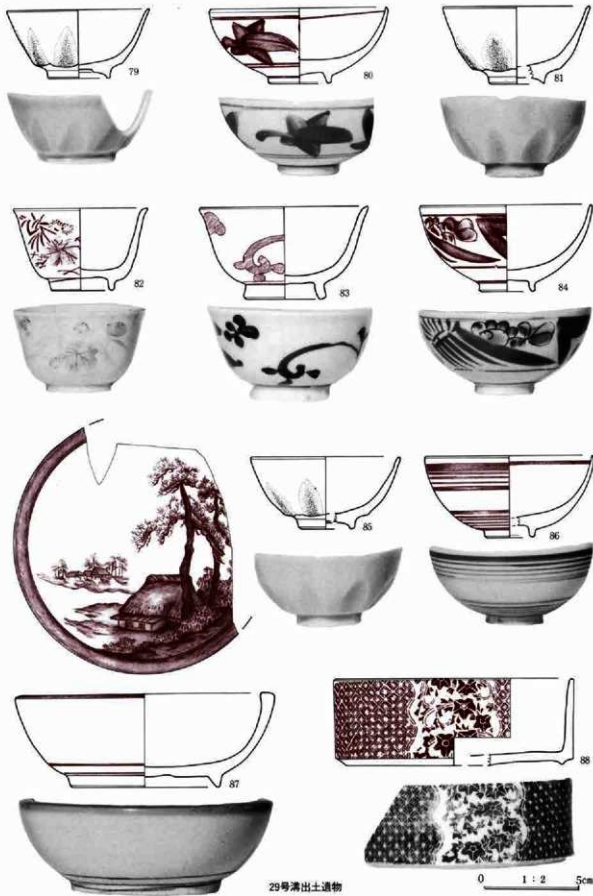
29号溝出土遺物

0 1:2 5cm



29号溝出土遺物

0 1:2 5cm



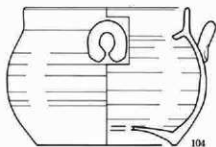
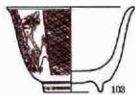
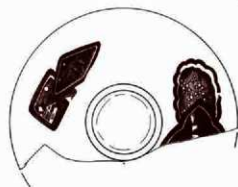
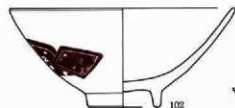
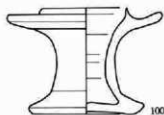
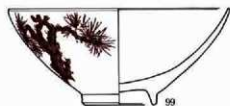
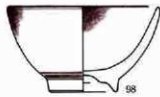
29号清出土遺物

0 1:2 5cm



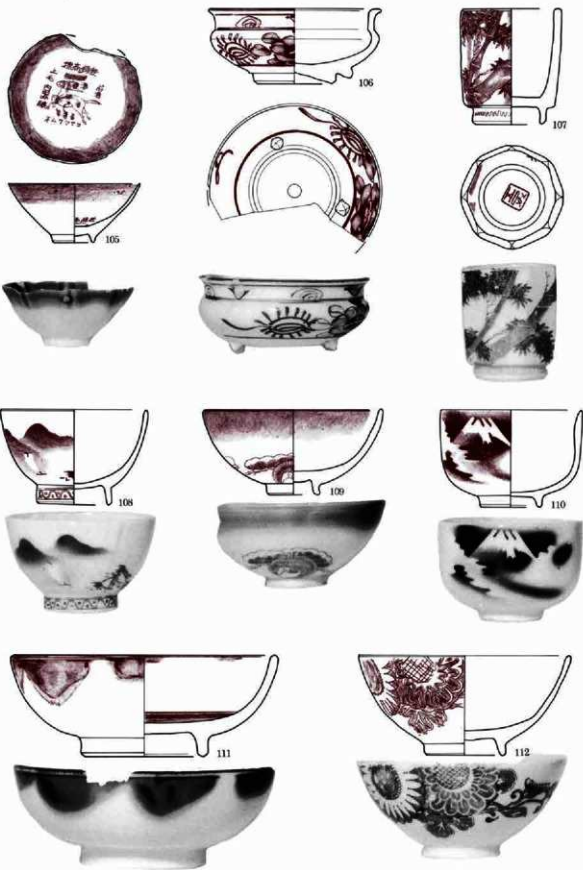
29号溝出土遺物

0 1:2 5cm

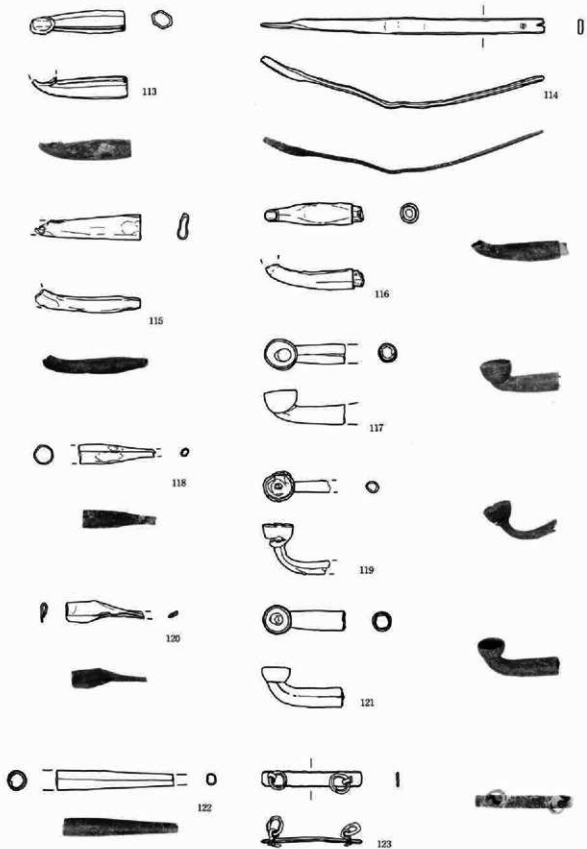


29号溝出土遺物

0 1:2 5cm

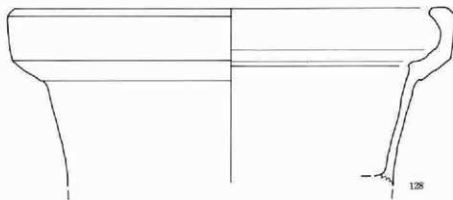
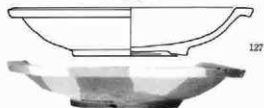
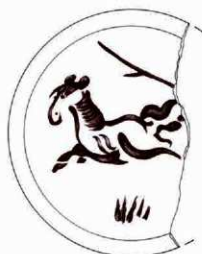
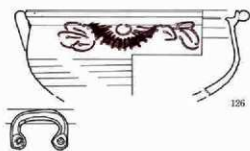
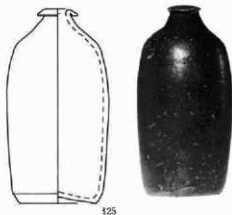


29号溝出土遺物



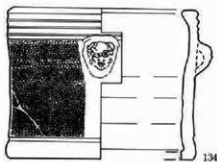
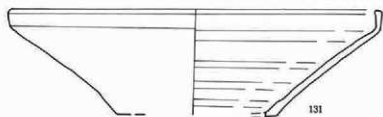
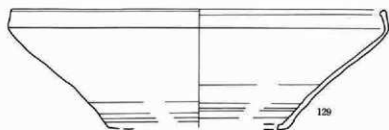
29号溝出土遺物

0 1 2 5cm



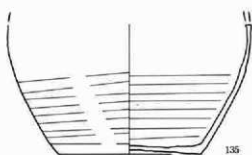
29号清出土遺物

0 1 : 4 10cm

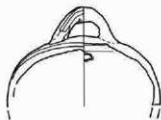
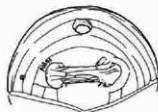


29号溝出土遺物

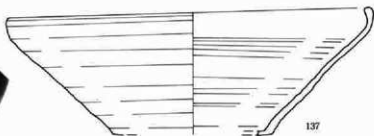
0 1 : 4 10cm



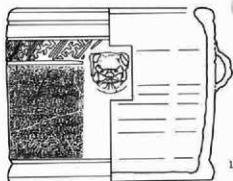
135



136



137



138

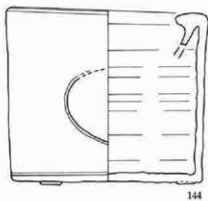
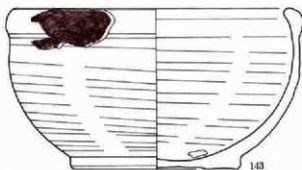
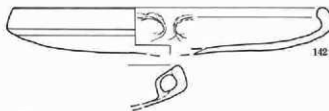
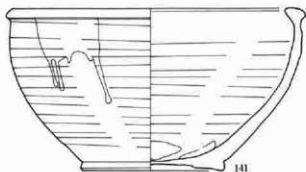


139



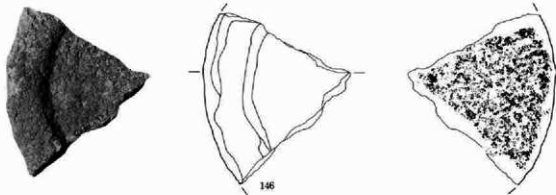
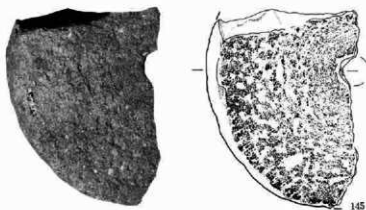
0 1 : 4 10cm

29号溝出土遺物



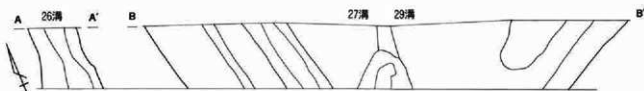
29号溝出土遺物

0 1:4 10cm

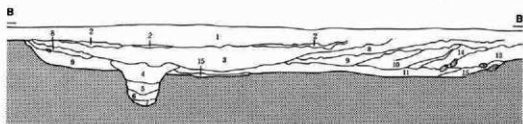


29号溝出土遺物

0 1 : 4 10cm



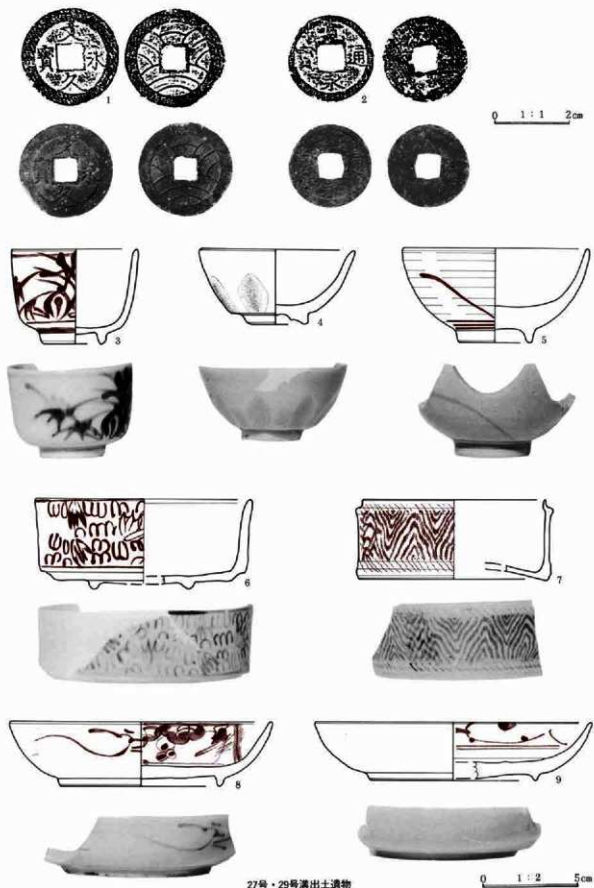
- 1 耕作土。
- 2 青灰褐色土。As-A, Hr-FP, 黄色シルトを含む。
- 3 青灰褐色土。As-A, Hr-FP, 黄色シルト, 炭化物を含む。
- 4 茶褐色土。As-A, Hr-FP, 黄色シルトを含む。
- 5 明褐色土。少量のAs-A, Hr-FPを含む。
- 6 暗黄褐色土。黄色シルトを多く含む。



- 1 耕作土。
- 2 茶褐色土。鉄分を含む。
- 3 青灰褐色土。Hr-FPを少量含み、陶磁器類を包含する。
- 4 暗青灰色土。砂質。
- 5 黒灰色土。砂質。
- 6 灰色土。砂質。
- 7 灰褐色土。砂質。
- 8 黄褐色土。砂質で、陶磁器類を多量に包含する。
- 9 砂層。
- 10 黄褐色土。砂質。
- 11 砂礫層。
- 12 明黄褐色土。シルト、砂質。
- 13 褐色土。砂質で、礫を含む。
- 14 灰褐色土。砂質。
- 15 茶褐色土。黄色シルト。

L=87.60m
0 1:80 2m

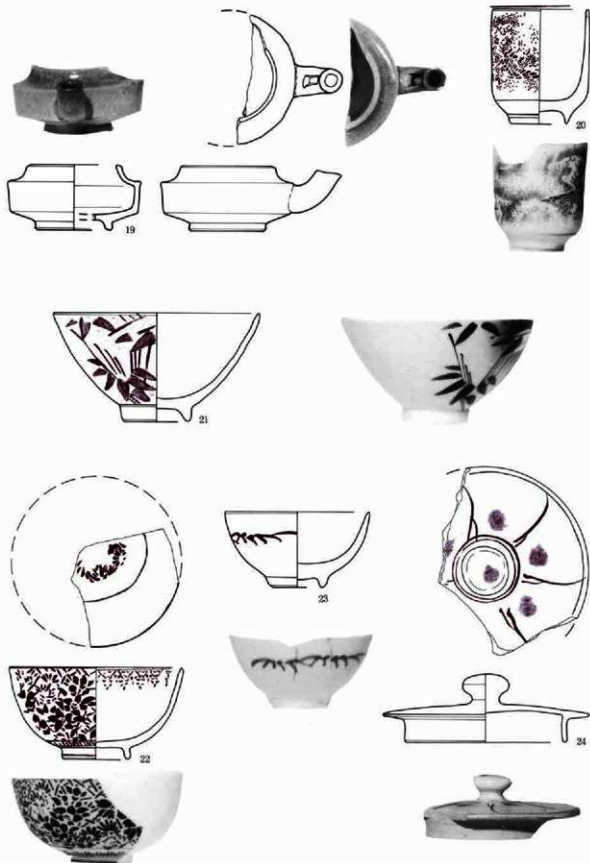




27号・29号溝出土遺物

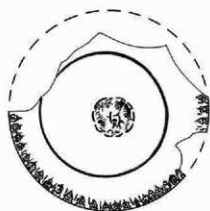


27号・29号溝出土遺物

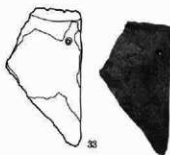


27号・29号清出土遺物

0 1 2 5cm

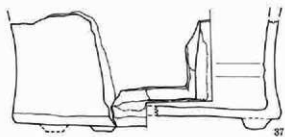
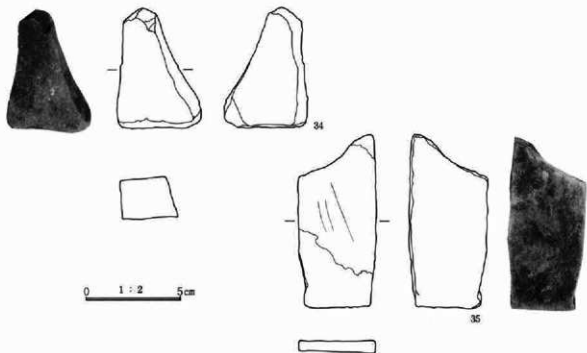


32

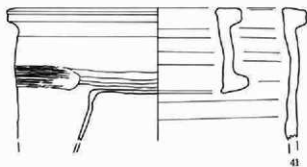
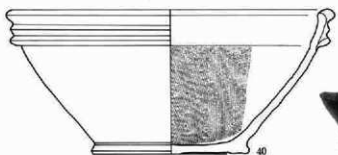
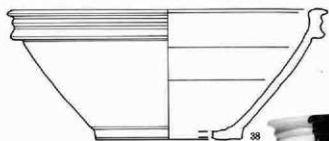


27号・29号溝出土遺物

0 1:2 5cm

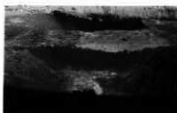
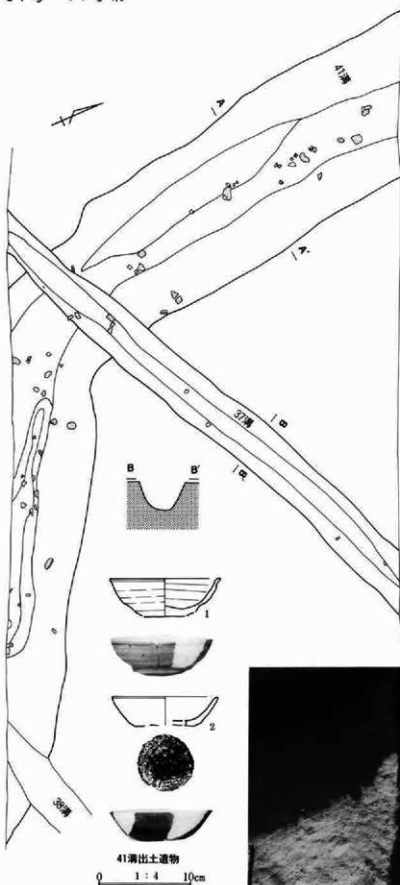


27号・29号溝出土遺物



27号・29号溝出土遺物

0 1 : 4 10cm



- 1 にぶい黄褐色砂層。φ0.5mm前後の明黄褐色、黒褐色の砂粒を含む。
- 2 暗褐色土。灰黄褐色シルトブロック、黒褐色土ブロック、Hr-FP粒を含む。
- 3 暗褐色土。2層に類似するがやや明るく、黒褐色土ブロックを含まず、炭化物を少量含む。両端には明黄褐色ローム粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土。3層に類似するが明るく、灰黄褐色シルトブロックを多く含む。
- 5 褐色土。4層に類似するが茶色味が強く、少量のHr-FP粒を含む。
- 6 にぶい黄褐色土。4層に類似するが、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
- 7 にぶい黄褐色土。4層に類似するが、明黄褐色ローム粒を多く含む。
- 8 にぶい黄褐色土。7層に類似するが、明黄褐色ローム粒は少なく、Hr-FP粒、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
- 9 にぶい黄褐色土。7層に類似するが、明黄褐色ローム粒は少なく、明黄褐色シルトブロックを含む。
- 10 にぶい黄褐色土。シルト質で、褐色シルトブロックを含む。
- 11 灰黄褐色砂礫層。砂粒、φ1~8mmの小礫を含む。木炭の結果か。

L=87.50m

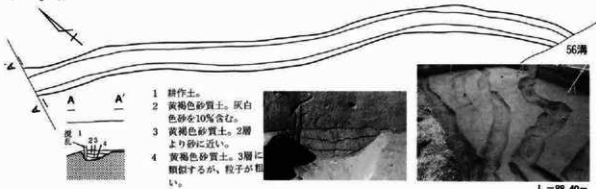
0 1:80 2m

41号溝出土遺物

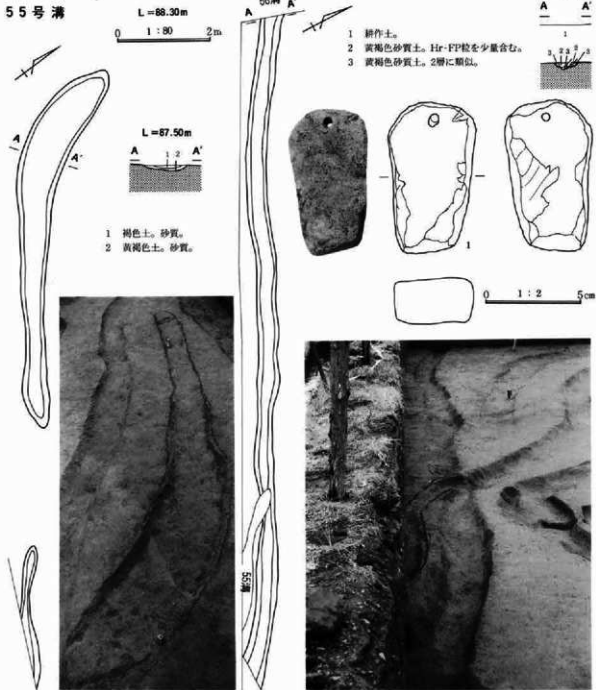
0 1:4 10cm



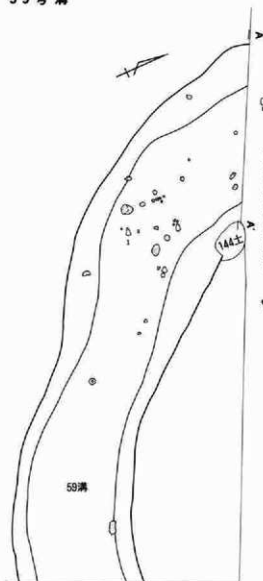
54号溝



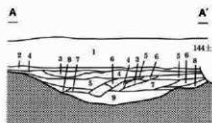
55号溝



59号溝



L=88.30m
0 1:80 2m



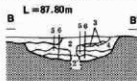
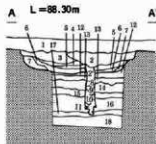
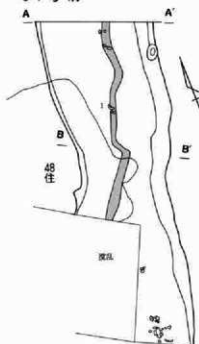
- 1 耕作土。表土。
- 2 鉄分凝集層。
- 3 褐色土。鉄分の沈着が多く、砂質。
- 4 褐色土。Hr-FP粒を混入。
- 5 にぶい黄褐色土。鉄分の凝集がまだら状に認められ、少量の小礫を含む。
- 6 にぶい黄褐色土。5層と同様であるが小礫はまったく認められない。
- 7 にぶい黄褐色土。上半部にまだら状の鉄分の凝集が認められる。
- 8 灰黄褐色土。4層と同様であるが、灰色味が強い。
- 9 砂層。砂が互層となり、わずかに小礫を含む。



0 1:4 10cm



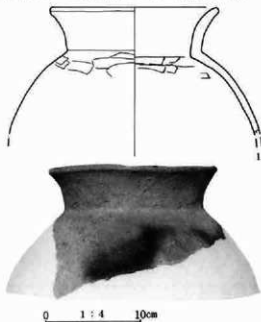
81号溝



0 1 : 80 2m

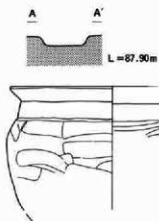
- 1 現表土。やや砂質で、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土。シルト質で、白色～黄褐色の軽石粒を含む。
- 2' 暗褐色土。直線以下の色調は暗く、2層と3層が混じっているようである。
- 3 暗褐色土。シルト質で、ほとんど均質。
- 4 褐色土。シルト質、細粒砂の塊を含む。
- 5 暗褐色土。シルト質、黄褐色シルト(地山)塊を壁際に含む。
- 6 にぶい黄褐色土。中粒～粗粒、砂層底部は地山のシルト層と乱れる。
- 7 暗褐色土。シルト、黄褐色シルト(地山)塊を含む。
- 8 暗褐色シルト。砂まじり地山の13層が主体と恐われる。
- 9 褐色土。極細粒砂、黒褐色土塊を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土。中粒砂、黒褐色土塊を少量含む。
- 11 10層と同じだが、黒褐色土塊を多量に含む。
- 12 褐色シルト。ほとんど均質。
- 13 黒褐色シルト。上下の層との境は不明瞭。
- 14 極細粒砂。ほとんど均質。
- 15 暗褐色シルト。やや粘性。
- 16 褐色極細粒砂。
- 17 にぶい黄褐色砂。均質。
- 18 暗褐色シルト。やや粘性。

幅約2.4mで、基盤層からの深さ50cmを測り、ほぼ南北に走向をもつ。溝の走向にほぼ平行して、幅約15cmの地割れ跡を検出した。地割れ跡の内部には81号溝に帰属すると考えられる土師器壺が、地割れに落ち込んだ状態で出土し、この土師器壺が81号溝の年代を示すものと判断した。地割れ跡の下位には噴砂が認められることから、この地割れは地震に起因するものと考えられる。地割れの噴砂が溝の覆土を切っていること、地割れの上位が溝の覆土に近似した土で埋没していることから、地割れの原因となった地震は溝の年代より後出する。また、48号住居がこの溝の覆土と地割れの覆土を切って構築している土層断面の所見を得たことから、これらは81溝→地割れ跡(地震)→48住の順を示し、この新旧関係はそれぞれの遺構に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾していない。したがって、地割れの成因となった地震は、81号溝の年代を上限とし、48号住居の年代を下限とする年代幅のなかに位置付けられる(89頁・48号住居、174頁・噴砂跡参照)。

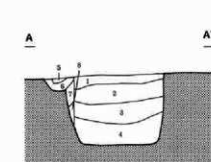
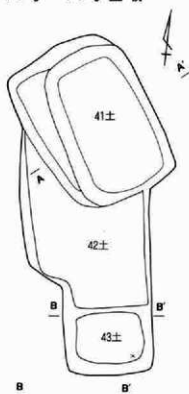


土壌

25号土壌



41号・43号土壌



- 1 暗黄灰褐色土。黄灰色のシルトブロックを含む。
- 2 黄灰褐色土。青灰色のシルト粒子を含む。
- 3 明黄灰褐色土。黄灰色、青灰色のシルト粒を含む。
- 4 明黄灰褐色土。3層より明るく、黄灰色シルトブロックを多く含む。
- 5 暗灰褐色土。炭化物、黄色土粒を含む。
- 6 灰褐色土。炭化物を少量含む。
- 7 暗褐色土。粘性あり。
- 8 褐色土。粘性あり。

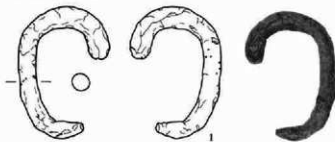


L=87.30m

0 1:40 1m



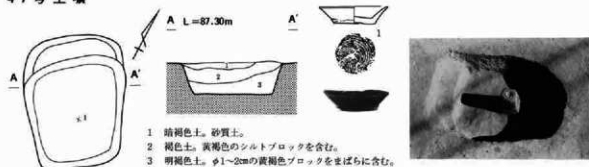
- 1 暗褐色土。砂質土。
 - 2 褐色土。黄褐色のシルトブロックを含む。
- 41号土壌出土遺物



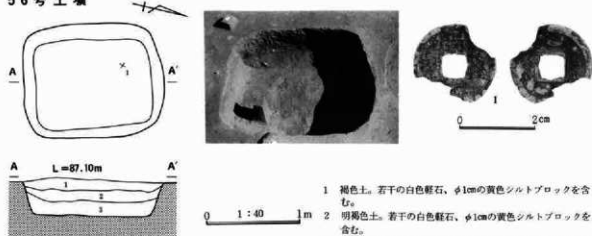
43号土壌出土遺物

0 1:2 5cm

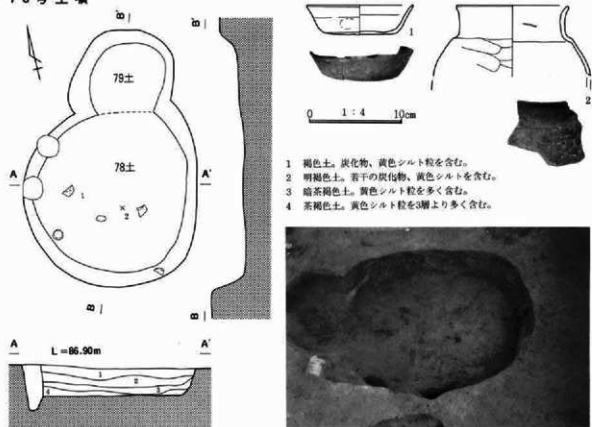
47号土埴



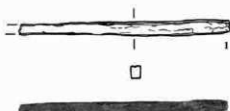
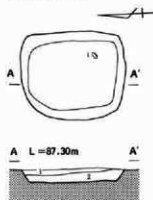
56号土埴



78号土埴



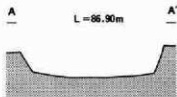
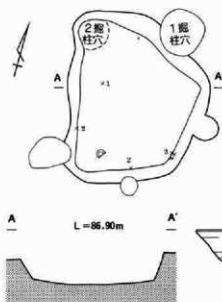
65号土坑



- 1 暗褐色土。砂質。
- 2 褐色土。砂質。

0 1:2 5cm

83号土坑

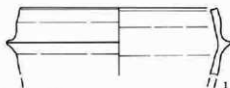
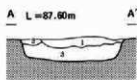
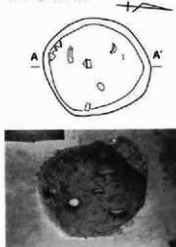


0 1:40 1m



0 1:4 10cm

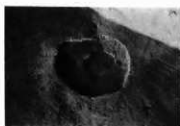
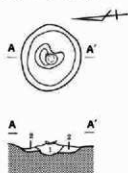
92号土坑



- 1 褐色土。明黄褐色シルトブロック、Hr-FP粒を多く含む。
- 2 褐色土。1層と同様であるが晩土ブロックを含む(おそらく4位埋造部分)。
- 3 にぶい黄褐色土。1層と同様であるがやや黒色味が強い。



130号土壌

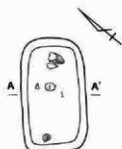


0 1:4 10cm



- 1 にぶい黄褐色土。明黄褐色軽石粒をやや多く含む。
- 2 褐色土。明黄褐色軽石粒を少量含む。

146号土壌

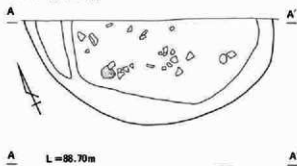


- 1 暗褐色土。砂質で、Hr・FP微粒が層全体に若干認められる。

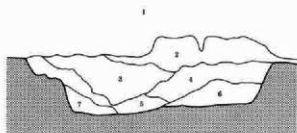
L=87.50m

0 1:40 1m

170号土壌



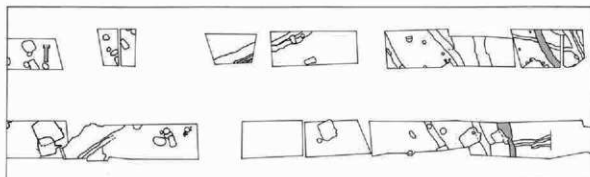
L=88.70m



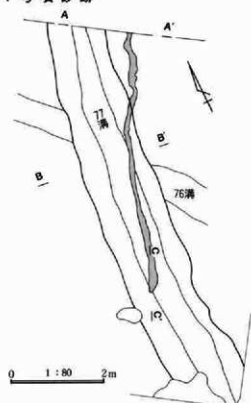
- 1 現代の盛土。
- 2 暗褐色土。やや砂質。
- 3 黒褐色土。やや砂質で、暗褐色土塊を多く含む。
- 4 暗褐色土。ほとんど均質。
- 5 暗褐色土。地山の褐色シルト塊、黒褐色土塊を含む。
- 6 褐色土。地山のシルト塊、黒褐色土塊を含む。
- 7 暗褐色土。地山のシルト細砂塊を多量に含む。



噴砂跡

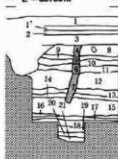


1号噴砂跡



2号溝に切れ、北-15°-東に走る幅約10cmの地割れ跡とその下部の噴砂跡を、調査区中央部から北端部の長さ約5mにわたって検出した。南端部の2号溝内では地割れ下部の噴砂が途切れ、北部の地割れ内上部は噴砂ではなく、シルト質の褐色土が充ちているのが確認された。噴砂南端部の縦断面(C-C')によれば、噴砂が地山内部を下部から斜め上方に侵入している様子が看取され、末端部に向かうに従って細粒化することが認められた。北端部の横断面(A-A')によれば、噴砂は直下部に連続せず、また発生時の表面までは到達しておらず、地割れの上部には、旧表土からの崩落土が充ちていた。また、中央部の断面(B-B')では、下部の砂層に液状化による乱れが認められ、噴砂がほぼ垂直に立ち上がっている様子が窺えた。上述の地割れと噴砂の状況から、中央部の下部砂層で地震に起因する液状化が発生し、地山基底部の等高線に沿った小規模な地滑りに伴う地割れと噴砂が生じ地割れと噴砂は南北方向に扇状に広がり、南端部は調査区内に留まり、噴砂は、少なくとも本調査区内では発生時の表面に達しなかったものと考えられる。本噴砂跡は3号噴砂跡と規模・走向等が類似することから、成因となった地震は同一であると推定される(飯島義雄)。

A L=88.50m

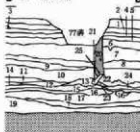


0 1 : 80 2m

- A'
- 1 褐色土。瓦礫含む表土。
 - 1' にぶい黄褐色土。褐色シルトブロック、明黄褐色軽石含む。
 - 2 褐色土。Hr-FP小粒、明黄褐色軽石含む。
 - 3 にぶい黄褐色土。Hr-FP小粒、明黄褐色軽石含む。
 - 4 褐色土。シルト質で、明褐色シルトブロック、明褐色軽石含む。
 - 5 にぶい黄褐色土。シルト質。
 - 6 褐色土。シルト質。
 - 7 にぶい黄褐色土。砂質。
 - 8 にぶい黄褐色土。シルト質。
 - 9 にぶい黄褐色土。シルト質。
 - 10 褐色土。シルト質。
 - 11 褐色土。シルト質。
 - 12 にぶい黄褐色土。シルト質。
 - 13 黄褐色土。シルト質。
 - 14 灰黄褐色砂層。
 - 15 褐色土。シルト質。
 - 16 にぶい黄褐色土。シルト質。
 - 17 褐色土。シルト質で、にぶい黄褐色シルトブロック含む。
 - 18 にぶい黄褐色土。シルト質で、にぶい黄褐色シルトブロック含む。
 - 19 にぶい黄褐色土。シルト質で、にぶい黄褐色シルトブロック含む。
 - 20 黄褐色土。19層に類似するが、やや砂質。
 - 21 にぶい黄褐色砂層。



B L=87.90m



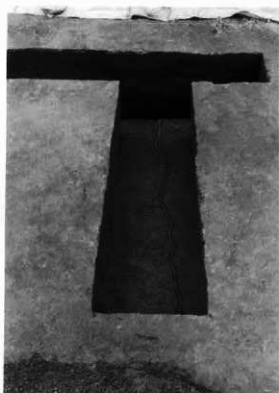
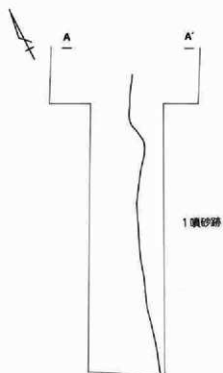
- B'
- 1 褐色土。シルト質。
 - 2 にぶい黄褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 3 褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 4 にぶい黄褐色土。2層に類似するが黄色味が強い。
 - 5 にぶい黄褐色土。5層に類似するが、灰黄褐色シルトブロックが少ない。
 - 6 暗褐色土。シルト質で、少量の灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 7 にぶい黄褐色土。5層に類似。
 - 8 黄褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 9 灰黄褐色土。砂質で、黄褐色シルトブロック含む。
 - 10 褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 11 にぶい黄褐色砂層。砂質で、褐色シルトブロック含む。
 - 12 黄褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 13 にぶい黄褐色土。砂質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 14 褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 15 にぶい黄褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 16 にぶい黄褐色砂層。砂質で、にぶい黄褐色シルトブロック含む。
 - 17 黄褐色土。シルト質で、灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 18 黄褐色土。20層に類似するが、砂質気味。
 - 19 にぶい黄褐色砂層。
 - 20 黄褐色土。シルト質で、少量の灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 21 にぶい黄褐色砂層。24層に類似するが、粒子が細かい。
 - 22 黄褐色土。シルト質で、少量の灰黄褐色シルトブロック含む。
 - 23 黄褐色土。27層に類似するが、やや砂質。
 - 24 暗褐色土。
 - 25 褐色土砂礫層。φ2~300mmの砂礫。



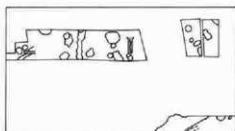
- C'
- 1 にぶい黄褐色土。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
 - 3 褐色土。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
 - 4 暗褐色土。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
 - 5 にぶい黄褐色土。2層にはほぼ類似。
 - 6 にぶい黄褐色土。灰黄褐色シルトブロックをやや多く含む。
 - 7 黄褐色土。灰黄褐色シルトブロックを少量含む(噴砂)。
 - 8 にぶい黄褐色砂層。粒子粗い砂層(噴砂)。



2号噴砂跡



- 1 暗褐色土。部分的に白色軽石(Hr-FP?)を含む。
- 2 褐色中粒砂層。
- 3 褐色シルト～細粒砂層。
- 4 暗褐色粘質土層。鉄分の凝集と思われる斑点あり。
- 5 褐色粘質土層。
- 6 褐色土層。灰黄褐色の軽石を多量に含む。As-Cと思われる。
- 7 暗褐色土。やや砂質。
- 8 灰黄褐色土。細粒砂。
- 9 灰黄褐色土。中粒砂。このあたりから噴砂が吹き出していると思われる。

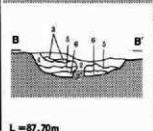
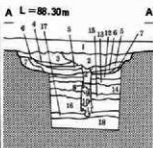


3号噴砂跡

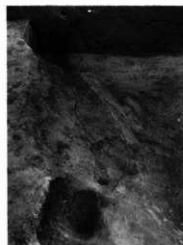
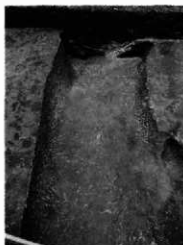
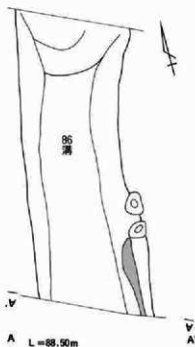
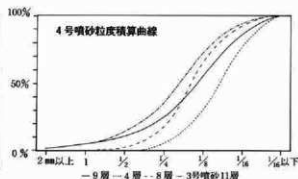
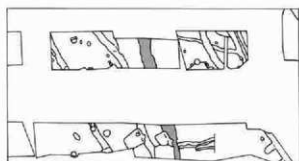
81号溝の中央部で、溝の走向にほぼ平行した幅約15cmの地割れ跡を、長さ4mにわたって検出した。地割れ跡の下位には噴砂が認められることから、この地割れは地震に起因するものと考えられる。地割れ跡の内部には、81号溝に帰属すると考えられる土師器壺が地割れに落ち込んだ状態で出土し、これは4世紀後半に比定できる。地割れの噴砂が溝の覆土を切っていること、地割れの上位が溝の覆土に近似した土で埋没していることから、地割れの原因となった地震は溝の年代より後出する。また、10世紀後半に比定できる48号住居が、この溝の覆土と地割れの覆土を切って構築している土層断面の所見を得たことから、これらは81溝→地割れ跡(地震)→48住居の順を示し、この新旧関係はそれぞれの遺構に伴出する土器の型式が示す順序とも矛盾しない。したがって、地割れの成因となった地震は、81号溝の年代を上限とし、48号住居の年代を下限とする4世紀から10世紀後半の年代幅のなかに位置付けることができ、弘仁9(818)年の可能性が高い(89頁・48号住居、169頁・81号溝参照 井上昌美)。



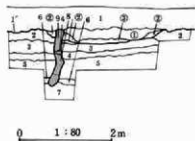
- 1 現表土。やや砂質で、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土。シルト質で、白色～黄褐色の軽石粒を含む。
- 2' 暗褐色土。点線以下の色調は暗く、2層と3層が混じっているようである。
- 3 暗褐色土。シルト質で、ほとんど均質。
- 4 褐色土。シルト質、細粒砂の塊を含む。
- 5 暗褐色土。シルト質、黄褐色シルト(地山)塊を壁際に含む。
- 6 にぶい黄褐色土。中粒～粗粒、砂層底部は地山のシルト層と乱れる。
- 7 暗褐色土。シルト、黄褐色シルト(地山)塊を含む。
- 8 暗褐色シルト。砂まじり地山の13層が主体と思われる。
- 9 褐色土。極細粒砂、黒褐色土塊を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土。中粒砂、黒褐色土塊を少量含む。
- 11 10層と同じだが、黒褐色土塊を多量に含む。
- 12 褐色シルト。ほとんど均質。
- 13 黒褐色シルト。上下の層との境は不明瞭。
- 14 極細粒砂。ほとんど均質。
- 15 暗褐色シルト。やや粘性。
- 16 褐色極細粒砂。
- 17 にぶい黄褐色砂。均質。
- 18 暗褐色シルト。やや粘性。



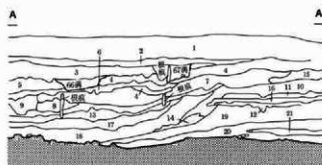
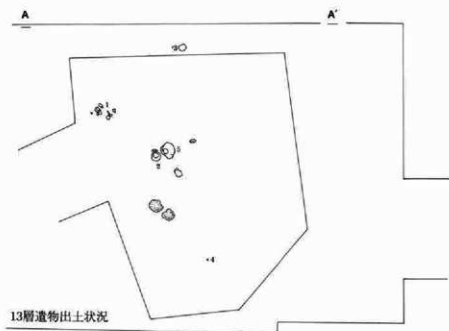
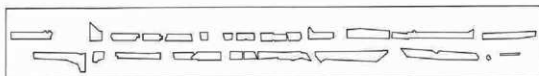
86号溝の東壁に沿って、幅約15cmの地割れ跡とその下部の噴砂跡を、長さ1.7mにわたって検出した。これは3号噴砂跡と一通のものと考えられる。調査区南端の断面(A-A')では、噴砂の供給源の砂層は確認できなかった。また、噴砂は発生時の地表面までは達しておらず、地山の4層を押し上げたところで止まっており、その上部は旧表土から崩落したと考えられる土で埋没していた。この噴砂と地割れの跡の4・8・9層、および3号噴砂跡の最下部層(11層)について粒度分析を行った(下図)。その結果、4号噴砂の8層は粒径 $1/4\text{mm} \sim 1/8\text{mm}$ が全体の60%を占め、同一の噴砂と考えられる3号噴砂の最下部層と比較すると、淘汰が良く細粒であることがわかる。また、地割れ部分に旧表土から崩落したと考えられる9層は、8層に比べ淘汰が悪く粒度が粗い。このことから、9層は噴砂に由来するものではないと判断できる(井上昌美)。



- | | | |
|---------------------|-------------|---------------------|
| ① 暗褐色土。シルト質。 | 1 現表土。 | 5 黄褐色細粒砂。 |
| ② 褐色土。シルト質。 | 1' 現表土。耕作痕。 | 6 褐色シルト。 |
| ③ 暗褐色土。中～粗粒砂を多量に含む。 | 2 褐色細粒砂。 | 7 褐色中粒砂。 |
| | 3 褐色極細粒砂。 | 8 黄褐色細粒砂。下部ほど粒度が粗い。 |
| | 4 暗褐色シルト。 | 9 暗褐色土。 |



遺物包含層



- 1 耕作土および盛土。
- 2 耕作土および盛土。
- 3 灰褐色土。多量のAs-Bを含み、下部に鉄分が沈着。
- 4 黄褐色土。少量のHr-FP粒含む。
- 5 灰褐色土。3層より砂質。
- 6 褐色土。全体にHr-FP粒含む。
- 7 黒褐色土。Hr-FP粒含む。
- 8 褐色土。砂、Hr-FP粒、黄褐色土の互層。
- 9 褐色土。砂質で、Hr-FP粒含む。
- 10 暗褐色土。Hr-FP粒、黄褐色土ブロック含む。
- 11 黄褐色土。砂質で、少量のAs-C含む。
- 12 暗褐色土。多量のAs-C含む。
- 13 黒褐色土。少量のHr-FP粒含む。
- 14 暗褐色土。砂質。
- 15 黄褐色土。砂質。
- 16 褐色土。多量のAs-C ?含む。
- 17 暗褐色土。粘質。
- 18 黄褐色土。粘質。
- 19 灰褐色土。砂質。
- 20 褐色土。やや粘質。
- 21 黄褐色土。砂質。
- 22 礫層。



L=88.70m
0 1:80 2m

浅間B軽石(A_s-B)層に覆われた平安時代の水田面の下層より、第7層と第13層の2面の遺物包含層を検出した。いずれも遺物が出土するのみで、関連する遺構は検出できない。

第7層は標高約87.1mで、土師器の埴と坏が出土している。伴出する土器間に型式差は認められず、同時期の可能性が高い。土器の特徴から5世紀後半代に比定できる。

第13層は標高約86.7mで、土師器の壺・甕・坏・高坏が出土し、これらも伴出する土器間に型式差が認められない。壺(2)の体部中に焼成後の穿孔があることから、なんらかの墓に伴う供献土器の可能性があるが、関連する遺構は確認できない。土器の特徴から4世紀後半代に比定できる。

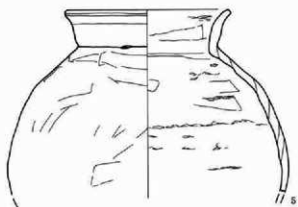
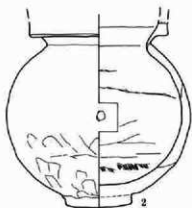
7層出土遺物



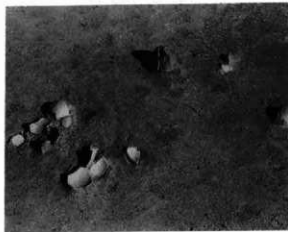
13層出土遺物



0 1:4 10cm



0 1 : 4 10cm



Ⅶ 考 察

野中天神遺跡の集落変遷について

1 はじめに

野中天神遺跡では、古墳時代後期と奈良・平安時代の竪穴住居51軒を検出した。このうち、古墳時代後期の住居は1軒を検出したのみで、この遺跡における竪穴住居を主体とした集落は、奈良・平安時代にはほぼ限定される。ところで、この遺跡が立地する広瀬川低地帯はかつての利根川の流路である。このため、従来この低地帯には遺跡が存在しないと考えられていた。しかし、近年の発掘調査によってこの低地帯ではいくつかの遺跡が確認され、この地域における古代集落の動向を検討する資料は次第に蓄積されつつある。

したがって、ここでは広瀬川低地帯における古代集落の動向を把握するための一資料として、この野中天神遺跡の集落の変遷について検討してみたい。

2 土器の分類と編年

野中天神遺跡の集落の変遷を検討する前提として、ここでは竪穴住居に伴出する土器群の分類を行い、これを筆者がかつて示した土器の編年に同定することで年代の基準としたい。

I 期 (51号住居)

体部が彎曲する土師器杯と、体部と口縁部を画す段差から外反する口縁部に至る土師器杯の形状が、筆者が示した古墳時代後期の土器の編年のⅢ～Ⅳ段階に比定でき、6世紀前半に位置付けられる。

II 期 (24号住居)

彎曲した体部の土師器杯と、大きく外反する体部の須恵器杯の形状が、筆者らが示した奈良・平安時代の土器の編年(以下同様)のⅤ～Ⅵ段階に比定でき、8世紀後半に位置付けられる。

III 期 (20・23号住居)

平底で外反する土師器杯と、膨らみの少ない胴部から外彎気味の口縁部に至る土師器壺の形状が、Ⅶ～Ⅷ段階に比定でき、9世紀前半に位置付けられる。

IV 期 (10・13号住居)

平底で外反する土師器杯、膨らみの少ない胴部から「コ」の字状の口縁部に至る土師器壺、平底から大きく外反する須恵器杯などの形状がⅨ～Ⅹ段階に比定でき、9世紀後半に位置付けられる。

V 期 (36・39号住居)

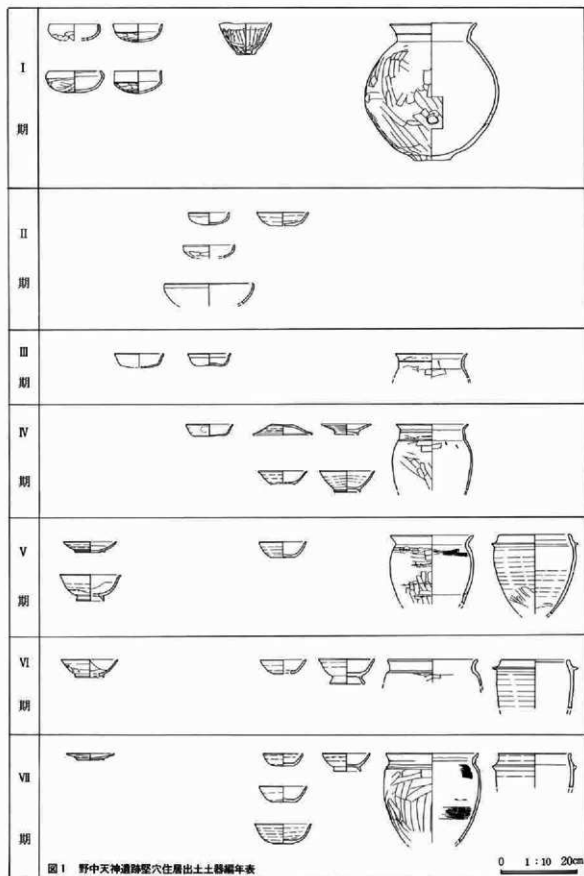
器内が厚く、「く」の字状の口縁部をもつ土師器壺、平底から大きく外反する須恵器杯、彎曲する胴部から内傾する口縁部に至る須恵器羽釜の形状がⅪ段階に比定でき、10世紀前半に位置付けられる。伴出する灰釉陶器は、大原2号窯式に比定できる。

VI 期 (4・48号住居)

器内が厚く、「く」の字状の口縁部をもつ土師器壺、平底から大きく外反する須恵器杯、膨らみの少ない胴部からやや内傾する口縁部に至る須恵器羽釜の形状がⅫ段階に比定でき、10世紀後半に位置付けられる。伴出する灰釉陶器は、虎浜山1号窯式に比定できる。

VII 期 (32号住居)

「く」の字状の口縁部をもつ土師器壺、平底から大きく外反する須恵器杯、膨らみの少ない胴部から直立



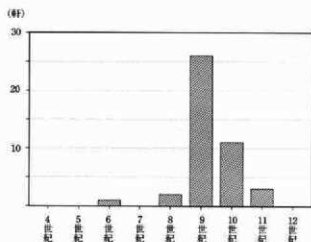


図2 野中天神遺跡竪穴住居編年図

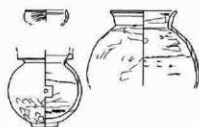


図3 4世紀代の土器



図4 5世紀代の土器

気味の口縁部に至る須恵器羽釜の形状がⅫ段階に比定でき、11世紀前半に位置付けられる。伴出する灰軸陶器は、虎渓山1号窯式に比定できる。

野中天神遺跡	坂口編年	須恵器型式	灰軸陶器窯式	実年代
I 期	古墳時代後期 Ⅲ～Ⅳ段階	MT-15 ～TK-10		6世紀前半
II 期	奈良・平安時代 V～Ⅵ段階			8世紀後半
III 期	Ⅶ～Ⅷ段階			9世紀前半
IV 期	Ⅸ～Ⅹ段階			9世紀後半
V 期	Ⅺ 段階		大原2号窯式	10世紀前半
VI 期	Ⅻ 段階		虎渓山1号窯式	10世紀後半
VII 期	Ⅻ 段階		虎渓山1号窯式	11世紀前半

4 竪穴住居の変遷

野中天神遺跡では、6世紀前半に出現した竪穴住居が9世紀後半で最も増加し、11世紀代で消滅するという過程を辿ることができる(図2)。これらの住居は、比較的平坦な広瀬川低地帯の微高地上に占地し、平安時代の水田を検出した遺跡の西端には僅かな数の住居しか立地していない。

ところで、この遺跡では竪穴住居としては6世紀以前のものは検出できなかったが、2層の遺物包含層から4世紀後半と5世紀後半に位置付けられる土器群を検出した(図3・4)。これらは、この付近にこの時期の遺構が存在することを暗示している。また、近接する石関西梁瀬遺跡では古墳時代中期まで遡る時期の竪穴住居が検出され、この遺跡でも表面採集の資料で4世紀代の土器が検出されている。

以上のことから、野中天神遺跡では6世紀以降の住居しか確認できなかったが、この地域では年代が古墳時代前期の4世紀代まで遡る遺構が存在する可能性が高い。したがって、かつては遺跡が存在しないと考えられていたこの広瀬川低地帯上における遺跡の分布や集落の動向を考える上で、これらの現象を踏まえた分析が必要であるといえよう。

- (1) 坂口 一 「古墳時代後期の土器の編年」-三ツ寺遺跡を中心とした土器と須恵器の平行関係- 『群馬文化』第308号 群馬県地 域文化研究協議会 1986
- (2) 坂口 一・三浦京子 「奈良・平安時代の土器の編年」-住居の重複と共存関係による土器型式系列の検討- 『群馬県史研究』第24号 群馬県史編さん委員会 1986

遺構索引表

竪穴住居

住居 番号	掲載頁	遺物 観察表	グリッド	規模・形状	柱穴	竈	面積(m ²)	方位	年代	
1	6	1	BK-78	超小形正方形	無主柱	東壁	測定不可能	+108°	9世紀前半	
2	8	-	BV-105		無主柱	東壁中	6.85(推)	+86°	不明	
3	9	-	BW-103		無主柱	不明	測定不可能	+93°	不明	
4	10	1	BV-105		無主柱	東壁南	測定不可能	+83°	10世紀後半	
5	14	2	AM-28		無主柱	東壁	測定不可能	+113°	10世紀後半	
6	18	3	AO-30		無主柱	不明	測定不可能	+105°	9世紀後半	
7	18	3	AO-30		無主柱	東壁	測定不可能	+141°	10世紀後半	
8	14	3	AM-28		無主柱	東壁	測定不可能	+93°	9世紀後半	
9	20	3	AK-23		無主柱	東壁	測定不可能	+103°	9世紀後半	
10	21	3	AS-30	超小形正方形	無主柱	東壁	8.83(推)	+116°	9世紀後半	
11	23	4	AT-30		無主柱	東壁	測定不可能	+110°	9世紀後半	
12	23	4	AT-30		無主柱	東壁	測定不可能	+110°	10世紀前半	
13	25	4	AR-28		無主柱	東壁	測定不可能	+116°	9世紀後半	
14	28	6	AN-18		超小形縦長長方形	無主柱	東壁南	5.97	+87°	9世紀前半
15	30	6	AO-20			無主柱	東壁	測定不可能	+84°	9世紀前半
16	32	6	AR-26			無主柱	不明	測定不可能	+92°	9世紀後半
17	34	7	AQ-26			無主柱	東壁	測定不可能	+80°	9世紀後半
18	36	7	AO-22			無主柱	東壁	測定不可能	+89°	8世紀後半
19	37	7	AS-29	無主柱		不明	測定不可能	測定不可能	9世紀後半	
20	38	7	AR-29	無主柱		東壁	測定不可能	+103°	9世紀前半	
21	40	8	AS-29	無主柱		不明	測定不可能	+106°	9世紀後半	
22	欠番									
23	43	9	AN-17	無主柱	東壁	測定不可能	+93°	9世紀前半		
24	45	9	AQ-27	無主柱	東壁	測定不可能	+104°(推)	8世紀後半		
25	47	-	AQ-24	-	-	測定不可能	測定不可能	9世紀後半		
26	48	10	AJ-09	無主柱	東壁南	測定不可能	+87°	9世紀後半		
27	50	-	AG-15	超小形縦長長方形 小形縦長長方形	無主柱	東壁南	6.46	+131°	不明	
28	51	10	AI-08		無主柱	不明	13.68(推)	+71°	9世紀前半	
29	53	11	AH-08		無主柱	不明	測定不可能	+89°	9世紀後半	
30	54	11	AH-07		無主柱	不明	測定不可能	+78°	9世紀後半	
31	55	11	AJ-09		無主柱	東壁中	測定不可能	+70°	9世紀後半	
32	57	12	AX-52		無主柱	東壁南	測定不可能	+78°	11世紀前半	
33	61	-	AY-52		無主柱	不明	測定不可能	測定不可能	不明	
34	62	12	AY-51		無主柱	不明	測定不可能	測定不可能	10世紀後半	
35	63	12	AW-50		無主柱	東壁	測定不可能	+87°	11世紀前半	
36	66	13	AX-50	超小形縦長長方形	無主柱	東壁南	7.54	+89°	10世紀前半	

住居 番号	掲載頁	遺物 観察表	グリッド	規模・形状	柱穴	寛	面積(m ²)	方位	年代	
37	69	13	AV-49	小形縦長長方形	無主柱	東壁	測定不可能	+85°	10世紀後半	
38	72	13	AV-36		無主柱	不明	測定不可能	+93°	9世紀後半	
39	74	14	AW-35		無主柱	東壁	測定不可能	+107°	10世紀前半	
40	76	14	AU-34		無主柱	東壁	測定不可能	+99°	9世紀前半	
41	78	14	AU-34		無主柱	東壁	測定不可能	+101°	10世紀後半	
42	80	-	AT-33		無主柱	不明	測定不可能	+106°(推)	不明	
43	81	14	AT-31		無主柱	東壁	測定不可能	+96°	9世紀後半	
44	83	15	BD-61		無主柱	東壁中	10.97(推)	+87°	10世紀後半	
45	86	-	BD-62		無主柱	不明	測定不可能	+98°(推)	不明	
46	87	15	BD-61		無主柱	不明	測定不可能	+105°	不明	
47	88	-	BF-57		無主柱	東壁	測定不可能	+88°	不明	
48	89	15	BC-60		小形横長長方形	無主柱	東壁南	8.01(推)	+88°	10世紀後半
49	91	16	BG-67		小形横長長方形	無主柱	東壁中	10.15	+96°	11世紀前半
50	93	16	BL-80		小形横長長方形	無主柱	東壁南	11.16	+101°	9世紀後半
51	95	16	BM-80	中形正方形	無主柱	東壁南	23.18(推)	+93°	6世紀前半	
52	98	17	BN-82		無主柱	東壁	測定不可能	+104°	9世紀後半	

掘立柱建物

掘立 番号	掲載 頁	遺物 観察表	グリッド	棟走向	柱間	短軸 (m)	長軸 (m)	面積 (m ²)	方位	重 復
1	100	-	AS-28	E-W	不 明	4.2	-	-	+61°	2号掘立・13・19・20・21号住
2	101	-	AS-28	E-W	2×2	2.4	4.0	9.60	+55°	1号掘立・13・19・20・21号住
3	102	-	AR-28	E-W	1×1	2.4	2.8	6.72	+54°	4号掘立・13・21号住
4	103	-	AR-28	N-S	1×2	2.4	4.6	11.04	+54°	3号掘立・13・21号住
5	104	-	AO-21	E-W	不 明	-	-	-	+61°	15号住
6	105	-	AN-19	N-S	不 明	-	-	-	-8°	

井戸

井戸 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	遺 物	井戸 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	遺 物
1	120	19	AL-26	土師器・須恵器	3	123	-	AO-20	
2	121	19	AQ-25	土師器・須恵器・石製品・鉄器	4	123	-	BT-86	

土 壤

土壌 番号	掲載 頁	観察 表紙	グリ ッド	形状	規 模 (mm) 短軸・長軸・深さ	遺 物	土壌 番号	掲載 頁	観察 表紙	グリ ッド	形状	規 模 (mm) 短軸・長軸・深さ	遺 物
1				C1-115 長方形	1.0×1.3×0.4		39				AJ-22 長方形	1.1×2.7×0.2	
2				C1-114 長方形	1.0×1.3×0.2		40				AS-28 円形	0.8×0.8×0.1	
3				C1-114 長方形	1.0×1.8×0.1		41	170	35		AS-29 長方形	1.3×1.8×0.7	土師器
4				CH-109 長方形	1.1×1.9×0.2		42				AS-29 長方形?		
5				CJ-114 長方形	0.6×1.5×0.2		43	170	35		AR-29 長方形?		鉄器
6				C1-111 長方形	0.7×1.3×0.1		44				AS-28 長方形	0.6×1.2×0.2	
7				CH-109 長方形	1.4×1.6×0.2		45				AS-28 長方形	0.8×1.3×0.3	
8				CG-109 長方形	1.1×2.7×0.3		46				AS-27 長方形	0.6×0.9×0.2	
9				CJ-113 長方形	0.5×1.1×0.2		47	171	35		AS-27 長方形	1.1×1.4×0.3	須恵器
10				CH-110 長方形	0.8×2.2×0.3		48				AR-28 ?		
11				CH-110 長方形	0.9×2.6×0.5		49				AR-28 長方形	0.6×0.9×0.1	
12				CH-112 長方形	0.8×2.3×0.2		50				AR-27 長方形	0.9×1.1×0.6	
13				CJ-115 長方形	0.6×1.1×0.2		51				AR-25 長方形	1.0×1.4×0.2	
14				CH-108 長方形	1.2×2.6×0.2		52				AR-25 長方形	0.8×1.2×0.2	
15				CJ-115 長方形	1.0×1.2×0.3		53				AR-27 長方形	0.9×1.5×0.4	
16				CH-111 長方形	0.6×0.9×0.2		54				AR-27 長方形?		
17				BS-83 円形	1.0×1.1×0.2		55				AP-23 長方形	1.8×2.9×0.5	
18				BS-83 円形	1.3×1.3×0.3		56	171	35		AO-20 長方形	1.2×1.5×0.4	古鏡
19				BJ-74 長方形	1.1×1.2×3.0		57				AN-19 長方形	0.9×1.5×0.2	
20				BK-75 長方形	0.9×1.6×0.3		58				AN-19 長方形	1.0×2.1×0.2	
21				BJ-75 長方形	1.2×2.3×0.4		59				AN-19 円形	1.3×1.3×0.2	
22				BK-75 長方形	0.6×0.7×0.3		60				AN-19 長方形	0.7×1.1×0.2	
23				BJ-75 長方形	1.8×2.8×0.2		61				AN-18 長方形	0.6×1.6×0.3	
24				BL-76 ?			62				AO-22 長方形	0.9×0.8×0.3	
25	170	34		BK-75 長方形	0.5×0.6×0.1	土師器	63				AO-20 長方形	1.0×1.1×0.2	
26				BK-75 長方形	1.2×1.3×0.4		64				AN-19 長方形	0.8×1.1×0.4	
27				BX-105 長方形	1.1×1.9×0.3		65	172	35		AN-17 長方形	0.9×1.1×0.2	鉄器
28				BY-105 長方形	0.9×1.4×0.2		66				AN-17 円形	1.2×1.2×0.1	
29				BY-107 長方形	0.8×2.1×0.2		67				AM-18 長方形		
30				CA-108 長方形	0.4×1.0×0.2		68				AN-20 長方形		
31				CA-109 円形	1.2×1.2×0.3		69				AM-18 長方形	0.7×—×0.2	
32				AO-33 長方形	0.9×1.2×0.3		70				AM-17 長方形	0.9×1.8×0.5	
33				AM-30 長方形?			71				AN-17 長方形?		
34				AN-29 長方形	1.2×2.0×1.0		72				AN-19 長方形	1.1×—×—	
35				AI-20 ?			73				AN-19 長方形	0.7×1.2×0.2	
36				AJ-21 長方形	0.9×1.9×0.3		74				AN-18 長方形?		
37				AK-22 長方形?			75				AO-22 長方形?		
38				AK-22 長方形	0.6×1.0×0.3		76				AO-20 長方形	1.4×2.3×0.3	

土曜 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	形状	規 模 (m) 短軸・長軸・深さ	遺 物	土曜 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	形状	規 模 (m) 短軸・長軸・深さ	遺 物
77			AO-20	?			115			AV-37	円形	0.8×0.8×0.2	
78	171	35	AS-28	円形	1.9×2.0×0.3	土器器	116			AW-36	円形	0.7×0.7×0.1	
79	171		AS-28	?			117			AW-36	円形	0.7×0.7×0.1	
80			AR-27	長方形	1.0×1.2×0.2		118			AW-36	円形	0.6×0.6×0.1	
81			AR-27	長方形	1.0×4.1×0.5		119			AV-37	円形	1.2×1.2×0.1	
82			AR-26	?			120			AV-36	円形	1.1×1.1×0.2	
83	172	35	AR-28	長方形	1.5×1.8×0.3	土器器 須恵器	121			AV-35	円形	1.0×1.0×0.2	
84			AP-24	長方形?			122			AV-35	円形	1.0×1.0×0.2	
85			AI-9	円形	1.0×1.0×0.1		123			AV-35	円形	0.7×0.7×0.1	
86			AI-9	円形	1.1×1.1×0.2		124			AV-35	円形	0.9×0.9×0.2	
87			AI-7	長方形	0.7×1.4×0.1		125			AW-35	長方形	0.9×1.0×0.2	
88			AI-7	長方形	0.8×1.3×0.4		126			AV-35	円形	0.9×0.9×0.1	
89			AI-9	?			127			AV-35	円形	0.7×0.8×0.2	
90			AX-51	円形	1.1×1.1×0.1		128			AV-35	円形	0.8×0.8×0.1	
91			AX-49	円形	1.1×1.2×0.1		129			AV-35	円形	1.0×1.0×0.2	
92	172	35	AV-48	円形	1.0×1.1×0.3	須恵器	130	173	35	BA-41	円形	0.7×0.7×0.1	土器器
93			AV-48	長方形	0.9×1.3×0.2		131			AV-37	?		
94			AW-48	?			132			AW-36	円形?		
95			AV-46	円形	1.0×1.1×0.2		133			AW-36	円形	1.0×1.0×0.2	
96			AV-46	円形	1.1×1.1×0.1		134			AU-34	円形	1.0×1.0×0.2	
97			AU-46	円形	0.9×1.0×0.3		135			AU-33	円形	0.8×0.8×0.1	
98			AT-41	円形	1.0×1.0×0.1		136			AU-33	円形	0.9×0.9×0.3	
99			AX-53	?			137			AT-33	?		
100			AU-46	?	—×—×0.3		138			AT-32	円形	0.9×0.9×0.1	
101			AR-41	?			139			AU-32	円形	0.8×0.8×0.1	
102			AX-50	長方形	0.6×0.8×0.5		140			AW-36	円形?		
103			AY-44	?			141			AV-36	?		
104			BB-43	?			142			AU-32	?		
105			AY-42	長方形	0.6×0.8×0.5		143			BF-51	?		
106			AY-41	長方形	0.6×1.0×0.1		144			BD-48	円形	1.0×1.1×0.3	
107			AX-38	円形	1.1×1.1×0.3		145			BC-49	四角形	0.9×0.9×0.2	
108			AW-38	円形	1.0×1.0×0.9		146	173	35	BC-49	長方形	0.7×1.2×0.1	須恵器
109			AW-38	円形	0.8×0.8×0.1		147			BV-100	円形	0.6×0.7×0.2	
110			AW-38	長方形	0.6×1.0×0.2		148			BT-95	長方形	0.7×0.8×0.1	
111			AW-38	円形?			149			CC-100	円形	1.0×1.0×0.2	
112			AW-37	長方形	0.7×0.9×0.2		150			CB-100	円形	1.1×1.1×0.2	
113			AX-37	?			151			BL-68	四角形	1.3×1.3×0.3	
114			AW-37	長方形	0.6×0.8×0.1		152			BL-67	長方形	0.8×1.7×0.1	
							153			BL-67	長方形	1.1×1.6×0.2	

土壌 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	形状	規 模 (m) 短軸・長軸・深さ	遺 物	土壌 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	形状	規 模 (m) 短軸・長軸・深さ	遺 物
154			BK-67	長方形	1.3×2.1×0.1		174			BQ-79	円 形	0.9×0.9×0.4	
155			BL-66	長方形	0.8×1.0×0.5		175			BQ-79	四角形	2.4×2.6×0.1	
156			BE-64	円 形	0.9×0.9×0.1		176			BQ-80	長方形	1.4×1.7×0.4	
157			BE-64	長方形	0.8×1.6×0.1		177			BR-81	長方形	0.7×2.9×0.1	
158			BE-63	円 形	1.1×1.1×0.2		178			BR-82	長方形	1.9×1.4×0.2	
159			BE-62	円 形	1.2×1.2×0.1		179			BR-81	?		
160			BE-63	?			180			BO-75	長方形	1.0×2.2×0.6	
161			BX-93	長方形	0.5×0.8×0.1		181			BP-74	?		
162			BX-92	長方形	0.5×0.7×0.1		182			BP-74	?		
163			BX-95	?			183			BO-75	長方形	0.8×1.6×0.4	
164			BI-62	?			184			BO-75	円 形	0.9×0.9×0.2	
165			BJ-62	?			185			BP-75	円 形	1.1×1.2×0.2	
166			BI-61	四角形	0.7×0.8×0.1		186			BO-75	?		
167			BJ-63	長方形?			187			AY-55	長方形?		
168			BF-56	?	0.9×1.1×0.2		188			AY-55	長方形		
169			BE-54	円 形	0.6×0.6×1.0		189			BA-55	長方形	0.4×0.5×0.2	
170	173	36	BS-82	円 形?		土師器	190			BG-67	円 形	0.9×1.0×0.2	
171			BP-79	長方形	0.9×1.3×0.6		191			BG-68	円 形	0.9×0.9×0.1	
172			BQ-79	長方形			192			BI-60	?		
173			BQ-79	長方形	1.0×1.0×0.2								

溝

溝 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	遺 物	溝 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	遺 物
1			BS-84		13			AH-19	軟質陶器・石製品
2			BL-79		14			AJ-21	
3			AL-78		15			AJ-21	土師器
4			AM-28		16			AI-19	
5	124	19	AO-32	軟質陶器・石製品	17			AP-24	
6	125		AP-31		18	126	—	AO-22	
7	125		AN-29		19	126	19	AP-22	土師器
8	126		AL-27		20			AQ-25	軟質陶器
9	125		AN-28		21			AQ-26	
10	126		AM-27		22			AL-14	
11	125	19	AL-26	鉄器	23			AK-14	須恵器
12			AL-25	軟質陶器・須恵器	24			AK-12	

講 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	造 物	講 番号	掲載 頁	観察 表頁	グリ ッド	造 物
25			AJ-12		55	167	-	BE-52	
26			AJ-11		56	167	33	BD-51	石製品
27	127	19	AJ-10	ロクロ土器器・須恵器・軟質陶器	57			BD-50	
		24		陶器・石製品・磁器	58			BD-50	
28	127	26	AH-7	須恵器	59	168	34	BC-48	須恵器・ロクロ土器器
29	139	26	AG-4	石製品・古銭・銅製品・鉄製品	60			BS-93	
		34		陶器・磁器・軟質陶器	61			BS-93	
30			AH-5		62			BS-93	
31			AH-7		63			BQ-90	
32			AG-6		64			BP-88	
33			BA-52		65			BR-92	
34			AV-47		66			BU-86	
35			AU-46		67			BU-85	
36			AT-45		68			BM-70	
37	166	-	AT-43		69			BM-68	
38			AS-40		70			BL-67	
39			AR-40		71			BE-63	
40			AR-39		72			BW-91	
41	166	34	AU-44	須恵器	73			BW-91	
42			AY-43		74			BH-70	
43			BA-43		75			BI-63	
44			AW-38		76			BH-57	
45			AW-36		77			BG-56	
46			AU-35		78			BE-54	
47			AU-32		79			BF-54	
48			AU-33		80			BF-54	
49			AU-33		81	169	34	BD-59	土師器
50			AV-35		82			BC-60	
51			AW-37		83			BC-59	
52			BA-44		84			BB-58	
53			BF-51		85			BA-55	
54	167	-	BE-51		86			BG-59	

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第201巻

野中天神遺跡

一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第4巻

平成8年2月27日 印刷

平成8年2月29日 発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社